ISSN 2186-7763

沖縄県薬剤師会報

No.283.　2016(平成28年)　8･9月号

沖縄県薬剤師会

薬剤師倫理規定

平成９年10月　日本薬剤師会改訂

前　文

薬剤師は、国民の信託により、日本国憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、人権の中でもっとも基本的な個人の生命・健康の保持促進に寄与する責務を担っている。

この責務の根底には生命への畏敬に発する倫理が存在するが、さらに、調剤をはじめ、医薬品の創製から供給、適正な使用に至るまで、確固たる薬（やく）の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、医療の向上及び公共の福祉の増進に貢献し、薬剤師職能を全うするため、ここに薬剤師倫理規定を制定する。

第１条（任務）

薬剤師は、個人の尊厳の保持と生命の尊重を旨とし、調剤をはじめ、医薬品の供給、その他の薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活の確保に努める。

第２条（良心と自律）

薬剤師は、常に自らを律し、良心と愛情をもって職能の発揮に努める。

第３条（法令等の遵守）

薬剤師は、薬剤師法、薬事法、医療法、健康保険法、その他関連法規に精通し、これら法令等を遵守する。

第４条（生涯研鑽）

薬剤師は、生涯にわたり高い知識と技能の水準を維持するよう積極的に研鑽するとともに、先人の業績を顕彰し、後進の育成に努める。

第５条（最善尽力義務）

薬剤師は、医療の担い手として、常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者の利益のため職能の最善を尽くす。

第６条（医薬品の安全性等の確保）

薬剤師は、常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努める。また、医薬品が適正に使用されるよう、調剤及び医薬品の供給に当たり患者等に十分な説明を行う。

第７条（地域医療への貢献）

薬剤師は、地域医療向上のための施策について、常に率先してその推進に努める。

第８条（職能間の協調）

薬剤師は、広範にわたる薬剤師職能間の相互協調に努めるとともに、他の関係職能をもつ人々と協力して社会に貢献する。

第９条（秘密の保持）

薬剤師は、職務上知り得た患者等の秘密を、正当な理由なく漏らさない。

第10条（品位・信用等の維持）

薬剤師は、その職務遂行にあたって、品位と信用を損なう行為、信義にもとる行為及び医薬品の誤用を招き濫用を助長する行為をしない。

／目／次／

薬剤師倫理規定

巻　頭　言　より良い地域医療の担い手を目指して……伊佐　常隆…（2）

学術研修　平成28年度新任・新人薬剤師研修会報告……外間　惟夫…（5）
新任・新人薬剤師研修会に参加して……石川有美子…（7）
平成28年度 第1回 薬剤師のための症例検討入門研修会報告……伊差川サヤカ…（8）
平成28年度 第2回 薬剤師のための症例検討入門研修会報告……外間　登…（10）

実務実習　平成28年度Ⅰ期薬学生実務実習報告……我喜屋美香…（12）
実務実習薬学生 平成28年度第Ⅰ期生からの体験記・感想……（13）
前田翼、登川敬宗、洲鎌はつえ、具志堅聖、宮城貴之、玉城祐太朗、比嘉さおり、伊礼ほたる
玉城佐穂里、大城英恵、姫野智子、山城のぞみ、湧田英恵、幸地茜、宮良遙奈

女性薬部会　平成28年度 女性薬剤師部会 第17回漢方講座報告……我如古伊都子…（22）
平成28年度 女性薬剤師部会 第18回漢方講座報告……与那覇乙梨恵…（23）

学薬部会　平成28年度（第44回）学校薬剤師部会総会・講演会報告……名嘉　紀勝…（24）

卸薬部会　平成28年度 日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部会報告……吉冨　弓江…（26）

啓発・普及活動　「しごとミュージアム」参加報告……大城　喜仁…（27）
平成28年度 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告……大城　喜仁…（28）
未来の産業人材育成事業「職業人講話」について……大城　喜仁…（29）
～久米島町立久米島西中学校での取組～……照屋　愛海…（29）
～竹富町立黒島中学校での取組～……照屋　愛海…（30）
～宮古教育事務所初任者研修での取組～……照屋　愛海…（31）
那覇市立鏡原中学校における職場体験学習……佐久本優太…（32）

その他会務報告　沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊……大城　喜仁…（34）

DI　薬事情報おきなわNo. 240……薬事情報センター…（35）

県民の皆様へ　あまくま薬立つ情報……（51）

薬草学　身近な薬草を知ろう 第27回 ハンダマ（水前寺菜：金時草）……狩俣　イソ…（52）

投稿　第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加して……砂川　智子…（54）

リレー随筆　漢方認定薬剤師……古謝さなえ…（55）

薬連だより　藤井選挙を振り返って 沖縄県薬剤師連盟 かく戦えり……亀谷　浩昌…（56）
藤井もとゆき参議院選挙に向けての活動報告……石川　恵市…（57）
藤井もとゆき激励会報告……上原　卓朗…（58）

転載記事　琉球新報こども新聞より転載「安全提供へ何度も確認」薬剤師職能紹介される…大城　喜仁…（60）
琉球新報より転載　論壇「子どもの貧困解決への一里塚」……亀谷　浩昌…（61）
沖縄タイムスより転載　論壇「薬用植物園の増設は有用」……与儀　和子…（62）
琉球新報より転載「熊本地震　義援金・支援」 多くの会員が復興のために支援されています…（63）
琉球新報より転載「なごみ会主催県民健康フェア広報」……（63）
沖縄タイムスより転載「わがまちの老舗」コーナーに“ぎのざ薬局”が紹介される…（64）
沖縄タイムスより転載「県内小規模離島で2店だけ」“あぐに薬局”が紹介される……（65）
沖縄タイムスより転載「国際ソロプチミスト沖縄：リーダーの育成に力」……（65）

警察通達　国際テロ対策「爆発物原材料を取り扱う事業者」向け合同訓練……（66）

会務報告　平成28年6月～8月分……（67）
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成28年6～7月分）……（73）

一包一話　8月・お盆の後先き……橋　の　下…（74）

会員作品　誌上ギャラリー（裏表紙）について……（76）

薬草園だより　ウコンの花……与儀　和子…（76）

職員人事　新入職員紹介（石川有美子さん、神山侑子さん）……（76）

編集後記　……（77）

おしらせ　くすりと健康フェア「県民公開講演会」のご案内……（3）
第30回沖縄県薬剤師会学術大会・沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会のご案内……（4）
学校薬剤師＆学校薬剤を希望の会員の皆様へ……学校薬剤師部会…（25）
県薬が会員に販売している印刷物等……（72）
会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について……（72）
会報原稿募集のご案内……（76）

・表紙

題字：豊平峰雲（とよひら ほううん）

「アスンシオンの薬局」photo by 吉田 久子　撮影地：パラグアイ

巻頭言

より良い地域医療の担い手を目指して

中部地区薬剤師会
会長　伊佐 常隆

中部地区薬剤師会（以下､中部地区薬）は、沖縄支部、宜野湾支部、うるま支部、嘉手納支部の4支部、3市3町5村からなり、約300名の会員から構成されています。平成10年に沖縄県立中部病院（以下、中部病院）から医薬分業が始まり、それに伴い先輩方々の尽力で会員の結束が強くなり、中部地区薬の組織作りが確立され、現在に至っている事に感謝しております。

私が中部地区薬の会長になり1年3ヶ月が経ちました。中部地区においては、狭いながらも新しい事務所に去年の3月に移転し、気分一新スタートをしました。

今年の4月に大幅な診療報酬改定があり、かかりつけ薬剤師、かかりつけ薬局、健康サポート薬局と今までに無かった制度が始まりました。患者、地域住民にこれまで以上に寄り添い、より細かいサービスが求められるようになり、薬剤師としての専門職能はもちろん、コミュニケーション能力、人に与える印象など、極端に言えば、性格、人間性までも個々の評価として求められる事になるでしょう。

中部地区薬では、かかりつけ薬剤師としての地域活動の一つである「健康とおくすり相談会」（以下、相談会）を、イオン琉球ライカムショッピングモールの協力のもと、役員はじめ会員皆で取り組み、盛大に開催することができました。通常行われている体組成成分分析器による測定、血圧測定、動脈硬化測定器による血管の弾力性チェックに加え、相談会としては初めてHbA1c測定も実施し、大勢の地域住民で賑わいました。初めて相談員として参加した会員も多く、特に若い薬剤師の先生方が積極的に参加され、相談に真剣に取り組んでいる姿に、かかりつけ薬剤師としての今後の意気込みを感じました。これからも相談会は定期的に開催する予定ですので、顔の見える薬剤師を目指して多くの会員の参加を希望します。

また、中部地区薬では、平成19年から薬薬連携として、中部病院と応需薬局の間で演題を出し発表をしています。ドクターにも講師をお願いしてのこの勉強会「薬たっちゃーの会」は、今では中頭病院、ちばなクリニックに加え、新しく中部徳洲会病院も参加することになり、これまで34回開催しました。今後ますます充実した内容になると期待しております。

政府は、2025年、2030年に予想される団塊世代の問題や少子化問題、社会保障費の窮迫した状態に対応した施策を打ち出しています。我々薬剤師は、それに備え、対応していかなければなりません。

昨年の秋に、厚生労働省（以下、厚労省）が公表した「患者のための薬局ビジョン」は、医薬分業の原点に返り、現在の薬局を患者本位のかかりつけ薬局とするための指標であり、地域包括ケアの一翼を担う薬局としての姿を示しているものでもあります。在宅患者

に対する訪問薬剤管理指導はもちろんのこと、かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師の資質に加え、今後さらに研修を重ねて、地域住民に十分な健康情報を提供できる「健康サポート薬局」ではないでしょうか。

10月から「健康サポート薬局」の登録も始まります。ひと昔前の町の薬局は、OTC薬やサプリメントも置き、健康相談を受け、受診勧奨もするという、今の厚労省が勧めているセルフメディケーションを実施していました。これから私達の活動方向は、地域住民が気軽に相談できる、まさしくファーストアクセスとしての薬局なのです。今回の条件の中には要指導医薬品を置くことや、土・日曜日のいずれかに一定時間を開局することや、24時間対応のできる体制等、ハードルの高い部分もありますが、これらは時代のニーズであり、調剤だけの薬局は取り残されていくのではないでしょうか。

地域住民の普段からの健康づくりを主体的・積極的に支援する薬局と言い切れる、薬局、そして薬剤師を目指し頑張って参りましょう。

お知らせ

入場無料

薬と健康の週間 10/17(月)～23(日)

くすりと健康フェア
＜心身ともに健康＞

県民公開講演会

平成28年10月20日(木) 19:00 ～ 20:00
パレット市民劇場

演題　**沖縄県で“最後まで”自分らしく暮らすために**

講師　**高 山 義 浩**（たかやま よしひろ）

沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長
福岡県生まれ。東京大学医学部保健学科、山口大学医学部医学科を卒業。国立病院九州医療センター、九州大学病院、佐久総合病院、厚生労働省勤務を経て、現在は、沖縄県立中部病院において感染症診療に従事。また、終末期患者に対する在宅緩和ケアを行っている。群馬大学医学部非常勤講師、神戸大学医学部非常勤講師、日本医師会総合政策研究機構非常勤研究員、沖縄県地域医療構想検討会議委員、沖縄県医師会在宅医療・介護連携統括アドバイザー。著書に『アジアスケッチ 目撃される文明・宗教・民族』（白馬社、2001年）、『ホワイトボックス 病院医療の現場から』（産経新聞出版、2008年）、『地域医療と暮らしのゆくえ　超高齢社会をともに生きる』（医学書院、2016年）など多数。

お知らせ

第30回沖縄県薬剤師会学術大会開催のご案内

沖縄県薬剤師会 創立90周年記念祝賀会・懇親会

日本薬剤師研修センター認定研修・日本病院薬剤師会生涯教育認定講座・JPALS 47-2016-0111-101

第30回沖縄県薬剤師会学術大会を下記のとおり開催いたしますので、多くの会員の皆様がご参加いただき、研鑽を積まれますようご案内申し上げます。なお、今年は本会が創立90周年にあたり、学会終了後の懇親会を記念祝賀会として開催致します。その席で、演題発表認定証ならびに奨励賞の授与および沖縄県薬剤師会長賞と創立90周年記念特別表彰を執り行ないますので、是非ご参加下さい。

（第30回沖縄県薬剤師会学術大会 実行委員会）

日　　時：平成28年11月6日(日)
受　　付：午前9時30分～　　開　　会：午前10時
会　　場：沖縄県看護協会会館（学会）、沖縄県薬剤師会会館（祝賀会・懇親会）
参 加 資 格：沖縄県薬剤師会会員・沖縄県病院薬剤師会会員
大会参加費：県薬剤師会会員 1,000円　県病院薬剤師会会員 2,000円
当日受付にてお支払い下さい。（懇親会費を含む）
※どちらにも所属していない方は、参加費1万円。但し、学会当日までに入会された方は、その限りではありません。なお、日本薬剤師会学生会員、実務実習中の薬学生は無料！

○ **会員発表**　**18題予定**（午前の部）10:10 ～ 11:10　（午後の部）14:00 ～ 16:00（予定）

○ **ランチョンセミナー**　12:40 ～ 13:40（予定）　共催：塩野義製薬 株式会社
『慢性腰痛症診療の実際』　琉球大学医学部附属病院 整形外科 助教　**六角 高祥** 先生
【お弁当を準備しております(無料)。**但し、予約者のみ**】

○ **創立90周年記念講演Ⅰ**　11:10 ～ 12:10（予定）
『顔の見える薬剤師をめざして ～チーム医療における薬剤師の役割～』
琉球大学医学部附属病院 病院長　**藤田 次郎** 先生

○ **創立90周年記念講演Ⅱ**　16:20 ～ 17:50（予定）
『薬剤師 新しい時代をどう生きるか　～薬剤師が心がけること～（仮題)』
参議院議員・薬学博士　**藤井 基之** 先生 ・ 日本薬剤師会 副会長　**乾　英夫** 先生

○ **創立90周年記念祝賀会**　18:20 ～（予定）会場：沖縄県薬剤師会館

第30回沖縄県薬剤師会学術大会・創立90周年記念祝賀会 参加申込票

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ・勤務先 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (TEL) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※ 1. ランチョンセミナー　2. 学会 (特別講演会含む)　3. 祝賀会　(参加する項目に○印をして下さい)

○ランチョンセミナーのお弁当は本参加申込票にて参加予約した方のみとなります。
○学会および特別講演会からの途中参加者も参加費は同額となります。
○遅れての参加は、単位取得ができないことがあります。
○参加お申し込みされた方には入場券を発送致しますので、大会当日は必ずご持参願います。

返送先ＦＡＸ番号　０９８-９６３-８９３２　**（平成28年10月20日(木) 必着）**

学術研修

平成28年度 新任・新人薬剤師研修会 報告

会期：平成28年7月10日（日）
会場：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局（施設見学）
　　沖縄県薬剤師会館 ホール（研修会）
共催：沖縄県薬剤師会・沖縄県病院薬剤師会

＜プログラム＞	司会　学術研修委員会 委員長	外間　惟夫
1. あいさつ	沖縄県薬剤師会 会長	亀谷　浩昌
2. 医薬品情報業務について	株式会社 琉薬	吉冨　弓江
3. 薬歴の書き方ついて	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	浜元　善仁
4. フィジカルアセスメントについて	琉球大学医学部附属病院	佐久川　卓
5. 学校薬剤師部会紹介	学校薬剤師部会	上原　卓朗
6. 青年薬剤師部会紹介	青年薬剤師部会	西川　　裕
7. 女性薬剤師部会紹介	女性薬剤師部会 部会長	村田美智子

平成28年度新任・新人薬剤師研修会は、去る7月10日に沖縄県薬剤師会館ホールで開催された。参加者は、薬局21名、病院34名、薬学生17名、卸2名、その他2名の計76名と多くの参加があった。講義前に自由参加で沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局の施設見学が行なわれ、29名と多くの参加があり、同病院薬局の長田茂薬局長と照喜名重裕副薬局長に対応いただいた。

学術研修委員会
委員長　外間 惟夫

研修会は、学術研修委員長の司会のもとに進行し、まず亀谷薬剤師会会長から新任・新人薬剤師に対する期待と自己研鑽継続の重要性、そして参議院選挙に関連したお話をいただいた。

＜施設見学＞

大人気の施設見学。長田茂薬局長（左）と照喜名重裕副薬局長（右）の2グループに分かれて見学をした。

＜講 師 陣＞

吉冨 弓江 氏

浜元 善仁 氏

佐久川　卓 氏

上原 卓朗 氏

西川　裕 氏

村田 美智子 氏

最初の「医薬品情報業務について」は、株式会社琉薬の吉冨弓江先生が担当され、卸勤務の薬剤師のDI業務紹介からはじまり、情報検索の基本、検索サイト紹介や、問い合せの内容や事例Q&Aなど多岐にわたる有益な講義であった。

「薬歴の書き方について」は今回初めて病院勤務薬剤師依頼ということで浦添総合病院の浜元善仁先生が担当されたが、薬歴未記載問題からなぜ薬歴が必要か、目的は何か、薬歴はより良い薬物治療を提供するツールであること、そして実例では SOAP記載の具体例を示しながらの大変興味深い講義であった。

さらに「フィジカルアセスメントについて」は、琉球大学医学部附属病院の佐久川卓先生に再度担当いただき、フィジカルアセスメントに興味を持った体験談、フィジカルアセスメントの必要性、病院だけでなく薬局勤務薬剤師にも必要なこと、失敗談や症例提示そしてDMAT紹介など参加者に質問しながらの実践的な講義であった。

後半は、学校薬剤師部会の上原卓朗先生から「学校薬剤師部会」について、青年薬剤師部会紹介では青年薬剤師部会の西川裕先生から、最後に女性薬剤師部会の村田美智子部会長から部会活動について紹介いただき、無事閉会となった。

今年の研修会も1～3年目の新人薬剤師や薬学生の参加が多く見受けられたが、講師やテーマを工夫することにより連続聴講しても実りのある研修会となるよう、今後も努力したい。本研修会が、今回参加いただいた新任・新人薬剤師と薬学生の今後の活躍の一助となれば幸いである。

外間 惟夫 学術研修委員長

亀谷 浩昌 会長

＜新任・新人薬剤師研修会に参加して＞

会営薬局うえはら
石川 有美子

今回の研修会のテーマは「どんな薬剤師を目指すのか」であると私は考えました。薬剤師は様々な場所で従事しています。例えば病院や薬局、製薬企業、医薬品卸です。今回、講義して下さったのは医薬品卸、病院で働く先生方でした。

初めに、医薬品卸の業務を琉薬DI室の吉冨先生の講義を受けました。正直、大学等で医薬品卸の業務自体の説明は受けていましたが、薬剤師の役割という点で説明を受けたことはほとんどありませんでした。そのため吉冨先生の講義は興味深かったです。薬の情報にとどまらず、テレビの特集や医療関係の書籍、流行している疾患、ハブの退治法など医薬品卸への問い合わせが多岐にわたっていたことには驚きました。どの問い合わせに対しても適切な回答を必要とします。それゆえ信頼性の高い情報収集はもちろんのこと、多くの情報の中から必要な情報だけを取捨選択する能力が不可欠であると感じました。また情報収集に有用な検索の方法も知ることができました。

次に、浦添総合病院薬剤部の浜元先生の講義では、最近話題になった薬剤服用歴未記載問題を取り上げながら始まりました。POSやSOAPの記載方法を学ぶ中で、患者さんごとの問題点や背景に気付き、より良い治療環境をつくることができるという点に着目することができました。今後は病院内外を問わず、患者に関する情報が共有化される時代になります。その時、患者さんの情報を正しく読み取り、どのように患者さんの治療に活かしていくかは薬剤師の手腕によるところも大きいと感じました。

さらに、琉球大学医学部附属病院薬剤部の佐久川先生は「薬の専門家」から「薬の責任者」に変わった薬剤師がどのように患者の健康に関わるべきか、その点からフィジカルアセスメントの実践を提案する講義でした。まずはバイタルサインの基本を学び、パルスオキシメーターで自身の血中酸素飽和度や脈拍の測定を行いました。実際、講義中に学んだ体温計の正しい使い方は研修後に家族で試してみました。患者さんの体温測定に立ち会う機会はなかなかありませんが、健康に関する知識を患者さんに伝えることで、セルフメデュケーションの推進に繋がっていくと思いました。加えて佐久川先生はDMATについてもお話してくださいました。東日本大震災や熊本地震で活躍し、DMATは注目を集めました。しかしながら私はトリアージでのフィジカルアセスメントの重要性をしっかりと理解していませんでした。トリアージでは30秒以内で1人の判断を下さなければなりません。災害死を最小限に抑えるためには、優れた判断力や決断力が必要とされます。そしてその能力を錆びさせないために訓練を継続していくことが大事であるということが講義から伝わってきました。

最後に、今回の講義を通じて、薬剤師に必要な能力について多角的に考えることができました。学生時代には、たくさんの知識を吸収することに重きをおいていました。しかしながら薬剤師としてスタートを切った現在は、知識に囚われるだけでなく、実践すること。また自分はどのような薬剤師を目指すのか、そのためにどんな知識・経験が必要か考えることを怠らず、着実に一歩一歩進んでいくことこそ新人薬剤師として成長していくうえで大切だと思いました。医療は日々進歩し、私たち薬剤師の在り方も大きく変わっていくことでしょう。私はそんな状況に適応しつつ、柔軟な発想を持ってより良い医療環境を患者さんに提供できる薬剤師になっていきたいと考えます。

学術研修

平成28年度 第1回薬剤師のための症例検討入門研修会報告

会期：平成28年6月9日（木）20:00 ～ 21:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜式次第＞	司会進行：広報委員会　伊差川　サヤカ
○あいさつ	沖縄県薬剤師会 会　長　亀　谷　浩　昌
	学術研修委員会 委員長　外　間　惟　夫
○研修　テーマ『**糖尿病**』超基礎編	講師：学術研修委員会　**阪　本　崇　彰**

琉球大学医学部附属病院
伊差川 サヤカ

平成28年日6月9日（木）、学術研修委員の阪本崇彰先生を講師にお招きし、平成28年度第1回症例検討入門研修会が薬剤師会館にて行われました。昨年度の「薬剤師のための症例検討入門研修会」は、高血圧と心不全の2症例をテーマに、それぞれ基礎編と応用編に分け計4回開催し、多くの会員のご参加を頂いておりました。

平日の夜遅くからの開始でしたが、研修会場はほぼ満席で、参加人数は111名（県薬97名、病薬10名、薬学生4名）と大盛況でした。

本会のテーマは糖尿病の基礎知識。急きょ司会を務めることとなりましたが、会の進行を一瞬忘れそうになるほど、坂本先生の講義を夢中で聞いていました。面白く、わかりやすい講義内容で、ほとんどの方が必死にメモをとっていた様子だったので、改めてこの場をかりて概要を述べることは割愛させていただきたいと思います。

今回の阪本先生の講演会では、糖尿病の基礎知識を学んだが、検査値について多くをカバーした講義になっていました。血糖値だけではなく、ヘモグロビンA1c、グリコアルブミン、インスリン分泌指数、HOMA-IR、C-ペプチドなどの検査値についても学びました。

薬剤師は、薬についての専門家だが、検査値はどうも弱いことが多いと言われています（私だけかもしれませんが）。従来は医師が検査値を確認し、治療方針を決定していましたが、今後は薬剤師も検査値を確認することで、医師の治療方針が適正であり、患者にとって妥当なものであるかをチェックする存在になるべきであると考えます。さらには、治療方針を決める時点から薬剤師が関与し、タイムラグの少ない治療を行えるよう支援していくべきであると感じました。

大澤友二先生をお招きして行われる症例検討会で、薬剤師が治療計画を立案することに慣れていく研修は今後の薬剤師にとってはなくてはならない訓練の一つとなるでしょう。

産婦人科病棟に配属された時、妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の疾患で教育入院される患者さんと接することがありました。その折、どうして血糖管理でこんなに厳しく指導されるんだろう、と新人の時には疑問に思っていました。　妊娠中は、健康な方でも耐糖能異常が起こりやすくなります（児に糖分を送るため、インスリン抵抗性が上昇することが背景にある）。妊娠糖尿病であっても、妊娠中血糖上昇が続けば、種々の母児合併症が起こりえます。表に母体の高血糖により生じる代表的な母児合併症を記しました。

母体の合併症	胎児の合併症	新生児の合併症
流早産	先天奇形	低血糖症
妊娠高血圧症候群	巨大児	高ビリルビン血症
羊水過多症	子宮内発育遅延	呼吸障害
尿路感染症	胎児仮死	低カルシウム血症
ケトアシドーシス	子宮内胎児死亡	多血症
網膜症・腎症の悪化		肥厚性心筋炎

参照）薬局　第66巻　第1号　2015年

後で勉強して気づいたことですが、高血糖がもたらす種々の母児の合併症を考慮すると、血糖の厳重管理は至極当然です。特に、流産、先天奇形などは妊娠初期のころからリスクとして気を付けるべきものであり、非妊娠期からのコントロールが重要と思われます。これより、糖尿病に罹患した女性だけではなく、健康な女性も視野に入れつつ、計画妊娠や血糖コントロールの重要性を伝えられるような服薬指導が求められる分野です。また、妊娠期の糖尿病の薬物治療は、胎児への影響が少ないインスリン用いて行われます。

また、治っていても妊娠糖尿病になった方は、妊娠糖尿病のなかった人に比べ、約7倍の高頻度で糖尿病になるため、その後も定期的な検診が必要になります。産後に母乳を与えると、母親も児も将来、糖尿病になる頻度が減ることが知られています。母乳栄養を薬学的観点からサポートしていけるよう、今後も学んでいきたいと思います。妊娠糖尿病は、今回の妊娠中に様々な合併症を起こすだけでなく、母親の将来の糖尿病、メタボリック症候群発症、さらには児の将来の糖尿病、メタボリック症候群発症にも関係するため、妊娠時に糖尿病に対する正しい知識をもってもらえるよう今後も薬局の先生方と連携して薬剤指導や健康管理を担っていきたいです。その際には、今回の研修会で学んだ検査値の項目を活かしながら指導ができればと考えています。

今年度の第3回症例検討研修会は、平成28年10月22日（土）19時から21時30分を予定しています。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

講師：阪本 崇彰氏

学術研修

平成28年度 第2回薬剤師のための症例検討入門研修会

会期：平成28年7月2日（土）19:00 ～ 21:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜式次第＞　　司会進行：学術研修委員会 委員長　外間　惟夫
○あいさつ　　沖縄県薬剤師会 会長　亀谷　浩昌
研修『症例検討　開局編』
講師：**大 澤 友 二** 先生
（福岡薬物治療研究会会長、九州大学薬学部非常勤臨床教授、元昭和薬科大学教授）

琉球大学医学部附属病院
外間　登

昨年度の「薬剤師のための症例検討入門研修会」は、高血圧と心不全の2症例をテーマにそれぞれ基礎編と応用編に分けて計4回開催され、多くの参加者が集まったと聞いています。ぼくは研究会が開催されることは知っていましたし、参加したいと思っていましたが日程の都合上参加することができませんでした。本年度は、テーマが糖尿病となっており、学術研修委員である阪本崇彰先生ご講演による第1回入門編が6月9日に開催され、この会には参加することができました。7月2日に開催された今回の第2回も参加予定ではいましたが、開催日の数日前にこの研修会の立案者で職場の先輩でもある潮平先生より「7月2日は開始の1時間前には来てね～」とのお声がけがあり、とりあえず了解の返事をして当日を迎えました。

第2回研修会当日、言われた通りに開始1時間前に会場に着くと「チューター」という役割が待っていました。ぼくは昨年度からの研修会の流れを把握していなかったため、今回の症例検討、スモールグループディスカッション（SGD）での目標・目的とチューターの役割の確認をさせていただきました。

「SGDを通して、提示された症例における薬物療法のプランを立案する流れを一通り体験してもらうこと」「なにより楽しんで帰ってもらうこと」、この2点を心掛けて今回の研修会にチューターとして参加することになりました。

研修会開始前より問題点として参加人数がかなり多いことが予想され、SGDと言っても1つのグループで10名前後になることが予想されており、多い人数でもうまくディスカッションできるように誘導する必要があると考えていました。

実際に研修会が始まると7つのグループを用意していたのですが、各グループ9名～12名という予想通りやや人数過多なグループ編成となってしまいました。それは仕方ないとして講師の大澤友二先生のレクチャーの後、いよいよ症例検討に入っていきます。

まずはアイスブレイクも兼ねてグループ内での簡単な自己紹介を行っていきます。ディスカッションを円滑に行うためにも、楽しむためにも非常に重要となってくるアイスブレイク・自己紹介の機会ですので、施設名・氏名と共に「この夏で何か楽しかったことは？」などの楽しいネタになるような質問も織り交ぜながら、1人1人の時間が長くなり過ぎないようにと意識して進行していきました。

そして、次は役割分担です。「司会」「書記」「発表者」をグループ内で決めます。「どなたかやりたい方はいますか～ ??」「･･･」無反応。しかしそれは予想していたことなので「発表者は元気な若い子にお願いして、書記は字を書くのが得意な人もしくは苦手でない人、司会は今回人数も多いので真ん中らへんに座っているベテランさんにお願いしたいです!!」と続けました。発表者はすぐに決まったのですがなかなか決まらない司会と書記をなんとかお願いしてようやくSGDの体制が整いました。

SGDが始まり、まずは提示症例に対する問題点をグループメンバーで上げていきます。この時点になると活発に発言する方となかなか発言できない方とが出てきます。司会の方がそこをうまくさばいていくとチューターの役目は見守りだけになるのですが今回は人数も多いため、少しずつ意見を促すような声掛けを行いました。

「問題提起→それぞれの解決方法の検討→トータルプランとしてまとめる」といった一連の流れを経験してもらうことが目的でしたが、初めの問題提起の時点で個人的なプランまでしゃべってしまって、「まずはみんなで問題点を上げていく」という作業に慣れていない方が多いようでした。そこを修正する声掛けと司会の方に残り時間のタイムスケジュールなどを示したりしていました。残り時間も見ながらなんとか一通りの流れを踏むことはできましたが、グループの1人1人がどのような流れで行うべきかを認識できたかはやや疑問が残りました。この後すぐにもう一回同じグループで別のSGDを行うことができればそこの理解は深まると思ったのですがそこは次回への持ち越しとなってしまいました。

各グループでのSGDの後には、代表して2つのグループにそれぞれが立案したプランをホワイトボードを使ってみんなの前で発表していただきました。

今回の参加者は比較的ベテラン薬剤師さんが多かったように思いますがこの全体での発表の質問タイムでは若手薬剤師、学部学生からの質問や発言があり活発な意見交換ができて大変よかったと思います。

若干予定の時間を超過しての研修会終了となりましたが、何とか研修会の日程を無事終えることができました。初めに確認した目標、一連の流れを体験してもらうという点は一応クリアできたかなとは思いますが、1人1人が「司会」「書記」「発表者」の役割を担当していくことで全体の流れの理解や問題点・改善点に気づくことができると思いますので、まだまだ繰り返していく必要があります。「楽しんで帰ってもらう～」のはその先になるかも知れません。

第3回の研修会は、平成28年10月22日土曜日と予定されています。

みなさまのご参加をお待ちしています。

講師：大澤 友二氏

実務実習

平成28年度Ⅰ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習委員会
委員長　我喜屋 美香

薬学生実務実習7年目の第1期（平成28年5月9日～7月23日）11週間が終了しました。保険薬局での実習生は15名、8大学（九州保健福祉大学・福岡大学・長崎国際大学・崇城大学・明治薬科大学・神戸学院大学・姫路獨協大学・徳島文理大学）。いつもながら、指導薬局の指導薬剤師をはじめ、同施設の関係者の皆様、お疲れ様でした。実習生の皆様も生まれ育った沖縄の地で実習され、沖縄の医療の現状に触れていただき本当に良かったと思います。そして、心配してましたが、4月の熊本地震の直後にもかかわらず、熊本から2名の実習生を迎え入れることもできました。

1期は毎年、健康とおくすり相談会等の地域貢献の機会が少ない時期ではありますが、今年は各地区での活動が活発で、沢山の薬剤師と交わることができたと思われます。また、薬剤師会として例年参加している「しごとミュージアム」は本当に実習生が中心となって行っているといっても過言でない状況になりつつあります。若い力は素晴らしい限りです。

さて、いよいよ2期の実習からは薬学教育新コアカリキュラムに即したトライアルが始まります。そのための研修会が多くなってきています。指導薬剤師をはじめ、各薬局の対応を期待します。

以下に、15名の実習生の感想文と実習薬局、実習協力機関を掲載致します。本当にありがとうございました。今後も何かお気づきの点があれば当委員会までご一報ください。

実習薬局（14薬局）　（以下、順不同・敬称略）

○コジャ薬局東店	○こくら虹薬局（2名）	○ミドリ薬局美里店	○がじまる薬局
○そうごう薬局豊見城店	○ワタキュー薬局内間店	○はんたがわ薬局	○会営薬局とよみ
○保険薬局プラネット	○すこやか薬局松島店	○ふく薬局名護店	○アリス薬局
○すこやか薬局新都心店	○とくりん薬局南風原店		

協力施設・委員会・団体

○ヴァインドラッグ末吉店	○すこやか薬局具志川店	○(株)薬正堂	○なごみ薬局
○会営薬局医療センター前	○こくら虹薬局	○屋嘉比薬局	○がじまる薬局
○ドラッグイレブン佐敷店	○ミドリ薬局美里店	○ぼたん薬局	○(株)琉薬
○北部地区薬剤師会	○中部地区薬剤師会	○那覇地区薬剤師会	
○(株)ダイコー沖縄	○学校薬剤師部会	○学校薬剤師の先生方	

実務実習薬学生 平成28年度第Ⅰ期生からの体験記・感想

徳島文理大学5年 前田　翼
（とくりん薬局 実習
指導薬剤師 兼城 崇）

私は今回の実習で服薬指導の難しさとヒヤリ・ハット事例は身近にあるものだと気付かされました。大学で講義を受けている時は、ヒヤリ・ハット事例は起こるもの、気をつけていかなければならないと教えられてはいたのですが、心の中ではそんなミスはしないだろう、自分はそういうミスはしないはずである、と決めつけていて、実務実習事前学習の段階でもそういったミスに気をつけていたのでミスもほとんどなかったのですが、いざ現場に出てみると置いてある薬の量が多いことや次から次へとくる患者に慌てたりして、かなり多くの調剤ミスをしてしまいました。このことから、一人調剤の怖さや複数の目で監査していく大切さを学びました。また服薬指導においても、大学でたくさん練習してきたはずなのに、いざ患者を目の前にすると緊張してしまい、必要な情報を聞き出すことができなかったり、緊張しすぎて頭が真っ白になり思うように言葉が出なくなったりと、会話がスムーズに行かないことが多く、やはり患者を想定して練習するのと実際の現場で実践するのでは大きく違うなと感じました。実習の始めの頃は、やはりミスも多く、服薬指導も拙かったのですが、とくりん薬局の薬剤師の方々にアドバイスを頂いたり、メンタル面でのサポートもあったおかげで、調剤ミスにはほとんどしなくなり、服薬指導も完璧とは言い難いですがスムーズに行えるようになったと思います。服薬指導に関しては、おそらく実習前と比べると格段に成長したと私は思っており、最も成長した部分ではないかと思いました。

また、薬局実習以外でも学校薬剤師の仕事に同伴したことや「しごとミュージアム」への参加など、薬局外での業務もできたことはかなり大きな経験であり、薬剤師の職の幅の広さも学ぶことができ、充実した実習であったと思いました。

福岡大学5年　登川 敬宗
（ミドリ薬局 美里店 実習
指導薬剤師 玉城 武範）

２ヶ月半の薬局実習で、指導薬剤師の玉城先生から大切なことをたくさん教えていただきました。その中でも「患者さんの本当の目的は何なのかを考えること」は最初のイントロダクションで言われた言葉であり、実習中はこの言葉を先生から聞くことが多く印象的でした。実習中に調剤や投薬は少し前進したと思いますが、自信をもってやりきったと言えることが2つあります。1つ目は自治会での講演。2つ目はある在宅の患者さんの一包化です。玉城先生は毎月自治会のおじー、おばーに向けてあるテーマを決めて講演会を開いています。その自治会で先生に代わって私が目について講演を行いました。スライド作りでは聞き手に何を伝えたいのかを表現すること、健康を予防する表現ではなく促進させる表現にする難しさ。そういったことは他の実習生とは違った経験ができたのではないかと思います。また、おじー、おばーと触れ合い、自治会で楽しそうにしている姿を見て健康だけでなく人生のあり方などを考えさせられました。ある在宅の患者さんの一包化は凄く時間がかかるのですが、それを最後までやらせていただきました。ピッキング→粉砕→ふるい→一包化→ホッチキスで一回分をとめる。この工程だけでも凄く時間がかかりました。実際に患者さんの様子を見に行き、その後に医者に届ける報告書も手がけました。この一連のことを終えて、一人の患者さんにかける時間の長さを体感しました。

ミドリ薬局の薬剤師の方々やスタッフの皆様、外部実習の先生方、他薬局の先生とスタッフの方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。9月からは病院実習が始まります。病院実習では全く違う経験ができると思います。この11週間で学んだことを発揮しつつ新たなステップを踏んでいこうと思います。

姫路獨協大学5年　洲鎌 はつえ
（ワタキュー薬局 内間店 実習　指導薬剤師 玉城 智恵子）

5月9日から11週間、ワタキュー薬局内間店で受け入れていただき大変お世話になりました。実習初日は不安もあり、とても緊張していましたが、指導薬剤師の先生をはじめ、薬局の皆さんが笑顔で迎えてくださったので頑張ろうと思いました。

2週目以降からは外部実習に参加することで実習先の薬局だけでは経験できないことを学ぶことができ、他大学の学生とも交流する良い機会になりました。また、薬剤師会の活動について少し知ることが出来たので良かったです。薬剤師が業務を行う上で重要な情報や勉強会の開催などは沖縄県薬剤師会が中心となって情報発信をされているようで、沖縄県では薬剤師会の役割が大きいという印象を受けました。

実習先では、調剤業務だけではなく、早期からの服薬指導を体験することで患者さんとのコミュニケーションの取り方やお薬を安全に使用していただくにはどのように説明を行えば良いのかなど、考えながら実践できたのでとても勉強になりました。また、医師や看護師からの問い合わせに対して、文献検索や製薬会社に問い合わせを行うなどして確認し、報告を行ったことで、医師や看護師等、他の医療従事者との関わりや連携することの重要性を実感することが出来ました。

調剤業務を実施するにあたっては、処方せんの記載の仕方が教科書とは違っている部分があり、医療機関によって異なることに最初は戸惑いました。また、類似薬やジェネリック医薬品の多さに驚きました。沖縄県はジェネリック医薬品の普及が進んでいるということで、たくさんある薬を覚えるのは大変ですが、薬剤師の声掛けによってジェネリック医薬品へ切り替える方が増え、医療費の削減に繋がっていくのだと思いました。

また、ワタキュー薬局内間店には、患者さんがお薬を処方されていなくても相談に来られたり、電話で相談があったりなど、地域住民の方に密着していると感じました。薬剤師の先生方の人柄が、患者さんが相談しやすい環境を作っているように思いました。

今回の実習で、薬局薬剤師としての役割や地域との関わりなどを学ぶことが出来ました。また、沖縄県の薬剤師の現状を知ることが出来たのもとても良かったです。将来、薬剤師になった時に、今回の経験を活かせるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

徳島文理大学5年　具志堅　聖
（すこやか薬局 新都心店 実習　指導薬剤師 金城 奈々美）

11週間、すこやか薬局新都心店で実習をしました。実際に処方箋を見て、医薬品に触って、患者さんに服薬指導を行うなど学校ではできない体験をさせていただきました。薬の名前や置いている位置などわからないことも丁寧に教えていただきました。特に印象に残っているのが、患者さんの咳の音や泣き声が聞きこえる中、素早く正確に調剤をしなければいけないことです。実習が始まる前は、薬局外での仕事をあまり理解していませんでしたが、学校薬剤師、在宅訪問、健康とおくすり相談会など、薬局外でも薬剤師が活躍していることを知りました。また、勉強会に多く参加させていただき、学校で学んだ知識をより身に着けることができました。

たくさん迷惑をかけてしまいましたが、最後まで優しく指導していただきありがとうございました。今回の実習で学んだことを次の病院実習や勉強に活かしたいと思います。他の場所で実習を行っている実習生との交流もあり、とても楽しく充実した11週間でした。

徳島文理大学5年　宮城 貴之
（ふく薬局 名護店 実習　指導薬剤師 玉城 尚洋）

11週間の間、ふく薬局名護店さんで薬局実習をさせていただき、大学で学んでいることだけではなく、薬局においての実際の薬剤師の仕事について多くのことを知ることが出来ました。また、処方せんを面で受けている薬局とのことで各ドクターによる特徴のある処方せんや多くの処方せん用医薬品に触れることができ大変勉強になりとてもいい経験が出来ました。

服薬指導では、処方せんや薬歴から患者さんの背景を推測し患者さんとの会話を通して必要な情報を集め薬について説明するが、服薬指導しながら患者さんから情報を聞き出すことは難しく、患者さん1人1人に合わせて言葉の表現や声の大きさ、話すスピードなどを変えたり、また薬に対して不安感を感じさせないように副作用等の注意事項を説明しなければならないため、患者さんから信頼される薬剤師になるためには薬や病気の知識だけではなくコミュニケーション能力も重要であることがよくわかりました。調剤時でもただ薬を取りそろえるだけでなく薬効や作用機序などを考えながら調剤を行うことにより知識の定着につながったと感じました。また実際の現場ではどこでミスが起こりやすいのか、またどうすればミスを減らすことができるのかを実例を用いて教えてもらい、リスクマネージメントについて学ぶことができました。

薬歴について今までよくわかりませんでしたが、書き方を教えてもらい実際に経験することでどのようなものか学ぶことが出来ました。薬歴を書く際には、患者さんから聞き取った情報を次に投薬する薬剤師がわかりやすいようにまとめて簡潔に書く必要があると感じました。

在宅医療では施設に訪問し残薬や患者さんの体調の確認、ドクターやケアマネージャー、介護士などと連携もあり、様々な職業の方との連携も学ぶことが出来ました。

慣れない実習で至らない点ばかりの自分でしたが、皆さんに優しく教えていただき楽しく勉強になる薬局実習をすることができました。お世話になりました。本当にありがとうございました。

九州保健福祉大学5年　玉城 祐太朗
（コジャ薬局 東店 実習　指導薬剤師 古謝 真己）

このたびは2か月半にわたり薬局実習をさせて頂きましてありがとうございました。

実習を体験して感じたことは、薬局薬剤師は調剤や服薬指導だけでなく、患者さんの悩みや相談事などを聞き、アドバイスをすることで、地域で密接に関わる事ができるということを実感しました。そのためには、薬の事だけではなく、世界情勢やその地域のニュースなど、いろいろな事を勉強して知っておく必要があると感じました。薬は命に関わるので少しの妥協も許されず、緊張感を持ちながら扱う事が大切だと感じ、日頃からの学ぶ姿勢や知ろうとする意識は大切にしていこうと思いました。今回の実習を通して、ミスをした時にその原因をしっかり理解して次に進む事が大事だという事を学び、これから先もこの事を肝に銘じ勉学に励もうと感じました。

コジャ薬局東店の職員の方々には温かく、時には厳しく指導して頂き心から感謝しています。慣れない実習で至らぬ点ばかりで申し訳ございませんでした。必ず薬剤師になり、古謝先生のように宮古島の医療に貢献します。2か月半、本当にありがとうございました。

明治薬科大学5年　比嘉 さおり
（保険薬局プラネット 実習
指導薬剤師 仲宗根 健太）

始まる前は長いように感じていた11週間でしたが、いざ始まるとあっという間に過ぎてしまいました。

調剤業務では、様々な診療科からの処方箋を調剤しました。初めは薬の名前や薬効など知らないことが多く、自分の勉強不足を感じましたが、実習が進むにつれて少しずつ処方されている薬から病気を推測できるようになり、自分の成長を感じることができました。また、一包化や錠剤の粉砕などの技術的なことも色々と学ぶことができました。服薬説明では、急いでいるので薬の説明はいらないと言う方や、耳が遠く説明をよく聞き取れない高齢の方などに対してどのように服薬説明したらいいのか戸惑ってしまったり、説明していて伝え忘れてしまうことがあったり、反省する部分が多々ありましたが、お薬をお渡しした後に「がんばってね」と声をかけてくださる方もいらっしゃり、様々な患者さんと接することで、コミュニケーションを取ることの難しさや大切さを実感することができました。

また、外部実習では、医薬品卸売業者の見学やドラッグストアでＯＴＣについて学んだり、学校薬剤師としてプールの水質検査や薬物濫用防止教室に同行させてもらったりと、様々な経験をすることができました。実習が始まる前には、薬剤師は薬局又は病院というイメージしかありませんでしたが、外部実習に参加したことで、薬局以外でも薬剤師の活躍できる場所があるということを知ることができました。

11週間という実習期間で、薬剤師の先生方、事務の皆さんなど、多くの方にお世話になり、とても充実した実習をすることが出来ました。今回の実習で学んだこと、感じたことを忘れずに、立派な薬剤師になれるよう日々努力していきたいと思います。

長崎国際大学5年　伊礼 ほたる
（アリス薬局 実習
指導薬剤師 普久原 隆）

私は2.5ヶ月間、アリス薬局で実習をさせて頂きました。

処方箋の受け取りから薬の提供までの薬剤師の仕事をみっちり教えてもらいました。アリス薬局は小児科から来る患者さんが多いため、散剤は自動分包機ではなく手分割分包機を使っていて、少ない量の散剤をより正確に調剤しています。初心者にはとても難しく、沢山練習しました。こういう貴重な体験ができ、とても恵まれた環境で実習をさせて頂いたと思います。

薬剤師の仕事だけではなく、事務の仕事も教えてくれたおかげで、薬局全体の流れが分かり、スムーズに動くことが出来ました。アリス薬局内で学べないことは他の薬局での実習も組んでくれて、視野を広めることが出来ました。薬局によって、それぞれのやり方がありましたが、どの薬局も患者さんの事を第一に考えていて、素敵な薬剤師ばかりでした。勉強会にも沢山連れて行ってもらい、薬剤師は日々勉強という事を学びました。勉強会で知識を得ただけでなく、いろんな人に出会い、良くしてもらい、人のつながりは大切だなと感じることが出来ました。在宅や学校薬剤師、OTCや漢方実習など、薬剤師の仕事の幅は私の想像をはるかに超えていて、吸収、吸収の毎日でした。

アリス薬局は、ずっと前から自分は一緒にいたのではないかと思うくらいアットホームな環境で、等身大の自分で実習することが出来ました。そういう空気を作ってくれた場所で実習ができて本当に良かったです。要領も悪く、手のかかる実習生だったと思いますが、アリス薬局だったので私は成長出来たと思います。胸を張って実習が楽しかったと言えます。毎日向上心を持ち、患者さんのことを第一に考える薬剤師になろうと思えた実習でした。

福岡大学5年　玉城 佐穂里

（そうごう薬局 豊見城店 実習　指導薬剤師 神田 寛之）

私は、そうごう薬局豊見城店さんで実習をさせていただきました。大学ではあまり体験できない貴重な経験がたくさん出来ました。

調剤では、散剤や水剤など大学の実習で何度か行っていたものもたくさんさせていただきました。初めの頃は時間がかかっても上手く出来なかった散剤の調製も薬剤師からたくさんのアドバイスをいただきながらたくさん数をこなしてだいぶ出来るようになりました。また、大学の実習では行わなかった一包化もたくさんさせていただきました。一包化は多剤併用や高齢の患者さんのために行うものだと思っていましたが、家族で混ざってしまうから患者さんの名前を入れて欲しい、何も記載しないで欲しいなど、患者さんの要望に応える事で思っていた以上にコンプライアンスを上げることに役立つ事を知り、驚きました。

服薬指導では、初めの頃は聞くべき事も聞けずに慌ててしまう事が多かったのですが、数をこなしていく内に落ち着いて行う事が出来るようになり、家族の既往歴を聞き出すことが出来たり、「がんばってね」と声を掛けていただいた時は凄く嬉しかったです。しかし、薬剤師の服薬指導を見ているともっとスムーズにいろんな情報を聞き出し、その情報をもとに服薬や生活習慣のアドバイスまで行っており、患者さんの質問も的確にすぐ応えており、自分はまだまだだと感じました。

外部実習では、学校薬剤師や卸、ドラッグストアなどの見学も行いました。今まで調剤薬局か病院の就職しか想像できていなかったのですが、実際に見て、体験させていただいて、それ以外のたくさんの選択肢を見つける事が出来ました。子どもたちの健康を守ることの出来る学校薬剤師も素敵だと思いました。また、病院や薬局に薬や薬の情報を届ける卸の仕事も、病院や薬局の薬剤師とはまた違う魅力を感じました。特に、ドラックストアの薬剤師の仕事は、今までOTCを販売するイメージしかなかったのですが、登録販売者とは違う薬剤師だから出来るアドバイスなどがたくさんある事を知りました。

11週間の実習を通して、出来なかった事が出来るようになったり、課題が見つかったりしました。この経験を薬剤師になった時に活かせるようにしたいです。11週間ありがとうございました。

オリエンテーション

福岡大学5年　大城 英恵
（がじまる薬局 実習　指導薬剤師 照屋 林一郎）

私は、5月からの2ヶ月半、西原町にあるがじまる薬局で実習をさせて頂きました。初めて薬局を訪れた時、その大きさに驚きました。薬剤師も多く勤務されていて、医療事務や薬品管理、経理担当など、薬剤師以外のスタッフもとても充実していました。

実習が始まって、まず、薬品管理について学びました。薬は薬効順に並んでおり、もし万が一誤調剤があった場合のリスクを最小限に抑えているとのことでした。薬効順に並んでいると調剤をしながらの内容の確認もしやすいので、とても良い管理方法だと思いました。また、予想していた以上に麻薬管理を厳重に行っている印象を受けました。犯罪に使用される危険性のある薬物を入庫から管理、廃棄まで責任を持って行っていました。

実習に慣れてくると調剤、監査、投薬と一通りの業務を実習させてもらいましたが、どの項目も反省点と課題が多くありました。

調剤に関しては、後発品指定の見落としや思い込みで調剤をしてしまい、薬の規格を間違えたことがありました。よく処方される薬だからこそ、自分を過信せず処方箋をしっかり確認することが大切だということを学びました。散剤の力価計算に関しても同様で、暗算をせず紙に記録を残し、計算機を活用して確認作業を忘れないことが重要です。シロップ調剤は混合しても問題ない薬剤同士なのか、小児の場合は力価が体重と年齢に相応かどうかの確認も必ず行わなければいけません。患者さんを待たせずに一連の確認作業を要領よく行うことがとても難しかったです。

監査に関しては、まず疑うことが最重要で、特殊な薬の場合はさらに複数の目を通して確認していました。また同時に投薬者が投薬しやすいように袋詰めすることも学びました。

投薬に関しては、全ての項目の中で一番難しく、学ぶことも反省点も多かったです。漠然と質問するのではなく、患者さんが答えやすいように要点の整理された具体的な質問をすること、患者さんが他人に聞かれたくないであろう内容には十分配慮することはもちろん、言葉の選び方にも気を配ることを学びました。「糖尿病の薬」ではなく「糖の薬」と言い方を少し変えるだけでもかなり印象が違ってくるよ、と指導薬剤師からアドバイスされたことが印象に残っています。これからの課題としては、患者さんの質問に動揺せず答えられるよう知識を増やすこと、自然な共感の姿勢を身につけることなど、患者さんに信用される薬剤師になれるようこれからの病院実習、学校での勉強を精一杯頑張りたいです。

他にも外部実習が多くあり、薬局外での薬剤師の仕事についても詳しく学べました。また、薬剤師は積極的にイベントの企画をしており、地域住民に薬剤師を身近な存在に感じてもらえるよう様々な取り組みをしていました。外部実習が多いことが沖縄のふるさと実習の特徴だとお話されていたので、地元に帰って実習ができて本当に良かったと思いました。

最後になりましたが、指導薬剤師をはじめとする実習に関わって下さった全ての方に感謝します。本当に有難うございました。

神戸学院大学5年　姫野 智子
（すこやか薬局 松島店 実習　指導薬剤師 古堅 直也）

5月9日～7月22日の2か月半、薬局実務実習で様々なことを学び、大学ではできない貴重な経験をすることができました。

調剤業務では、始めの内は、薬剤の取り間違えや数が違うなどのミスをしないように時間をかけて行っていましたが、薬の場所も覚えていき慣れてくると、処方箋を見て、「何の薬か、どういう疾患があるのか」を考えながら調剤するようにしました。実習中、様々な処方箋を見ることができ、初めて聞く疾患や色々な薬を知ることができました。薬歴を見て疾患を確認したり、その情報をもとに薬剤師の先生方に服薬指導の際どのように疾患を聞き出すのか、また患者さんの症状の経過や疾患について質問したりしました。その内容は大学で学べるものではなく、とても勉強になりました。服薬指導をする前に受付やフロアに立たせてもらい、患者さんと接する機会がありました。それまでは調剤室で調剤ばかりしていたので、その場に立った時、景色が全然違って見えたのを覚えています。様々な患者さんがいて、それぞれの状況を把握しながら接することが大事だということを学びました。服薬指導はとても緊張して、何を聞くべきなのか、質問に何て答えれば良いのかわかりませんでしたが、薬剤師の先生方の服薬指導を横で聞いて、話しやすい雰囲気づくりや聞き出し方を学びました。実際に服薬指導を経験して、知識不足やコミュニケーションの難しさを知り、自分の課題を見つけることができたので、今後に活かしていきたいと思います。

薬局での実務実習だけではなく、在宅実習やOTC実習、卸見学、学校薬剤師などの外部実習もあり、様々な所で活躍する薬剤師の先生方の話を聞くことができ、とても刺激になりました。2カ月半があっという間に感じるほど、とても充実した実習でした。

最後に、指導薬剤師の古堅先生をはじめ、すこやか薬局松島店の皆様、外部実習でお世話になった先生方、実習中に関わったすべての方々に感謝致します。この経験を忘れず、目指す薬剤師像に向かって、これから先も頑張っていきたいと思います。

崇城大学5年　山城 のぞみ
（会営薬局とよみ 実習　指導薬剤師 島袋 陽子）

約2カ月半の実習を終えて、とても多くの事を学ぶことができました。学校薬剤師の活動や医薬品の卸の仕事を見学したり、薬局製剤や漢方製剤を実際に調合したりなど、普段学校では経験できないことを経験できました。これらの経験はとても新鮮で、教科書で学んだことを目で見て、体験できたことで、より深く理解することができました。

今回の実習で、薬剤師の業務を間近で見て、体験する中で特に感じたことは、薬剤師の役割の重要性です。患者さんは、医師に聞けなかったことや分からなかったことを薬剤師に質問してくることが多く、「薬剤師さんに聞いた方が分かり易いし丁寧だから、いつもここで聞いているんだよ」というある患者さんの言葉が印象的でした。薬剤師の皆さんは、患者さんの目線に合わせた言葉選びをしたり、薬以外の事でも健康管理について指導したりなど、とても親身になって話を聞き、お話をされていて、私も患者さんの気持ちに寄り添うような薬剤師になりたいと思いました。

この2カ月半で、自分のなりたい薬剤師像がより明確になり、ますます薬剤師になりたいという気持ちが強くなりました。ご指導してくださった会営薬局とよみの皆様、そして外部実習でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

崇城大学5年　湧田 英恵
（はんたがわ薬局 実習
指導薬剤師 真崎 しのぶ）

薬局実習を振り返って、実習当初は何もかもが初めて体験することばかりで不安と緊張で一杯でした。しかし、薬剤師の先生方や事務員の方々みなさんから、やさしく声を掛けて下さり、丁寧に指導して下さったおかげで、毎日が充実した実習となりました。

薬局実習で最も難しいと感じたのは服薬指導でした。初めて患者さんと接した時は緊張して、伝えるべき内容や聞くべきことを忘れてしまったり、おろおろして患者さんに不安を与えてしまったり、患者さんの質問に答えられず自身の知識不足を痛感したり、と思うようにいかず落ち込むことも多くありました。しかし、薬剤師の先生方の服薬指導を見学させていただいて、患者さんに伝えるべき情報や患者さんの疑問に分かり易い言葉を選びながらお話されている様子を見たり、ロールプレイで何度も練習させていただいたおかげで、最後には少し余裕を持って患者さんに接することができたと思います。服薬指導を通して実際に患者さんと接して、薬剤師にとって薬や病態の知識はもちろんのこと、患者さんとのコミュニケーションが大切であると強く感じました。ただ薬の作用や用法用量を説明するだけでなく、会話を通じて患者さんの気持ちや生活背景、薬への理解度などを知ることで一人一人に合わせた服薬指導を行うことができ、薬剤師への信頼に繋がり、安心して薬を飲んでもらえることを学びました。

外部実習で、在宅医療業務や学校薬剤師の仕事に同行させていただき、また医薬品卸売会社やドラッグストアの見学などを通して、薬局外で活躍する薬剤師の姿を実際に見ることができたのはとても貴重な経験だったと思います。

薬局実習を通して、大学では学べない様々なことを経験させていただき、知識面、精神面共に成長することができたと思う反面、自分に足りないものや勉強しなければならない課題が多く見えてきました。この実習で、学び、感じたことを活かして病院実習や将来、薬剤師として働く際に役立てていきたいと思います。

福岡大学5年　幸地　茜
（こくら虹薬局 実習
指導薬剤師 平良 栄子）

私は、こくら虹薬局にて実習をさせていただきました。

調剤実習では、散剤、水剤、一包化を行いました。特に一包化では患者さんのコンプライアンスが向上するように印字したり、服用タイミングによって色付けしていたりと工夫されていました。服薬指導では、緊張からか、聞き漏らしてしまうことが多く、もっとスムーズにできるようになりたいと思いました。

こくら虹薬局では、薬局製剤や在宅訪問など、多くの業務を経験させていただきました。特に印象深かったのは、在宅訪問です。患者さんの自宅に伺うのは緊張しましたが、患者さんと薬剤師のやり取りを間近に見ることができました。薬剤を渡すだけではなく、民間療法の情報を提供したりしていて、患者さんとの信頼関係が築けているのだと感じました。患者さんの生活の中に入っていくことで、見える事、気づける事も多いのだとわかりました。私も患者さんに信頼される薬剤師になりたいです。

薬局実習中には外部実習も多くありました。普段は見ることのない医薬品卸会社を見学でき面白かったです。薬剤が患者さんに手渡されるまでにきちんと品質を保てるように厳しく管理されていました。ドラッグストアでは、便秘薬一つ選ぶにしてもたくさんの種類があって症状に合わせて選ばないといけませんでした。OTCは種類が多いので、幅広い知識が必要だとわかりました。地域に根差した薬剤師として多くの情報を伝えることができるのではないかと感じました。

薬局実習を通して、薬剤師としての働き方にもいろいろな選択肢があるのだと感じました。実習が始まった頃には、環境に慣れることに必死で、自分が何をしたいのかを主張できていなかったと思いました。その反省点を次の実習では生かしていきたいと思います。11週の実習は長いようであっという間に終わってしまいました。指導薬剤師をはじめ、他の薬剤師、登録販売者、助手、事務の方々が基本的な質問をしても教えて下さり、丁寧に指導していただいたおかげでたくさんの良い経験ができました。ありがとうございました。

九州保健福祉大学5年　宮良 遥奈
（こくら虹薬局 実習　指導薬剤師 平良 栄子）

2か月半にわたり、こくら虹薬局にて保険薬局実習をさせて頂き、保険薬局の仕事内容や地域での役割、患者さんとの接し方を学ぶことが出来ました。

服薬指導では、最初の頃はとても緊張し、うまく患者さんと接することが出来なかったのですが、そこでコミュニケーション力の重要性を感じる事が出来ました。さらに、患者さんへ分かり易く説明するにはどうすればいいのか、これは私の中で難しい課題でした。改善点を見つけ工夫していく努力が必要だと感じました。

その他、薬局実習で印象に残っているのは在宅訪問です。実際に患者さん宅へ訪問させて頂き、患者さん本人やご家族の方との会話やバイタルチェック、お薬のセット、お薬の説明など薬剤師が出来ることや薬剤師がすべきことはたくさんあるのだと実感しました。その中でも特にバイタルチェックは薬剤師にとって必要な事だと思いました。日々変化していく患者さんの状態を少しでも多く把握し副作用が出ていないかなど、お薬との関連性を薬剤師がチェックしていくことは患者さんの治療において重要だと感じました。

小さいお子さんをもつ保護者の方への健康とおくすり相談会は、私にとって貴重な経験となりました。保護者の中には子供のお薬や病態、症状に関して不安をもっている方もいました。そこで改めて薬剤師は薬のことだけでなく病態や症状、または症状に対する対応策など、患者さんにとって必要な情報を見極め、それを提供する為に充分な情報量が必要なのだと実感しました。まだ言葉を発することの出来ない小さな子供は、痛みやかゆみなどうまく伝えることが出来ないことから、親も不安になるかと思います。薬剤師は子供や親の不安な気持ちを汲み取り、その不安を取り除けるように適切に対処していかなければならないと思いました。

保険薬局での実習は、大学では体験することの出来ない貴重な体験ばかりでした。保険薬局実習で学んだことを活かし、Ⅱ期の病院実習でもより一層頑張っていきたいと思います。

平成28年度Ⅰ期実務実習薬学生記念撮影

女性薬部会

平成28年度 女性薬剤師部会 第17回漢方講座報告

かぜの漢方　なぜ治り、なぜ治らないのか
～かぜの漢方治療成績にバラツキが出るのはなぜ？～

日時：平成28年5月22日（日）12:00 ～ 14:10
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール
講師：清水医院（佐賀県）院長　清水正彦先生

イオン薬局南風原店
我如古 伊都子

平成28年5月22日（日）に女性薬剤師部会漢方講座があり、参加させて頂きました。

体の状態には裏熱(core heat)と裏寒(core cold）があり、漢方薬が最も効果を発揮できる状態は裏熱と裏寒の中間の状態である。裏熱（core heat）の症状として､体の芯の熱感、口渇（冷たい水を多飲)、便秘（強い便臭)、高張尿（色濃い)、腹診（腹壁皮膚温度↑)、舌診（黄色、黄褐色)。裏寒（core cold）の症状として、寒がり（耐寒能低下)、水様性鼻汁、不消化便、下痢、軟便、低張尿（色薄い)、腹診（腹壁皮膚温度↓)、舌診（舌潤、絵の具状）となる。漢方薬が最も効果を発揮できる状態にもっていくためにはエネルギーが必要である。そのエネルギーを生み出すのが食事である。

又、季節の変わり目に体調を崩す人が多くなるのは、気温や気圧の変化によるためである。例えば、低気圧が近づくと副交感神経が過剰に反応する。副交感神経のコントロールがうまくいけば、薬の効果も上がってくる。つまり、季節の変わり目に自律神経のスイッチの切り替えが上手くいけば薬の効果も期待できるという事である。

かぜの治療成績にバラツキが出るのはなぜか？考えられる可能性として、解熱鎮痛剤を使うタイミングが不適切。かぜとくれば方剤を連想、局所症状に拘り過ぎて、全身全体の状態に気が向きにくい、過去の成功体験にもとずいたリピート投与などがあげられる。

＜かぜの漢方治療の考え方＞

発熱、悪寒を感じたら漢方で温め悪寒が消失して発汗が始まるまで体温を上げなければならない。漢方薬は短時間で発汗が始まる体温レベルにもっていく。

＜かぜで直面する症状＞

咳嗽（気)･･･気道の過敏性亢進、気道クリアランス↑

喀痰（水)･･･炎症性、非炎症性の痰、中耳炎の薬の効果がなかなか出ないのは糖質の過剰摂取によって体が冷えすぎ治療効果が上がらない例がある。

喘鳴（気)･･･気道過敏性、気管や気管支平滑筋の過収縮

発汗解表、鎮痛作用（＋）　汗、尿
　麻黄＋桂枝
　麻黄湯、葛根湯、桂枝湯、小青竜湯

解熱消炎作用　　汗、尿
　全身性の炎症シビアー
　　石膏＋知母：白虎加人参湯、消風散
　炎症moderate
　　黄連＋黄芩：三黄瀉心湯、黄連解毒湯、温清飲
　炎症mild
　　柴胡＋黄芩：小柴胡湯、柴胡桂枝湯、大柴胡湯など

利水作用、消炎作用（＋）
　炎症シビアー
　　麻黄＋石膏：越婢加朮湯、麻杏甘石湯
　炎症マイルド
　　防已＋黄耆＋朮：防已黄耆湯、防已黄耆湯＋五苓散
瀉下作用：解熱消炎、駆瘀血
　大黄＋甘草、芒消：調胃承気湯、桃核承気湯、大承気湯、大柴胡湯、大黄牡丹皮湯、通導散など
駆瘀血作用
　桃仁＋牡丹皮：大黄牡丹皮湯、桂枝茯苓丸
　蘇木＋紅花：通導散

以上の事から今回の講座を通して患者の処方内容から病態を推測するだけでなく、バランスのとれた食事が治療にいい影響を与える事を伝え、患者の普段の食生活など生活背景も視野に入れ服薬指導に活かすことが大切だと感じました。

平成28年度 女性薬剤師部会 第18回漢方講座報告

日　時：平成28年7月31日（日）10:30 ～ 12:00
会　場：沖縄県薬剤師会館 ホール
講　師：那覇市立病院 外科部長　友利 寛文 先生
テーマ：がん治療と漢方薬

美里虹薬局
与那覇 乙梨恵

今回、はじめて女性薬剤師部会の漢方講座に参加しました。がん治療と漢方薬というテーマで､那覇市立病院の友利寛文先生から、がん治療における漢方の役割と実際に用いられた漢方処方の症例について講演していただきました。症例だけでなく使用した漢方が投与される疾患、症状なども詳しく解説していただきわかりやすい内容でした。

がん医療における漢方の役割をはじめに説明してもらい、1. 発癌防止、2. 抗腫瘍効果、3. 副作用防止、4. 支持療法、と様々な役割で医師は漢方を治療に用いていることを知ることができました。

漢方自身にがんの発生を抑える効果やがんの転移を抑制する効果があるというのは驚きでした。がん治療というと外科手術、抗がん剤や放射線治療といった西洋医学の分野というイメージがあったからです。しかし、マウスを用いた実験で十全大補湯が肝転移を抑制することや人参養栄湯は肺転移に効果があることが報告されているそうです。

実際のがん治療では、患者さんはがんの進行とともにがんを抑える免疫機能が低下していくことが多く、その免疫機能を改善するために、十全大補湯や補中益気湯などの補剤が用いられます。外科手術では開腹手術後におこる腸閉塞に対する薬として大建中湯を用います。また、がん患者では化学療法や放射線治療での副作用として全身倦怠感、悪心・嘔吐、下痢、筋肉痛などが現れます。その症状を和らげる目的で漢方が使用されています。副作用を抑えることで治療の有用性も高めることができるそうです。抗がん剤はがん細胞だけでなく細胞分裂の盛んな正常細胞にもダメージを与えます。そのため、白血球や血小板の減少、貧血、食欲減退、吐き気、脱毛など様々な副作用に患者さんが苦しみます。

薬物治療を副作用のせいで中断することがないよう、また、がん患者さんの苦痛を取り除いてQOLを高めるためにも漢方薬を用いることの有用性を感じることができた講演でした。

学薬部会

平成28年度（第44回）学校薬剤師部会総会・講演会報告

日時：平成28年6月26日（日）13:00 ～ 16:00
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

西崎病院
名嘉 紀勝

沖縄県薬剤師会館研修室において県薬剤師会館学校薬剤師部会総会が行われた。

平成27年度における事業報告、会計報告と監査報告があり、その後に平成28年度の事業計画、予算について公表された。前年のとの違いは、平成27年度からは幼保認定子ども園への学薬の関わりが求められるようになり、講習会も行われている。

以下に平成28年度事業計画を挙げる。

① 学校薬剤師の資質向上に向けた講習会・研修会の計画と実施
② 学校保健調査の計画と実施、その調査データの解析を行う。
③ 学校環境衛生の未実施項目の実施を働き掛ける。特に日常点検の実施には力を入れていく。
④ 学校薬剤師部会の組織評価を行う。（部会会員名簿の作成、学薬希望者のフィッティング等）
⑤ 関係団体との協力連携の強化
⑥ 学習指導要綱に基づいた指導の実施を充実化するテキストを作成
⑦ 「薬物乱用防止」に「未成年者の飲酒防止と喫煙防止」を盛り込んだ学校児童用資料作成と、それら防止活動の推進
⑧ 県薬各種部会、各委員会との連携を図り、集合研修等を開催。薬学生実習の積極的受け入れ
⑨ 幼保認定子ども園への薬剤師の配置
⑩ 県薬剤師会のホームページの充実化、会報への投稿をする等、薬剤師会内でも学校薬剤師活動を積極的に行う。
⑪ 40周年記念の活動、記念誌の発行を行う。

部会総会に初参加でしたので、学薬部会の活動と運営においては県薬だけでなく日薬からも密に関わっていることが分かりました。より沖縄の学薬活動を盛り上げるためには、人員を増やすことも必要と考えられます。今年度は学校薬剤師部会は創立40周年になるので、学校薬剤師活動を大々的にみせて、学校薬剤師の勧誘に繋げることができたらと考えます。

特別講演では、村田成夫部会長より、「前年度の沖縄県の教育機関における薬物乱用防止等の講演会の実施率は前年度70％程度で、他県では90％を超えている報告もあり、全国に比べると低い方である。」と沖縄の現状を伝え、「七嶋先生から学んだことを、明日からの学薬活動にと活かしてください。」と挨拶をいただき、講演が始まりました。

七嶋先生は、全国で沢山の薬物乱用防止の講演を行ってきており、子ども達を対象とする時は楽しい講演にした方が有効であると冒頭からおっしゃいました。子ども達にきっちりと理解してもらうために、「薬物は法律で禁止されているから」とか、「ダメ。ゼッタイ。」と言っても、果たして効果があるのでしょうか？それよりは、薬物乱用防止講習における目標を「面白かった」「楽しい」として、恐怖を植え付ける指導よりも、内容が楽しい思い出の方が残ると、自身の経験と取り組みを想いと一緒に伝えてくれました。厳しいとこ

＜式次第＞	司会	大城　恭子
○開会の辞		村田　成夫
○平成27年度事業報告		大城　恭子
○平成27年度会計報告		村上　市子
○平成27年度会計監査報告		浜元　朝孝・瑞慶山　純子
○平成28年事業計画		大城　恭子
○平成28年度予算計画		村上　市子
○閉会の辞		大城　恭子
○講演会	座長	村上　市子

演題：「**学校薬剤師が行う薬物乱用防止教室**」
講師：長崎県薬剤師会 理事　**七嶋 和孝**（ななしま薬局代表取締役）

ろでは、「危険薬物等を使うと脳細胞と神経は損傷を受ける。その損傷は修復できない」と、しっかり伝えられました。子どもとはいえ、「健康」のために薬物乱用防止を伝える。また、内容において「自身の生き方」として感じてもらう。これは薬物を断る時の判断となる。または、自己肯定感をしっかり育てることが大事である。

七嶋先生の講演は楽しく聴くことができ、あっという間に過ぎてしまいました。また、薬物乱用防止における具体的な手法を教わることができました。最近の薬物、危険ドラッグの話題が多い中、子ども達のためには楽しませながら啓蒙もしていく必要があり、薬剤師もコミュニケーション能力を磨いていかないといけないと感じました。

お知らせ

学校薬剤師＆学校薬剤師を希望の会員の皆様へ

学校薬剤師部会では、学校薬剤師の配置等の再確認を行っています。新たに学校薬剤師を希望する会員の方、現在の担当校について（変更等の）、ご相談を考えておられる学校薬剤師の先生は、学校薬剤師部会まで連絡下さい。

（連絡先）学校薬剤師部会　　TEL 098-963-8930

卸薬部会

平成28年度 日本医薬品卸勤務薬剤師会 沖縄県支部会報告

日本医薬品卸勤務薬剤師会
沖縄県支部支部長
吉冨 弓江

日時：平成28年7月8日（金）15:00 ～ 18:10
会場：株式会社 琉薬 第1会議室

この度、平成28年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部の理事会・総会・研修会・懇親会を開催しましたので、ご報告致します。

【理事会・総会】

支部総会の次第は下記の通りです。

1. 開会
2. 支部長挨拶
3. 議事
   1）報告事項
      ① 平成27年度支部活動状況報告
      ② 平成27年度支部収支報告
      ③ 平成28年度理事会報告
      ④ 支部会員の入会・退会報告
      ⑤ 薬学生卸見学実習等の受入報告
   2）協議事項
      ① 平成28年度支部活動計画について
         ・沖縄県支部研修会について
         ・各学会参加派遣及び助成について
         ・その他支部活動について
      ② 平成28年度支部予算について
         ・支部会費請求書の送付先について(確認)
      ③ 監事1名、事務局1名の選出について
      ④ その他
4. 閉会

理事会・総会とも滞りなく終了しました。今年度も引き続き、県内外の学会、研修会への積極的な参加を行っていきます。

【研修会】

～ワクチンについて：
武田薬品工業株式会社 **田鍋氏**～

近年、さまざまな種類のワクチンが開発・発売されているので、ワクチンの基本的なことを再確認するために研修をお願いしました。

○定期接種と任意接種：定期接種は国が費用を補助し、市町村が医療機関に委託して行われる。副反応が発現した場合の補償は任意接種と桁違いである。

○定期接種にはA類疾病とB類疾病がある：A類は、疾患の発生及び集団でのまん延予防が目的で、対象者には接種を受けるための努力義務が課せられている。B類は、個人の発病及びその重症化予防、その集団でのまん延予防が目的である。

○ワクチンギャップ：WHOが指示しているが、日本で定期接種化されていないものに、おたふくかぜ、B型肝炎、ロタなどがある（B型肝炎は2016年10月からの定期接種化が決定した）。背景にMMRワクチンによる髄膜炎の副反応が影響していると考えられる。

○ワクチン接種後のアナフィラキシー反応：ゼラチン、タマゴ成分、チメロサール、残留抗生物質などが原因である。

○ワクチンの取扱いについて：保管の適正温度は2 ～ 5℃（WHOでは5±3℃）。演者個人的には、配送時はワクチンを先に納品し、冷蔵庫前で受け渡しをしてほしいほど、温度管理にはもっと注意を払ってほしい。

○インフルエンザワクチン：1本のワクチンに対し必要な有精卵の数は、3価で3 ～ 5個だったのが、4価では6 ～ 7個となった。10年後にはすべて細胞培養の商品に変わるだろう。

ワクチンの配送については温度管理を徹底しているが、メーカーが「冷蔵庫の前で受け渡し」を希望するほどにデリケートな医薬品であることを改めて感じました。

【懇親会】

卸の勤務薬剤師間で様々な内容の情報共有をはかり、いつでも相談がしやすい状況を保っています。

啓発・普及活動

「しごとミュージアム」参加報告

日時：平成28年7月6日（水）14:30 ～ 19:00
会場：沖縄コンベンションセンター展示棟

本会薬剤師無料職業紹介所では、随時100件余りの求人者（殆どが調剤薬局と病院）が登録されておりますが、なかなか求職者がいないのが現状です。インターネットや誌面をとおして募集広告等の広報をしておりますが、状況は改善されておりません。そこで、職業紹介事業も続けながら、広報委員会ならびに青年部会と協働して、『薬剤師職能の啓蒙活動』を展開しています。

去る7月6日（水）に開催された主に高校生を対象に仕事紹介をする全国専修学校各種学校総連合会主催の「しごとミュージアム」での薬剤師ブース出展も同啓蒙活動の一環としており、今回で5回目の参加となりました。

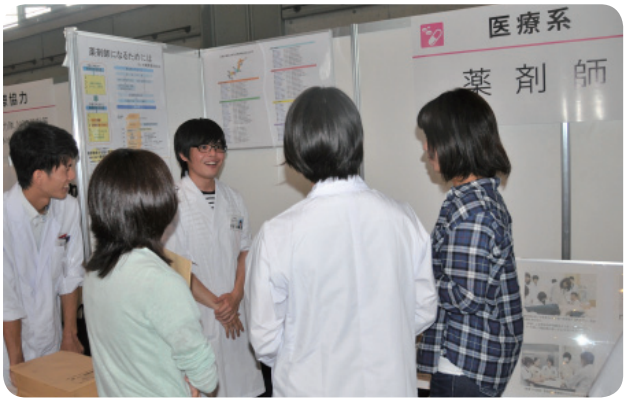
開催期日が薬学生実務実習期間中ということもあり、実務実習担当理事の我喜屋美香理事の協力を得て、3年前から薬学生も同ブースにて啓蒙活動をしていただいており、大いに活躍してもらっています。

主催者側からの情報では、しごとミュージアムに今年は高校生だけでも約2,700人の参加があったとのことです。薬剤師ブースには80余名が訪れ、70名から「薬剤師のイメージについてのアンケート」を得ることができました。

（報告：事務局　大城喜仁）

＜相談対応者＞

薬剤師：伊差川　サヤカ（広報委員会）
薬学生：9名



しごとミュージアム

県内の高校生および若年者を対象に、コンピュータ・情報、美容・理容・ファッション、語学・旅行、ホテル・ブライダル、公務員・法律、保育・幼児教育、建築・土木・インテリア、自動車・航空・機械整備、調理・栄養、医療・福祉・介護など200以上の様々なジャンルの仕事を紹介するイベント。

全国専修学校各種学校総連合会は7月11日を“職業教育の日”と制定しており、沖縄県専修学校各種学校協会は、仕事に就くために必要な専門的技術や技能・知識を教授する職業教育機関として同フェスタを主催。沖縄県が全国ワーストの失業率や新規高卒者の無業者数（率）が全国平均の約3倍で就職内定率も全国ワーストとなっていることから、若年者の就業意識の啓発と各分野の職業を体験学習する機会として開催している。

啓発・普及活動

平成28年度健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告

去る7月26日（火）～27日（水）の2日間の日程で、南部総合福祉センター（東風平町）にて、沖縄県老人クラブ連合会主催のもと、標記講習会が開催されました。

2日目の27日に、本会会員（南部地区薬剤師会から派遣）の阪本崇彰先生（あにも調剤薬局）が講師となって「くすりの正しい使い方」と題して講義をされましたので、この講義を取材してきました。40余名の老人クラブ連合会会員と一般の高齢者が受講されました。

講師の阪本先生は、受講者が高齢者ということで､配布資料の活字だけの講義ではなく、写真やグラフなどを多用したパワーポイントの映像で分かり易く丁寧な講義をされていました。県外のご出身で沖縄方言を交えての講話でないことが今までの講師とは違っていましたが、これを物ともせずユーモア溢れる講話をされ、受講生を引きつけ和気あいあいと楽しく学んでいられたのが印象的でした。

健康づくり支援事業｢リーダー養成講習会｣は、各地区（市町村）老人クラブ連合会において、健康と生きがいづくり活動を推進するため、その担い手となるリーダー（講習会終了後、生きがいと健康づくりに指導的実践者となる者）を養成することで、高齢者の健康づくりと生きがいづくりの支援・推進を図る目的で開催しているとのことです。

高齢者は、加齢とともに薬を使用する機会が増え、また複数の薬を使用することも少なくありません。薬についての知識と理解を深め、その正しい使い方や保管の仕方についての学習の場と、また、医療費高騰による財政圧迫を抑制するための後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用について理解を深める良い機会になったと思われます。

このような講習会を機に薬剤師に親近感をおぼえ、かかりつけ薬剤師・薬局を持っていただければと思いました。

（報告：事務局　大城喜仁）

講師を務めた 阪本 崇彰 氏

啓発・普及活動

未来の産業人材育成事業「職業人講話」について

沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部（本部長:翁長県知事）が取り組んでいる「みんなでグッジョブ運動」は、沖縄県の雇用情勢を全国並みに改善するため、県民が一丸となって取り組む運動で、その中で具体的に取り組んでいる事業に「未来の産業人材育成事業」があります。同事業は、県経済における重点産業でありながら人材確保や人材育成等に課題を抱える7つの産業（観光、情報通信、建設、福祉、医療、文化、物流）を選定し、業界と連携しながら未来を担う産業人材を輩出するため、児童生徒を対象としたプログラムを実施する事業であります。将来の沖縄県の産業界を担う子ども達に対して、早期から産業人材育成を目指して魅力発信のための啓蒙活動を行っています。ちなみに、本会会長も沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部の役員になっており、私はグッジョブリーダーとなっております。

児童生徒のキャリア教育の一環として、「業界の魅力」「仕事に対する想い」等を伝える同事業の取り組みに、本会も賛同し「薬剤師職能PR」を兼ねて事業展開をしています。同事業を県から受託している株式会社ケイオーパートナーズ様は、本会の「薬剤師職能PR」事業を理解され、積極的に取り入れていただいており、7月だけで3ヵ所において「薬剤師職能PR」をさせていただいております。同社の担当者より、ご報告を頂いているので、以下に掲載致します。（文:事務局　大城喜仁）

～ 久米島町立久米島西中学校での取組～

株式会社ケイオーパートナーズ
未来の産業人材育成事業
担当　照屋 愛海

本会会員の山城晶氏が去る2月15日に久米島町立清水小学校で行いました「職業人講話」が大変好評であったことを受けまして、今回は久米島町立久米島西中学校での講師となりました。久米島の医療の現状を知ると共に、普段は見ることのできない薬剤師の仕事を知ることで、医療の仕事に興味を持ってもらい、また、実際に仕事にどう自分たちの勉強が活かされているかを知ることで、社会と学校生活のつながりを学ぶことを目的として取り組まれました。

山城氏の講話は、これらの目的を理解してもらうために、「薬剤師を目指したきっかけや道のり」「薬剤師として働くことのやりがい」などを分かり易く話してもらいました。

この「職業人講話」は、下記の日程で行われた。

日時：平成28年7月14日（月）6校時
場所：久米島町立久米島西中学校　教室
対象：同中学校2学年（1クラス、全41名）

講師：山城　晶 氏

～竹富町立黒島中学校での取組～

去る7月19日(火)に、弊社が沖縄県商工労働部雇用政策課から受託した、「未来の産業人材育成事業」（以下、本事業という）の実施として、竹富町立黒島中学校全学年(全4名)を対象に、一般社団法人沖縄県薬剤師会様と連携し、医療産業に対する興味関心を高める取組みとして職業人講話を行いました。

今回、実施を行った黒島中学校がある黒島を含む竹富町は、9つの有人島に小中学校が点在しているが、島の中に高校がないため、子ども達は中学を卒業と共に島を離れ、自立して生活していかなければならない現状があります。

そのため、今回の実施では、子ども達が島内では見ることのできない職業、働く大人について知ることで、より広い視野をもって職業観を培い、子ども達の自立へのきっかけとなることを考え、島内には薬剤師がいないため、なかなか見ることのできない薬剤師の仕事から医療産業への興味関心を促すこととした。また、仕事に自分たちが勉強していることがどう活かされているかを知ることで、社会と学校生活のつながりを学ぶ機会となることもねらい、一般社団法人沖縄県薬剤師会課長の大城喜仁様に講師紹介の依頼をし、会長である亀谷浩昌様をご紹介いただきました。カリキュラムの中では、医療産業にどのような職業があるかを知ってもらうために、昨年度本事業で制作したDVD「グッジョブお仕事探検隊」を流して生徒達へ映像を見せることで医療産業の仕事についてイメージを促しました。その後、医療産業の中の職業である薬剤師について、亀谷様より薬剤師の働く場所として薬局やドラッグストア、行政、学校薬剤師など様々な場所があることや、学校薬剤師の仕事の中にプールの検査等も行っていることにも触れ、それぞれの職場での仕事内容についてもお話いただきました。また、薬剤師の資格をとるための道のりや薬剤師に求められる資質、薬ができるまでの流れなど、医療産業について理解を深めるお話をしていただきました。

生徒からは「薬の副作用で一番怖いことはどのようなことか」や「効き目が強い薬はドラッグストアとかでは買えないのか」、「薬剤師の仕事で大変なことはどんなことか」など様々な質問が挙がりました。黒島には、学校薬剤師がいないことや診療所がひとつしかないため、薬剤師の方と接する機会が少ないことから、生徒たちは真剣にお話を聴いて今回の機会を自分たちの将来のために役立てようとしている様子が伺えました。

今年度、本事業では離島も含め県内全域で産業理解を促す取組みを行っていきます。今後も、医療産業で働く人の想いと医療に関わる多様な職業の魅力を伝え、未来の沖縄を担う子ども達に対する、早期からの産業人材の育成を行って参ります。

講師：亀谷 浩昌 会長

～宮古教育事務所初任者研修での取組～

去る7月27日（水）に、宮古島にある小学校・中学校の初任者教員（全19名）を対象に、一般社団法人沖縄県薬剤師会様と連携し、医療産業に対する興味関心を高める取り組みとして職業人講話を行いました。

今回の実施は、宮古教育事務所より「3日間の宿泊での初任者教員の研修を行っており、その初日の研修の一環として学校での学びと社会の繋がりについて産業人よりお話を聴きたい」との相談を受けて、本事業で連携している医療産業、福祉産業から講師を招き、パネルディスカッションの形で実施しました。医療産業からは、人材不足の現状や働く上で必要な力や能力などを伝え、かつ、医療産業の理解を促すために講師をご紹介いただきたく、一般社団法人沖縄県薬剤師会課長の大城喜仁様にご協力依頼をしましたところ、本事業で数回、小中学生に対して職業人講話の経験のあった松尾はつよ様をご紹介いただきました。松尾様には、これまでの職業人講話の経験から、子ども達へ伝えてきたことや、働くためにはコミュニケーション能力や会話をすることが大切であることを話していただきました。また、薬の効果や副作用を知るために説明書が読めないといけないため国語力が必要なことや、仕事でグラフを見ることもあるため算数や数学がわからないといけないこと等、学校の中で子ども達が学んでいる教科の大切さについても触れたことにより、教員自身が学校の中で教えていることが社会へ繋がっていることを実感する機会となった様子でした。

参加した教員からは、「コミュニケーション能力が大切だと文部科学省からも言われているため取り組んでいるが、会話をしてコミュニケーションがとれているとは教員自身もまだ言えない。」といった自身のことを振返っている発言や、「子ども達の職業への視野を広げるために、学校でも様々な職業の方々をお呼びしてお話いただいている。子ども達には仕事は『楽しい』と思ってほしいと考えているが、自分自身が教員の仕事以外を知らないため、率直に実際にお仕事は楽しいと思っているか。また、どのようなことが楽しいと感じているか。」といった質問もあり、他の仕事に就かずに教員を目指したことから、今後子ども達の職業への視野を広げていく取り組みを行っていく上で、自分自身も情報を知る必要があるという考えを持つきっかけとなったようでした。

今後も薬剤師会の皆様やその他の医療産業に関わる団体様と連携して、未来の沖縄を担う子ども達への取り組みと共に、その子ども達を支える身近な存在である教員・保護者に対しても産業理解の取り組みを行って参ります。

講師：松尾 はつよ 氏

啓発・普及活動

那覇市立鏡原中学校における職場体験学習

日時：平成28年7月5日（火）～6日（水）
場所：会営薬局とよみ

那覇市立鏡原中学校
教員　佐久本 優太

職場体験学習は、「生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動」（文部科学省）です。平成13年頃から始まり、今ではほとんどの中学校で実施されています。

本校では、毎年6月末～7月初旬に「総合的学習の時間」をまとめ取りし、中学2年生で実施しています。今年度は、7月5日と6日の2日間、2年生194名が63か所の事業所で職場体験学習に取り組みました。

本校の職場体験学習のねらいは、以下の4つです。

① 将来希望している職業や興味のある職業の仕事を実際に体験することで、その仕事内容や自分の適性をより具体的に知る機会にする。
② 実際に働いている人々に接することで、その仕事の苦労や喜び、生きがい、またその仕事が社会でどのように役立っているかを知る機会にする。
③ 社会人･職業人としてのマナーやルール、規律、礼儀、言葉づかいの大切さについて知る機会にする。
④ 学校周辺や地元の企業や職業について、よく知ることで進路の参考にする。

これらのねらいを達成できるよう、1年生から計画的、系統的に進路学習に取り組み、職業の世界や働くことの意義等について学んでいきます。

職場体験学習の主な流れは、

① 1年生の3月に希望する職業を調査する。
② 希望に基づいて、2年生の4月～5月に2学年職員で受入事業所を開拓する。
③ 体験学習に入る前に、「働くこと」についての理解を深める進路学習、「履歴書」の作成、専門学校の講師を招いての「マナー講習会」等の事前学習を行う。
④ 事後、「お礼状」を書き、体験のまとめと個人新聞作成の事後学習を行う。

となっています。

今年度、第一希望に薬剤師を選んだ生徒は6名（女子4名・男子2名）いました。

この度は、沖縄県薬剤師会事務局の大城様、会営薬局とよみの糸嶺様はじめ、職員の皆様にご協力頂き、3名の生徒が職場体験学習を行うことができました。ありがとうございます。

薬局というこれまでにお世話になった事がある場所とはいえ、どのような仕事があるのか、わからない事ばかりの生徒たちでしたので、現場では不安な気持ちがありつつも、色々と知りたいという気持ちで目を輝かせて、職場体験学習に取り組んでいる姿が見られました。業務内容の体験だけでなく、薬の種類や薬剤師の仕事内容、薬剤師になるための進路や中学校でやっておくとよいことなど多くの研修も受けることで、より一層薬局や薬剤師の仕事について理解する事ができたようです。職場体験後の生徒の感想には、『今回の職場体験でいろんな事を学びました。大学からの研修生の方からも薬剤師になるための大学の事を具体的に聞く事もできてよかったです。』『2日間の職場体験を通して、仕事に就く大変さ、仕事をする楽しさなど仕事の魅力について学ぶ事ができました。薬局では、私たちが当たり前のように受け取っていた薬が様々な工夫や手間をかけられることで安全安心して服用できるようになっていると知り、感動しました。』『薬剤師は薬の知識も必要だし、ずっと立ったり歩いたりで体力も必要な大変な仕事でした。薬局の中のことや薬剤師の仕事、なり方など色々なことを学ぶことが出来ました。この職場体験で、大変な所も楽しいところも知ることが出来たので、将来について考えやすくなりました。この経験を参考にして、夢に向かって頑張りたいと思います。』などの言葉がみられ、学習のまとめとして行った新聞作成の様子からも充実した2日間を過ごせたことが伝わってきました。

この経験は、今後の生徒たちの生活に必ず活かされていくものだと思います。将来、今回お世話になった生徒の中から皆様の後輩として会うことになった時には、またよろしくお願いします。

写真提供：那覇市立鏡原中学校

その他会務報告

沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

平成28年6月23日（木）慰霊の日〔ひめゆりの塔構内〕

沖縄戦殉職医療人之碑は、昭和26年10月に沖縄医療団により建立され、去る平成21年の慰霊の日には、ひめゆり平和記念資料館が開館20周年を迎えたことにより、その記念事業の一環として、ひめゆりの塔および周辺の環境整備が取り組まれ、ひめゆりの塔に隣接の沖縄戦殉職医療人之碑の周囲においても植栽、新しい敷石が整備されています。

参拝当日の沖縄戦殉職医療人之碑には、毎年、本会と沖縄県医師会の供花、そして昨年から沖縄県歯科医師会の供花も添えられています。

本会名誉会員の久場トヨ先生、長田紀昭先生におかれましては、御尊父の長田紀助氏（当会第2代会長）が合祀されていることから毎年ご参拝されており、今年もご子息である長田紀与志氏とご参拝されました。先生方と共に、亀谷浩昌会長、神村武之前会長と奥様の康江氏、宮城敦子常務理事、吉田洋史理事が沖縄県薬剤師会としてご参拝、慰霊されたことをご報告致します。

機会がございましたら、沖縄戦殉職医療人への慰霊、追悼に是非ご参拝下さい。

（報告：事務局　大城喜仁）

＜沖縄戦殉職医療人之碑＞

昭和26年10月に沖縄医療団により建立。沖縄戦の戦死者として合祀されている。

薬剤師は、県内・県外あわせて10人近くになると思われる。その内の1人、県薬第2代会長の長田紀助氏（久場トヨ先生、長田紀昭先生の御尊父）は、厚生大臣任命で、佐官待遇の軍属として南部戦線に向かわれ、玉城村（現南城市）字糸数付近で戦没された。喜瀬乗垣氏（キセ薬局・喜瀬乗惟先生の御令兄）は中国大陸の山野で没された。

薬事情報おきなわ No. 240

2016年 8・9月号 : Vol. 31 No. 4
薬事情報センター TEL : 098-963-8931
FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品　平成28年8月31日付

区分	販売名 (　)内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	ビムパット錠50mg (SP 50)	50mg1錠	215.60	ユーシービージャパン	**ラコサミド：**抗てんかん剤（他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法）（新有効成分）
	ビムパット錠100mg (SP 100)	100mg1錠	352.00		
	デュオドーパ配合経腸用液	100mL1カセット	15,004.30	アッヴィ	**レボドパ/カルビドパ水和物：**抗パーキンソン剤（レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善）（新医療用配合剤）
	ヘマンジオルシロップ小児用0.375%	0.375%1mL	260.70	マルホ	**プロプラノール塩酸塩：**乳児血管腫治療剤（乳児血管腫）（新効能・新剤形）
	ピコプレップ配合内用剤	1包	1,032.70	フェリング・ファーマ	**ピコスルファートナトリウム水和物/酸化マグネシウム/無水クエン酸：**経口腸管洗浄剤（大腸内視鏡検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除）（新医療用配合剤）
注射薬	プラルエント皮下注75mgシリンジ	75mg1mL1筒	22,948	サノフィ	**アリロクマブ（遺伝子組み換え）：**高コレステロール血症治療剤/完全ヒト型抗PCSK9モノクローナル抗体（家族性高コレルテロール血症。高コレステロール血症。ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る）（新有効成分）
	プラルエント皮下注150mgシリンジ	150mg1mL1筒	44,481		
	プラルエント皮下注75mgペン	75mg1mL1キット	22,948		
	プラルエント皮下注150mgペン	150mg1mL1キット	44,481		
	ルミセフ皮下注210mgシリンジ	210mg1.5mL1筒	73,158	協和発酵キリン	**ブロダルマブ（遺伝子組み換え）：**ヒト型抗ヒトIL-17受容体Aモノクローナル抗体製剤（既存治療で効果不十分な次記疾患：尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症）（新有効成分）
	カイプロリス点滴静注用10mg	10mg1瓶	23,982	小野薬品	**カルフィルゾミブ：**抗悪性腫瘍剤　プロテアソーム阻害剤（再発又は難治性の多発性骨髄腫）（新有効成分）
	カイプロリス点滴静注用40mg	40mg1瓶	86,255		
外用薬	エピデュオゲル	1g	159.60	ガルデルマ	**アダパレン/過酸化ベンゾイル：**尋常性ざ瘡治療剤（尋常性ざ瘡）（新医療用配合剤）

Medical News

●河北病院女性死亡訴訟－県の敗訴確定　上告不受理～山形（毎日新聞　7月15日）

山形県立河北病院で治療を受け2003年に死亡した女性（当時51）の遺族が県に損害賠償を求めた訴訟で、最高裁第3小法廷は県の上告を受理しない決定をした。病院のミスを認め県に約2300万円の支払いを命じた2審判決が確定した。判決によると、女性は難病の再生不良性貧血で投薬治療を受けていた。病院は検査数値が改善したとして02年12月に一部の薬の投与をやめたところ、再発。03年4月に投与再開したが、同10月に合併症の肺炎で死亡した。1審山形地裁判決は請求を棄却。2審仙台高裁は、病院が03年2月の検査で再発を見落とし、その時点で投薬を再開しなかったため死亡したと判断、遺族逆転勝訴の判決を言い渡した。

●適応外使用の管理強化が必要～薬剤師の関与、院内で不可欠（薬事日報　7月27日）

今年6月に公布された医療法施行規則の改正を受け、適応外使用の医薬品が安易に処方され患者に不利益が生じないように、院内の管理体制強化が求められるようになった。7月に開催された日本医薬品安全性学会のシンポジウムで2大学病院の関係者は自施設の取り組みを提示。適応外使用の管理には薬剤師の関与が欠かせないことを強調した。

●乱立する認定薬剤師制度－増える学会、専門含め45種類に～薬事日報調査（薬事日報　7月27日）

特定領域の知識・技能を習得した薬剤師を認定する「認定薬剤師制度」が28団体35種類に及ぶことが明らかになった。「専門薬剤師制度」は6団体10種類に上ったが、認定薬剤師の多さが際立った。認定薬剤師、専門薬剤師を合わせると45種類。しかし、新たな薬剤師関連学会、認定制度の増加に歯止めがかかる傾向は見られておらず、むしろ乱立状態が拡大している実態が浮き彫りになった。

●日本薬学教育学会が発足－教育効果の検証、改善を推進（薬事日報　8月29日）

日本薬学教育学会が27日、正式に発足した。年に1回開催する学術集会や会誌発行などを通じて、薬学教育関係者が最新の知見や取り組みを発表、共有する場を提供する。教育効果を検証し改善するサイエンスとしての薬学教育学を確立し、薬学教育の向上につなげたい考え。同学会の運営は、薬系大学教員に加え、日本薬剤師会や日本病院薬剤師会の関係者ら11人で構成される世話人会が担当。代表世話人に乾賢一氏（京都薬科大学）が就任。

●原因不明のまひ95人に　エンテロウイルス関連か（共同通信　8月30日）

子どもを中心に発熱に伴って手足のまひが起きる原因不明の症例について、厚生労働省の研究班は29日、昨年8～12月にまひを訴え入院した患者が95人、検査ができた患者の約4分の1から、かぜに似た症状を引き起こす「エンテロウイルスD68」を検出した。感染予防にはうがいや手洗いが有効だという。

●東北大、妊産婦守る避難所マニュアル作成（河北新報　8月30日）

災害発生時の避難所で妊産婦と乳幼児を守るための情報共有マニュアルを、東北大東北メディカル・メガバンク機構の菅原教授（周産期医学）らの研究グループが作成。「一般・避難所運営者向け」「保健・医療関係者向け」の2種類。「発災後～6時間」「慢性期・1～3カ月程度」など時間の経過に伴い収集すべき情報、提供すべき支援情報をリストアップした。東日本大震災では、避難所で妊産婦が長期間見過ごされるケースがあった。マニュアルは機構のホームページで入手可能。

●受動喫煙対策は世界最低レベル　厚労省検討会が痛烈報告（朝日新聞　8月31日）

厚生労働省の有識者検討会は「喫煙と健康影響」に関する報告書（たばこ白書）案をまとめた。日本の受動喫煙対策を「世界最低レベル」とし、「屋内の100％禁煙化を目指すべきだ」と提言している。白書をまとめるのは4回目。今回、白書として初めて、日本人での喫煙と病気の因果関係を、米国の評価方法に準じて、「確実」「可能性あり」「不明」「無関係の可能性」の4段階で科学的に判定した。受動喫煙では、肺がん、虚血性心疾患、脳卒中などを「確実」と認定した。世界保健機関（WHO）による各国のたばこ対策の評価では、日本は「受動喫煙からの保護」「マスメディアキャンペーン」「広告、販売促進活動などの禁止要請」の3項目が「最低」で、G7諸国で最悪だった。

●薬大量投与、女性死亡　岐阜市民病院（岐阜新聞　8月31日）

岐阜市民病院は30日、昨年12月に脳症の70代女性患者に血糖値を確認せず大量のステロイドを投与、高浸透圧高血糖症候群で死亡する医療事故が起きたと発表した。病院は全面的に過失を認め、遺族に賠償金約2033万円を支払うことで示談した。女性は意識障害で入院、発症率が極めて低い自己免疫疾患「橋本脳症」と診断された。昨年12月1日から点滴でステロイドを大量に投与したところ、9日後に脱水などの症状が現れ始め、12月11日に死亡した。女性は糖尿病を抱えていたが、担当した内科の男性医師は血糖値の確認を一度も指示していなかった。

●子どもの用法用量明示へ　医薬品の添付文書に（共同通信　9月2日）

厚生労働省が来年度から、医療用医薬品の添付文書に小児の用法・用量の目安や、安全に関する情報を記載するよう製薬企業に促すことが分かった。製薬企業による臨床試験（治験）の多くは採算性の問題などから大人のみを対象とし、子どもの効果や安全性が確認された薬は非常に少ない。医師の判断で使う「適応外使用」が常態化している。厚労省は既に、国立成育医療研究センターに「小児医療情報収集システム」を構築。約40医療機関約14万人分の小児患者に関する医薬品情報をデータベース化している。医療現場では、海外での使用例や過去の経験などに基づき医師の裁量で使用しているのが実情という。

●制吐剤のエビデンス発信－薬剤師主導、世界初の成果（薬事日報　9月2日）

制吐剤「パロノセトロン」の有効性を検証するため、薬剤師主導で実施した多施設共同第Ⅲ相試験「TRIPLE」の研究成果が、癌専門誌「Annals of Oncology」に掲載された。パロノセトロンは、既存薬より薬価が5倍程度高いにもかかわらず、標準的な3剤併用制吐療法に用いる科学的根拠が乏しかった。今回、抗癌剤の投与開始後、数日間続く吐き気や嘔吐を既存薬のグラニセトロンよりも軽減できることを世界で初めて証明し、薬剤師主導の臨床研究でエビデンスを発信する大きな成果を得た。

●過量服薬の原因薬剤トップ10～医療経済研究機構（読売新聞　9月7日）

医療経済研究機構主任研究員の奥村さんらのグループが調査、今年8月下旬、米科学雑誌「PLOS ONE」に論文が掲載された。調査は06年9月から13年6月までの間に、東京医科歯科大学救命救急センターに自殺関連行動で入院した933人を対象とした。このうち、意図的な過量服薬を行い、過量服薬以外の自殺関連行動を伴わず、原因薬剤を特定できた676人を解析対象とし、原因薬剤と入院の経過などをまとめた。解析対象者のうち、約86％にあたる581人は原因薬剤が抗不安薬・睡眠薬だった。解析対象者全体の誤嚥性肺炎発生率は10.7％。使用患者数が5番目に多いベゲタミンは、28.8％が誤嚥性肺炎を発症した。

〈過量服薬の主な原因薬剤（上位から）〉

1 フルニトラゼパム 2 エチゾラム（デパス）3 ブロチゾラム（レンドルミン）4 ゾルピデム（マイスリー）5 クロルプロマジン・プロメタジン・フェノバルビタール合剤（ベゲタミン）6 トリアゾラム（ハルシオン）7 ブロマゼパム（レキソタン）8 アルプラゾラム（コンスタン、ソラナックス）9 バルプロ酸ナトリウム（デパケン）10 ニトラゼパム（ベンザリン）

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例１

〔内服薬調剤〕処方せん監査間違いに関する事例

（事例番号：000000047579）

事 例

【事例の内容】

医療機関Ａにおいて、本来、メトレート錠２ｍｇ１日３錠、週１回２週分と処方されるところ、１日３錠１４日分で処方された。処方せんを受け取った薬剤師はそのまま調剤し、患者は薬袋の記載通り１０日連続で服用した。患者は口内炎、下痢、倦怠感等の症状が現れたため別のクリニックＢを受診し、処方せんが発行された。その処方せんを受け取った薬剤師がすぐに医療機関Ａに疑義照会し、患者は至急受診となった。検査の結果、白血球などの検査値に異常はなく、１週間の休薬後、服薬再開となった。

【背景・要因】

注意力散漫であった。医師が２日分（２週間分）のつもりで１４日分処方していたが、大学病院の処方では、１４日分の処方が実質は１４週分の処方であることを度々経験していたため、疑問に思わず調剤した。他剤（ハイペン錠、サイトテック錠）の処方も１４日分であったが、頓服の指示であると思い込んだ。初回処方であったことを考慮すれば、１４週分でよいのか疑義照会すべきであったが、気づかなかった。また、週１回の服用指示がないことを疑問に思わないまま交付した。

【薬局が考えた改善策】

副作用の多い薬が初回に長期処方されている時は注意することを再度薬局内で共有した。

事例のポイント

○患者は薬袋や薬剤情報提供文書を見て服用することが多いため、仮に医薬品が正しく調剤されていても、薬袋や薬剤情報提供文書に誤った記載があれば、その通りに服用することになる。

○メトトレキサートの連日服用に関する事例は、過去にも報告されており、重大な副作用に繋がる恐れがある。

○このほかに休薬期間が設けられている医薬品は、抗がん剤等に多くみられ、適切な休薬がない場合には重篤な副作用の発現に繋がる恐れがある。

○患者またはその家族からの聞き取りで確認するとともに、誰が見てもわかるように薬袋や薬剤情報提供文書に記載することが大事である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例２

〔その他の管理〕セット忘れに関する事例

（事例番号：000000047807）

事 例

【事例の内容】

お薬服用カレンダーの就眠前の箇所に、フェノバール散１０％　０.５ｇ／包　がセットされていなかったため、患者は薬剤を７日間服用していなかった。幸い体調変化はなかった。薬剤師が薬剤を配達してお薬服用カレンダーにセットしていたが、フェノバール散１０％を持って出ていなかった。薬剤は調剤していたが、次週の配達分のところに入っていた。他にも薬剤が多く処方されていたこともあり、セット忘れに気付かなかった。

【背景・要因】

未記載

【薬局が考えた改善策】

未記載

事例のポイント

○薬剤師が患者宅を訪問して医薬品の管理を行うことが増えてきており、その際にカレンダーやケースを利用する場合がある。その場合、医薬品のセットも薬剤師が行うことがあり、患者はセットされたものを服用することになる。

○複数で訪問することは多くはないと思われるため、薬局での調剤のように誰かが鑑査をしてくれるわけではない。在宅療養には多くの職種が関わっているため、他の職種が医薬品の服用や管理で問題点を感じた場合は、必ず薬剤師に連絡が来る体制づくりが必要である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例３

〔疑義照会〕薬剤変更に関する事例

（事例番号：000000047696）

事 例

【事例の内容】

患者は嚥下が困難であり、半年振りの来局であった。今回の処方は、カロナール錠３００、ムコスタ錠１００mg ３錠分３毎食後７日分であった。前回は粉砕して調剤していたが、ムコスタ錠１００mgは粉砕すると苦味があること、また当薬局ではムコスタ顆粒２０％を採用していないことから、在庫があるセルベックス細粒１０％への代替処方について処方医に疑義照会した。同時にカロナール錠３００の剤形変更も提案した。その結果、カロナール細粒２０％　４．５g、セルベックス細粒１０％　１．５g分３毎食後７日分に変更となった。

【背景・要因】

前回の来局からしばらく期間があいたが、前回の薬剤服用歴とお薬手帳の履歴から粉砕が望ましいと判断した。また、粉砕後の薬剤の味によってアドヒアランスが低下する場合も考えられた。

【薬局が考えた改善策】

粉砕の可否と患者のアドヒアランスを考慮し、調剤する。

事例のポイント

○患者はたとえ医薬品が服用しにくくても医師にはなかなか言い出せないことがある。

○患者や家族から服用状況を聞き取る中で、粉砕の可否や嚥下状況を考えた上で医薬品の剤形変更を提案することは薬剤師の重要な業務の一つである。

○患者が自己判断で粉砕等を行っている場合も考えられるが、粉砕することで吸湿等により医薬品が変化することもあるため、薬剤師が服薬状況を聞き取ることは薬学的管理の観点からも重要である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例４

〔内服薬調剤〕薬剤取違えに関する事例

（事例番号：000000047954）

事 例

【事例の内容】

患者が処方せんを持参したが、薬局には処方された医薬品がなく、その旨を患者に説明し明日までに用意することを伝えた。その時にツムラ温経湯エキス顆粒（医療用）のところツムラ温清飲エキス顆粒（医療用）を注文した。医薬品が納入され、注文をした薬剤師Ａが調剤し、薬剤師Ｂが鑑査を行った。患者には薬剤師Ａが説明し交付した。交付した次の日、処方せんの入力が間違っていたことに気付くと同時に、間違って調剤、交付したことが判明した。すぐに患者に連絡し、服用を中止するように説明した。ツムラ温清飲エキス顆粒（医療用）を回収しツムラ温経湯エキス顆粒（医療用）を渡した。

【背景・要因】

未記載

【薬局が考えた改善策】

パソコンに登録されている全ての漢方薬にそれぞれの番号を入力した。処方せんの内容を入力する時には一文字ずつチェックを入れたうえ、漢方薬の薬品名の横に番号を記載する。交付する前に、薬剤情報提供文書で再度確認するように徹底した。

事例のポイント

○薬が不足した場合は、医薬品の手配や患者との対応、薬剤服用歴などへの記録、他の薬剤師への申し送りなど、煩雑な業務が発生するため気ぜわしく、ミスを誘発しやすい状況となる。

○急配を依頼する場合、薬局側の発注そのものの誤りや、卸側の納品ミスが起きる可能性があるため、医薬品名や規格・剤形の確認は検品時、調剤時、交付時にいつも通りの手順で複数で行うことが重要である。

○医薬品の不足等により「即時調剤ができない場合の対応」についての手順を作成し、職員間で共有し遵守することで、急ぐ場合でも安全な調剤が行える環境の整備が必要である。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例５

〔注射薬調剤〕処方せん監査間違いに関する事例

（事例番号：000000047559）

事 例

【事例の内容】

ヒューマログミックス２５注からの切り替えでライゾデグ配合注フレックスタッチが処方された。前処方薬に比べ単位数が大きく増加していたが、疑義照会は行わなかった。鑑査・交付者は患者に単位数について尋ねたが、「この単位でよい」との返答だったため、そのまま交付した。しばらくして交付者は、単位数について改めて疑問を持ち、病院に確認したところ、単位数の間違いがわかった。直ちに患者に連絡をとり、正しい単位数を伝えた。患者はまだライゾデグ配合注フレックスタッチを使用していなかった。

【背景・要因】

患者本人が、かなりはっきりと「この単位で間違いない」と話していたため、交付者も正しいと思い込んでしまった。事前に疑義照会をすべき事例であったが、しなかった。

【薬局が考えた改善策】

インスリンの切り替えを含め、単位数が大きく変更になっている時は処方医に疑義照会する。

事例のポイント

○インスリンの使用単位については、受診時に医師が検査値等に基づき決定し患者に説明するため、患者本人が把握している場合が多い。糖尿病手帳等に記載している場合もあるが、口頭での説明のみの場合も考えられる。

○病院や薬局での待ち時間が長い場合、患者は早く帰りたいという思いから、特に薬局での服薬説明時に話をあまり聞かずに生返事をする場合がある。

○本事例では、患者本人に確認して交付した後も疑問が払拭されないため、疑義照会を行うことで処方の誤りを発見した。このように、患者が急いでいる等の状況によっては、交付後にでも確認することで、誤った医療の提供を防ぐことができる。

○処方せんやお薬手帳と一緒に糖尿病手帳も預かることができれば、より詳しい情報が入手できる可能性がある。

○インスリンの場合は、単位数の違いによって患者の状態に大きな変化を与える可能性があるため、確認の手順を作成し、確実に調剤、説明を行うよう徹底する必要がある。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2016年6月 事例６

〔疑義照会〕分量変更に関する事例

（事例番号：000000047743）

事 例

【事例の内容】

８０歳代の女性に神経内科より発行された処方せんを受け付けた。処方内容の一部に、エリキュース錠５ｍｇ　１回１錠１日２回朝夕食後服用２８日分と記載があった。当薬局で管理している薬剤服用歴簿の記録によると、エリキュース錠５ｍｇが処方されるのは初めてであり、また来局の間隔も前回から３ヶ月以上経過していることが判明した。患者に上記内容を確認したところ、「他の医療機関に入院しており、退院後はじめての診察だった。薬剤は入院時と同じものを出しておくと言われた。」との申し出があった。お薬手帳の記載内容を確認したところ、入院時よりエリキュース錠を１回５ｍｇ　１日２回服用していたことが分かった。エリキュース錠の添付文書には、用法及び用量に関連する使用上の注意として、「次の基準の２つ以上に該当する患者は、出血のリスクが高く、本剤の血中濃度が上昇するおそれがあるため、１回２．５ｍｇ　１日２回経口投与する。８０歳以上、体重６０ｋｇ以下、血清クレアチニン１．５ｍｇ／ｄL以上」と記載されているため、本人に体重を確認したところ、体重は５６．６ｋｇであった。年齢８０歳以上、体重６０ｋｇ以下に該当しており、分量が過剰である可能性があるため、処方医に疑義照会を行った。エリキュース錠２．５ｍｇ　１回１錠１日２回朝夕食後服用２８日分に変更するとの回答があった。

【背景・要因】

入院時の処方内容をそのまま処方してしまったことが、今回の事例の発生要因の一つと考えられる。

【薬局が考えた改善策】

エリキュース錠などのハイリスク薬の中には、年齢や体重、腎機能の検査値等により用法・用量を決定すべきものも存在する。体重や腎機能などの値は、月日の経過と共に変化する可能性があるものであり、処方の都度確認が必要となる。最近では、これらの検査値が処方せんに記載されている場合もあるが、必要であれば医療機関に連絡する等してこれらの値を確認し、処方内容に反映させることも薬局および薬剤師の役割の一つと考える。また、薬局内で、これらのハイリスク薬の一覧を作成し、周知させておくことも有用であると考える。

事例のポイント

○入院中からの継続処方ではあったが、患者の身体状況を踏まえ、医薬品の分量に疑問を持ち、薬学的管理の観点から分量変更に至った事例である。

○在宅医療を中心に、薬剤師によるフィジカルアセスメントの重要性も増してきており、外来での調剤業務においても、処方せんだけを見るのではなく、患者の身体状況や医薬品の特性を考えることが重要である。

○最近は処方せんに検査値が記載されることもあるため、薬剤師は医薬品と検査値の関係を学びながら、適切な薬物治療に貢献していくことが求められている。

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。
※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「公開データ検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

医療事故情報収集等事業　医療安全情報　No.116　2016年7月

与薬時の患者取り違え

事例１

看護師は、患者Bの氏名が記載してある薬を持って患者Aのところに行った。看護師は患者Aを患者Bと思い、患者Bの薬を見せながら「Bさんですね」とフルネームで声をかけた。患者Aは「はい」と返答し、患者Bのフロセミド錠40mg1錠を内服した。看護師は、その直後に患者Aのネームバンドの名前が目に入り、間違いに気づいた。

事例２

看護師は、患者Bに睡眠薬を投与する際、患者Aを患者Bと思い込み、同性で同年代の患者Aの病室に行った。看護師は、薬包の患者氏名とネームバンドの照合を行わず、患者Bの薬を患者Aの胃管より投与した。その後、患者Aが舌根沈下を起こした際、看護師は患者Aには睡眠薬の指示がなかったことに気付いた。患者Aのゴミ箱を見ると患者Bの氏名が記載された空の薬包があった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- **与薬時、薬包などの氏名とネームバンドを照合する。**
- **口頭で患者を確認する際は、患者に氏名を名乗ってもらい、薬包などの氏名と照合する。**

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

7〜8月に薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】PPIとH2ブロッカーを併用することはありますか。（薬局）
【回答】PPIとH2ブロッカーはともに胃酸分泌抑制効果を有する消化性潰瘍治療薬です。作用の面からも、通常両者が併用されることはありませんが、例外的に難治性の逆流性食道炎に使用されることがあります。PPI服用中にも関わらず、夜間の胃内pHが4より低い状態が60分以上続く症状（nocturnal acid breakthrough（NAB））に対し、常用量のPPIに就寝前にH2ブロッカーを追加投与することで夜間の胃酸分泌が抑制される事が報告されています。併用療法は、胃食道逆流症診療ガイドラインで推奨される、PPI療法（常用量投与、倍量分割投与、常用量分割投与、他のPPIへの変更）で効果不十分な場合に行われています。
参考：小池智幸：胃食道逆流症の薬物療法（2013年7月29日放送 病薬アワー）、岩切勝彦：初期治療から維持療法、そしてPPI抵抗性GERD：（CLINICIAN（642））

≪消費者向け「おくすり相談室」事例より≫

【質問】4か月の子へ授乳中。旅行時に乗り物酔いの薬センパア（大正製薬）を飲みたいけど、大丈夫ですか？（女性）
【回答】車酔いで旅行が楽しめないのはおつらいですね。お尋ねのセンパア（チュアブル錠）には塩酸メクリジン、スコポラミン臭化水素酸塩水和物が配合されており、乗り物酔いによる吐き気やめまい・頭痛等を抑えます。お薬の殆どは母乳に移行する事が知られていますが、その量はお母さんの量の1%未満とされています。センパアに配合されている成分は授乳中に服用しても赤ちゃんへの影響は少ないものと考えられています。
参考：母乳とくすり（南山堂）、妊娠・授乳とくすりQ&A（じほう）

【質問】整形外科から処方されたロキソニンやアデフロニック（一般名：ジクロフェナクナトリウム）を服用中、イタリアの薬局で処方されたNIMESULIDEも服用したい。コーチは大丈夫と言うが。（選手）
【回答】NIMESULIDEは日本では未承認の鎮痛薬です。2016WADA禁止表の禁止物質には該当せず、投与経路にかかわらず競技会、競技会外ともに禁止されない薬剤とされています。しかしながら、NIMESULIDEは以前に他国において重篤な肝障害が報告され、安全性情報が出された薬剤でもあります。医薬品等の服用は自己責任であることを踏まえ、できれば日本で未承認のNIMESULIDEの服用は控え、現在病院から処方されているお薬された方がいいでしょう。
＊NIMESULIDE（一般名）：COX-2選択的阻害薬。2007年にアイルランドが重篤な肝障害の報告を受け、販売承認を一時中止する等の措置がとられた。
参考：Martindale35、医薬品安全性情報5（22）

【質問】高校生の娘が生理痛で飲んだイブで唇が腫れた。いつもは大丈夫なのに。自宅に兄弟に処方された痛み止めと、本人が腰痛で処方されたロキソニンがある。飲ませてもいいですか。（女性）
【回答】普段服用しているお薬であっても、体調などによっては副作用が現れる事があります。また、病院から処方されたお薬は患者さんの状態に合わせて種類や量が決められています。たとえ家族であっても、本人以外の人に処方されたお薬を服用するのはお勧めできません。ロキソニンは、生理痛にも効果がありますが、常に生理痛が重いのであれば、子宮内膜症などの疾患が原因の事も考えられますので、婦人科を受診されることをお勧めします。

【質問】歯科でフロモックスを処方され3日間飲んだ。歯槽膿漏で腫れがひどく、膿もあるのに薬しかもらえなかった。切開してもらえるものだと思っていたのに。（女性）
【回答】歯槽膿漏（歯周病）の場合、通常は歯周ポケットと言われる部分の歯垢・歯石を除去する等の治療が行われます。しかしながら、たまった膿が排出できず、腫れが広範囲にわたり、痛みがひどい場合には、抗生剤や抗菌剤で内側から歯茎内の細菌を抑えた後に、外科的治療へ進む事もあります。薬を飲んでも症状が治まらないようでしたら、もう一度受診してください。
参考：歯周病患者における抗菌療法の指針2010（日本歯周病学会編）、歯科におけるくすりの使い方2011-2014（デンタルダイヤモンド社）

【質問】黒酢を飲んでいたら、だるさが出て肝機能もGOTが28→149に、GPTが22→156に上がった。今は止めているが、肝臓に悪いのですか？（女性）
【回答】過去に日本人男性で黒酢によるアレルギーの報告があります。黒酢を含む健康食品の3〜4カ月の摂取により、肝機能の数値が上昇、摂取中止により改善したとされています。今回のだるさの症状や肝機能の上昇は、黒酢により肝機能に影響があったものとも考えられます。
参考：健康食品の安全性情報：国立健康栄養研究所HP

【質問】家族がアレンドロン酸ナトリウム錠35mgの効果を調べるために、医院で尿を取ったと言っている。骨の検査は、レントゲンの他にどんな検査がありますか。（女性）
【回答】尿検査や血液検査は骨代謝マーカーの測定に使用されます。これは骨代謝の状態が正常かどうかを把握するための検査です。その他、レントゲン検査では骨折や変形の有無、骨粗しょう症を診断します。また超音波などを使って骨密度を調べる検査もあります。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

＊薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

◇医薬ジャーナル　52巻 7号
＊PK/PDに基づく薬物療法と新薬開発の最前線
◇医薬ジャーナル　52巻 8号
＊薬剤疫学 ～医療ビッグデータの利活用～
◇エキスパートナース　32巻 7月号
＊病棟ナースが行う認知症ケア
◇エキスパートナース　32巻 8月号
＊ナースのための血ガス講座
◇エキスパートナース　32巻 8月臨増
＊急変対応Q＆A
◇きょうの健康　7月号
＊肩こり・肩の痛み
◇きょうの健康　8月号
＊胃の病気
◇月刊薬事　58巻 9号
＊日常頻用される検査値を読み解く！
◇月刊薬事　58巻 10号（増）
＊その患者・その症例にいちばん適切な使い方がわかる～ステロイド療法のエッセンス
◇月刊薬事　58巻 11号
＊目指せ！ ICUにおける薬物治療の標準化～自信と根拠をもって実践するために
◇産科と婦人科　83巻 7号
＊ART最前線
◇産科と婦人科　83巻 8号
＊骨盤臓器脱と排尿障害 Up to Date
◇総合診療　26巻 7号
＊感染症ケアバンドル・チェックリスト
◇総合診療　26巻 8号
＊The 初診外来
◇調剤と情報　22巻 9号
＊かかりつけ薬剤師なら知っておきたい肝機能低下のサインと対応
◇調剤と情報　22巻 10号
＊がん患者のケアマネジメントー大腸がん編ー
◇治療　98巻 7号
＊総合診療医・漢方医 コラボ企画 手強いコモンディジーズ
◇治療　98巻 8号
＊新薬に飛びつかない！ 既存薬・新薬との上手なつきあい方
◇日経ドラッグインフォメーション　225号
＊疑義照会のコツと勘所
◇日経ドラッグインフォメーション　226号
＊この相互作用を見落とすな
◇日経メディカル　584号
＊「高額薬剤が国を滅ぼす」は本当か
◇日経メディカル　585号
＊どうする？その失神
◇日本医事新報　4807号
＊腸内細菌の臨床応用の可能性
◇日本医事新報　4808号
＊ディオバン事件～問題点と教訓を考える
◇日本医事新報　4809号
＊増加する食中毒の傾向と対策
◇日本医事新報　4810号
＊肺MAC症マネジメント
◇日本医事新報　4811号
＊中高年者に対するロービジョンケア
◇日本医事新報　4812号
＊アルコール使用障害と早期対応
◇日本医事新報　4813号
＊熱性けいれんの診療の現在
◇日本医事新報　4814号
＊在宅でがんの痛みに対処する
◇日本医事新報　4815号
＊2型糖尿病のインスリン外来導入時の注意点
◇日本医事新報　4816号
＊若年女性の裂肛を治療する
◇日本医事新報　4817号
＊癌免疫療法の臨床応用への可能性
◇薬局　67巻 7号
＊薬物相互作用～適正なDDIマネジメントを実践するためのポイント
◇薬局　67巻 8号
＊スタチン～明らかにされた有益性とその限界を実地臨床に活かす

【今月の論文等】

■薬物療法■

► 適応外使用の処方せんの読み方 妊婦のトキソプラズマ感染症(73)
月刊薬事58(9)　p.99
► 適応外使用の処方せんの読み方 がん患者の皮膚潰瘍部位の悪臭(74)
月刊薬事58(11)　p.151
► 胸部X線で異常がない2～3週間続く咳嗽のアプローチ
治療98(7)　p.964

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

►検査で異常所見がみつからない腹痛、慢性下痢
治療98(7)　p.1004
►慢性腰痛治療で広がるサインバルタ処方
日経ドラッグインフォメーション(225)　p.31
►皮膚障害を抑えつつ服用継続　苦肉の策のイレッサ隔日投与
日経ドラッグインフォメーション(225)　p. PE21

■新薬■
►新薬くろ～ずあっぷ　ロコアテープ
調剤と情報22(8)　p.87
►新薬くろ～ずあっぷ　イフェクサー SRカプセル
調剤と情報22(9)　p.49

■安全性情報■
►Dr. 上田剛士のエビデンス実践レクチャー！　クスリとリスク・4
テオフィリン中毒
月刊薬事26(7)　p.612
►Dr. 上田剛士のエビデンス実践レクチャー！　クスリとリスク・5
気管支喘息患者に安全な薬剤
月刊薬事26(8)　p.691
►レジデント Case Conference：糖尿病合併症治療および血糖コントロール後も 口渇・多尿が持続した50代男性
月刊薬事26(8)　p.699
►前立腺肥大症患者にフスコデ配合錠の処方
調剤と情報22(10)　p.1189
►副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く(51)
1. ダビガトランによる抑うつ症状
2. ポリスチレンスルホン酸カルシウムおよびセベラマー併用でクエチアピンの血清中濃度が低下
3. メマンチンによる角膜内皮障害
4. 制酸薬併用でスニチニブの臨床効果が減弱する可能性
5. ダビガトランによる有害事象自発報告には不適切な薬物の併用が多い
6. ドネペジルによる難治性しゃっくり
医薬ジャーナル　53(7)　p.150
►副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く(52)
1. カペシタビンによる顎口腔ジストニア
2. コリンエステラーゼ阻害薬による薬物有害反応の特徴
3. ジルチアゼム併用でアピキサバンの血漿中濃度が上昇
4. リファンピシン併用でクリンダマイシンの血漿中濃度が低下
5. テルミサルタンによる筋毒性
6. イソニアジドにより痙攣発作を呈した飲酒、喫煙患者
医薬ジャーナル　53(8)　p.152

■産婦人科■
►妊婦が使用できる解熱鎮痛薬は？
日経ドラッグインフォメーション(225)　p. PE37
►妊娠計画のある若い女性の頭痛
治療　98(7)　p.1004
►月経困難症とトラニラスト
日本医事新報(4810)　p.50

■臨床検査■
►疑義照会事例でわかる検査値の読み方　薬剤性高血糖を発見し処方変更を提案
調剤と情報　22(9)　p.67
►疑義照会事例でわかる検査値の読み方　腎機能を考慮した処方提案で副作用を改善
調剤と情報　22(9)　p.67

■服薬指導■
►糖尿病発症で尿酸値が低下した患者
日経ドラッグインフォメーション(225)　p. 27
►新規ＳＮＲＩイフェクサー服薬時の注意点は？
日経ドラッグインフォメーション(226)　p. PE33
►皮膚科でコルヒチンが処方された理由
日経ドラッグインフォメーション(226)　p. PE39
►スタチンとマクロライド系薬の相互作用
日経ドラッグインフォメーション(226)　p.33

■漢方薬■
►マクロライド療法効果不十分な慢性副鼻腔炎症例に対する辛夷清肺湯の有効性についての検討
新薬と臨床65(8)　p.1052
►抗がん剤治療による筋肉痛に対する芍薬甘草湯の効果
新薬と臨床65(8)　p.1082

■サプリメント■
►グルコサミン塩酸塩の摂取がヒトの膝の痛みと膝特異的QOLに及ぼす影響
新薬と臨床65(7)　p.946

■その他■
►パーキンソン病における嗅覚障害
日本医事新報(4811)　p.49
►緩和ケア：「早く死にたい」と言う患者への対応
日本医事新報(4809)　p.56
►世界の薬局で実践されるリフィル調剤(前編)
調剤と情報 22(9)　p.105
►世界の薬局で実践されるリフィル調剤(中編)
調剤と情報 22(10)　p.119

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

妊娠計画のある若い女性の頭痛

治療　7月号

片頭痛はエストロゲン血中濃度の変化に対応し、妊娠経過中に60-80％の症例で軽快し、出産後1か月以内に再増悪することが知られている。妊娠中・妊娠可能性のある女性へは、適切な情報をもとに患者にわかりやすく説明を行い、同意を得た上で処方する。添付文書の他、「妊娠と授乳(南山堂)」等の専門書、「妊娠と薬情報センター」によるサイトも有用である。妊娠中は胎児への影響を考慮しアセトアミノフェンが第一選択薬となり、最大1,000mg/回を用いる。NSAIDsは妊娠初期では有益性投与となっているが、妊娠中期(22週以降)では動脈管早期閉鎖のリスクとなるため使用を避ける。妊娠中のスマトリプタン投与は流産率の優位な増加や催奇形性は認められなかったという報告がある。一方、妊娠中・後期では出産時の多量出血の報告があるため注意を要する。嘔気を伴う場合にはメトクロプラミド10mgの併用も有用であり、催奇形性はなく比較的安全に用いることができる。

亀田ファミリークリニック館山
山下洋充・濵井彩乃

糖質制限食が威力を発揮した重症糖尿病患者

日本医事新報　4815号

HbA1c13.8％、随時血糖値664mg/dLの34歳独身男性患者。糖尿病歴やソフトドリンクの多飲はなく、両親とも2型糖尿病。このようなケトーシス状態でご飯等の糖質を食べると、さらに食後血糖値が上昇してインスリンが必要になるので、食後血糖値をほとんど上げない糖質制限食で治療すれば薬をできるだけ使わなくて済む。「入院してインスリンを打つ治療が常識だが、外来で短期間に糖質を完全に抜く治療もあるよ」「元気だし食欲も普通なのにどうして入院が必要なの？」という会話の後、高血糖の危険性を十分説明し外来治療となった。管理栄養士の指導のもと糖質制限をしっかり守ってくれたので、驚くほどの速さで血糖値が下がっていった。2週間後には空腹時血糖値は145mg/dL、2年後のHbA1cは6.4％に安定している。糖質制限によってできるだけ薬を使わない方針としているが、厳しい糖質制限食を長く続けると癌死が増える事が観察研究から明らかなので、長く続けるには緩やかな糖質制限がよい。

灰本クリニック院長　灰本 元

寝たきり患者への骨粗鬆症治療の意義は？

日本医事新報　4812号

寝たきり患者への骨粗鬆症治療とは，介護動作に伴って生じる「介護骨折」を予防することを意味します。一度骨折を起こすと、その後のケアが患者に苦痛を伴うものとなり，家族とメディカルスタッフにとって非常に負担の大きなものとなります。臥床生活の継続に支障がなければ、保存治療が選択肢になりますが、体動のたびに疼痛を伴う場合や、骨折部断端の突出により皮膚を穿孔する可能性がある場合などは、手術治療が必要になります。人生の終末期に質の高い穏やかな余生を過ごすという目標において、骨粗鬆症治療は意味のあることです。日本整形外科学会が実施した「大腿骨頚部骨折の発生頻度および受傷状況に関する全国調査」によると、介護時に発生した「おむつ骨折」が90歳未満で0.2％、90歳以上で0.3％認められたと報告されています。大腿骨骨幹部や上腕骨や脛骨の「介護骨折」を含めると発生頻度はもっと高くなります。30分以上上体を起こしていることのできない患者にはビスホスホネートの経口薬は投与禁忌です。

産業医科大学整形外科学教授
酒井　昭典

新薬との付き合い方：新薬に慎重な立場から

治療　8月号

治験の対象となる患者数は少なく、副作用を検出するには検出力が十分でない。効果についても一般的に治験時に設定されているアウトカムは、血圧や血糖といったサロゲートアウトカムであることが多く、患者が期待する脳卒中や死亡などといったハードアウトカムに対する予防効果については不明の場合が殆どである。新薬は時として発売後に問題を生じることがある（ガチフロ、ケテック等）。ダビガドランについても発売後5か月間に重篤な出血性の副作用が81例報告された。腎機能悪化による急激な凝固延長が起こり、易出血となったことが原因の一つと考えらえた。NOACは血液検査不要の抗凝固薬ではなく、抗凝固状態がモニタリングできないと捉えるべきである。特にワーファリンと異なり凝固異常が急激に起こることは、定期的なモニタリングが意味を成さないことを意味する。「納豆を食べられる」「用量調節不要で手軽に使用できる」というメリットが強調されるあまり、副作用を軽視する傾向は憂慮すべきである。

東京北医療センター総合診療科
南郷栄秀

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】日本医薬品集　医療薬 2017

【監修】日本医薬品集フォーラム　【発行】じほう　【発行日】2016 年 8 月
【版型/頁】B5 判/総 1,300 頁
【定価】3,780 円（税込）【会員価格】2,000 円（税込）

【日薬斡旋図書】日本医薬品集　医療薬 2017　セット版

(書籍：日本医薬品集医療薬 2017+日本医薬品集 DB)
【監修】日本医薬品集フォーラム　【発行】じほう　【発行日】2016 年 8 月
【定価】24,840 円（税込）【会員価格】23,600 円（税込）

【日薬斡旋図書】日本医薬品集　一般薬 2017-18

【監修】日本医薬品集フォーラム　【発行】じほう　【発行日】2016 年 8 月
【定価】10,800 円（税込）【会員価格】10,200 円（税込）

【日薬斡旋図書】薬剤師のための薬物療法に活かす 検査値の読み方教えます！

【編集】野口善令　【発行】羊土社　【発行日】2016 年 7 月
【版型/頁】A5 判/263 頁【定価】3,456 円（税込）【会員定価】3,110 円（税込）

検査値の異常を見たときの考え方を、病態、患者背景、処方薬の影響をふまえて解説。症例をもとにした解説で、処方提案にめけた具体的なアプローチがわかる。検査異常をきたしやすい薬剤や鑑別疾患など、基礎知識も充実。

健康サポート薬局　ポイント解説

【著者】長谷川洋一　【発行】薬事日報社　【発行日】2016 年 8 月
【版型/頁】B5 判/98 頁【定価】2,484 円（税込）

平成 28 年度 4 月にスタートした全く新しい制度である「健康サポート薬局」の内容をしっかりと理解し、「健康サポート薬局」に求められる基準について告示と関連通知を照らし合わせることができるように 1 冊にまとめられている。

ハイリスク薬チェックシート　第 3 版

【編著】荒木博陽、井門敬子【発行】じほう　【発行日】2016 年 9 月
【版型/頁】B5 判/344 頁【定価】4,320 円（税込）

ハイリスク医薬品について、薬剤・薬効ごとの①副作用モニタリングのポイント、②服用開始時の患者指導などの解説を加えたもので、元々は業務の標準化により質の確保と同時にタイミングと合致し、多くの保険薬局で使用されている。第 3 版では、2016 年度調剤報酬改定で明らかにされた製品を元に内容の全面見直しと新薬の追加。

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬斡旋図書】保険薬局業務指針　2016 年版

【編集】日本薬剤師会　【発行】薬事日報社　【発行日】2016 年 7 月
【版型/頁】B5 判/650 頁　【定価】4,860 円（税込）　【会員定価】4,300 円（税込）

【日薬斡旋図書】保険薬事典 Plus　平成 28 年 8 月版

【編集】薬業研究会　【発行】じほう　【発行日】2016 年 8 月
【版型/頁】A5 判/1,060 頁　【定価】4,968 円（税込）　【会員定価】4,470 円（税込）

実践　小児薬用量ガイド　第 2 版

【編著】甲斐純夫　他【発行】じほう　【発行日】2016 年 9 月
【版型/頁】A6 変型判/448 頁【定価】3,024 円（税込）

多くの小児科医は、患者の体重に基づき薬の処方量を検討しているため、添付文書の記載とは異なる用量の処方がしばしば見られる。そんな臨床現場のギャップを埋めるべく、体重 Kg あたりの小児用量をまとめた。内服薬・注射薬の収載品目数を前版より増やしたほか、前版では取り上げていなかった漢方製剤や外用剤の項目を追加。

解消！ポリファーマシー　上手なくすりの減らし方

【編著】今井博久、徳田安春　【発行】じほう　【発行日】2016 年 8 月
【版型/頁】A5 判/280 頁【定価】3,240 円（税込）

院内・院外を問わず多剤投与（ポリファーマシー）対策に力を入れてきた医師と薬剤師がペアを組み、実際にあった 20 の症例を紹介し、上手なくすりの減らし方を分かりやすく解説。処方せんと患者情報から医師の処方意図を考察し、薬剤師を一つずつ検討、処方せんの再設計を行い医師に提案する。医師主導ではなく薬剤師から発信するポリファーマシー対策。薬局はもちろん、病院で働く薬剤師も必読の一冊。

在宅療養の薬学的謎解き

【編集】日本在宅薬学会　【発行】じほう　【発行日】2016 年 7 月
【版型/頁】B5 判/184 頁【定価】2,916 円（税込）

「在宅療養患者の何を見るか」、「どこに気を付けるか」、「どうやって問題を解決したか」など、薬剤師が在宅医療に全力で取り組んできた事例をありのままに収録。在宅療養患者が抱える問題を薬剤師が「謎解き」することで、ここまで在宅医療・介護の質が上がるのだと実感してもらえるはずです。まだ在宅医療を行ったことがない方にも、在宅訪問に行き詰まりを感じている方にも、次の一歩が見えてくる一冊。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供　(2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行　(3)医薬品に関するお問い合わせ　(4)県薬ホームページの制作・管理　(5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」　(6)医薬品 PL センター窓口業務　(7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象)　平日　午前：８時 30 分～12 時　午後：１時～５時 30 分　（土・日・祝日休業）
(一般対象)　「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日（月～金）午前：９時～12 時　午後：１時～５時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931　　FAX：098-963-8937
沖縄県薬剤師会　薬事情報センター

＊　＊　*海外文献から（JAPIC 医薬情報より）*　＊　＊

●薬物有害反応としてのビタミンD欠乏？：オランダの高齢外来患者における横断解析
（Eur. J. Clin. Pharmacol. 72(5)605-（2016.5））
2011 年 8 月-2013 年 1 月,オランダの地域在住高齢者 783 例(男 40.1%,女 59.9%,73-84 歳)において,多剤併用(薬剤併用≧5 種)および重度の多剤併用(薬剤併用≧10 種),および 21 種の特殊薬剤群の使用と血清中 25-hydroxyvitaminD(25(OH)D)濃度の横断的関連を共分散分析により解析した。その結果、全体の多剤併用の発生率は 65%,重度の多剤併用は 22%であった。カットオフ値によると,ビタミン D 欠乏の発生率は 49%(＜50nmol/L)または 77%(＜75nmol/L)であった。ビタミン D 補充を用いる患者のうち,17%(＜50nmol/L)または 49%(＜75nmol/L)が依然として欠乏症であった。年齢および性別で調整後,ビタミン D 補充非使用者において,重度の多剤併用,metformin,ビタミン K 拮抗薬,強心配糖体,ループ利尿薬,カリウム保持性利尿薬,ACE 阻害薬およびセロトニン再取り込み阻害薬などに関して,負の関連が認められた。非選択的モノアミン再取り込み阻害薬(NSMRI)は正の関連が認められた。調整後平均 25(OH)D に対する薬剤使用の最も強力な影響は,SUD の-19nmol/L および NSMRI の+18nmol/L であった。高齢者外来患者において,薬剤使用はビタミン D 欠乏のリスクファクターの１つであると考えるべきである。

●Bromhexine 含有鎮咳感冒薬-アレルギーおよび皮膚反応のリスク
（Medicines Safety Update　7(3)1（2016.6））
欧州の PRAC により,bromhexine および ambroxol 含有医薬品に関連した既知の重度のアレルギー反応が確認され,また,重度皮膚有害反応(SCARs;多形紅斑,スティーブンス ジョンソン症候群など)の低いリスクが特定されたのを受け,豪 TGA が本件についてレビューを実施した。2016 年 2 月 19 日時点,過敏症反応 34 例,アナフィラキシー反応 10 例,および SCARs5 例が TGA に報告された。Bisolvon(bromhexine)の製品情報(PI)および添付文書には,既にアナフィラキシー反応や皮膚反応に関する警告が含まれている。TGA は,bromhexine 含有製剤の他のスポンサーに連絡し,PI および Consumer Medicine Information(CMI)に同様の情報を追加することについて協議する予定

●入院患者における薬剤関連死亡率:レトロスペクティブ観察研究
（Eur. J. Clin. Pharmacol. 72(6)731-（2016.6））
スペインのグラナダの三次病院で 2009 年 1 月 1 日-2010 年 10 月 31 日に死亡した 1388 例の成人患者(18 歳-101 歳,平均年齢 74.9 歳,女 609 例)の臨床記録をレビューし,レトロスペクティブ観察研究を行った。主要アウトカムは,投与された薬剤に関連していると考えられる入院患者の死亡率とした。その結果、調査した 1388 例の成人患者死亡例のうち,256 例(18.4%)に薬剤関連の死亡が疑われた。そのうち 146 例(10.5%)の死亡に薬剤との関連が疑われ,110 例(7.9%)の死亡では薬剤がその一因となっていた。死亡に関連した薬剤は,161 例(11.5%)は入院中投与,95 例(6.84%)は入院前投与だった。最も頻度の高かった致命的 ADRs は,不整脈,胃腸出血,呼吸不全。致命的 ADRs に最も頻繁に関与していた薬剤は,抗血栓薬(抗凝固薬または抗血小板薬)(23%),向精神薬(21.2%),digoxin(11.3%)であった。ADR 関連死亡に関する独立したリスク因子は,4 つ以上の疾患の存在(OR＝1.43),10 以上の薬剤投与(OR＝3.24)であった。

県民の皆様へ　薬達（やくたっ）ちゃーより

薬剤師会をご活用ください！

あまくま薬（やく）立（だ）つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電　話　０９８－９６３－８９３０

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電　話　０９８－９６３－８９３５

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第１２条第１項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電　話　０９８－９６３－８９３４
e-mail　siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの〝かかりつけ薬局〟をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス　http://www.okiyaku.or.jp＞

第27回　暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会　狩俣 イソ

ハンダマ：水前寺菜：金時草

学　　名　Gynura bicolor
科　　名　キク科 Asteraceae
属　　名　サンシチソウ属 Gynura
使用部位　全体・葉
有効成分　ポリフェノール・カルシウム
　　ビタミンA、GABA

ハンダマの特徴

ハンダマGynura bicolorは、熱帯アジア、特にインドネシア北東部にあるモルッカ諸島が原産地だといわれている。属の学名「メスのしっぽ」は柱頭が長く尻尾のように見えることに由来し、種小名bicolor「二色の」は、葉の表と裏で色が違うことに由来する。この葉の裏の色が金時芋（キントキ）の色によく似ていることから、金時草（キンジソウ）とも呼ばれる。

キク科サンシチソウ属の多年草で、草丈50～90cmになり、茎と葉はやや多肉質で、葉は互生し、長さ10cmほどの長楕円形で切れ込みがある。鈍い光沢があり、表は深緑だが、裏側は鮮やかな紫色またはブロンズ色。半日日陰で一日の温度差が大きいと葉色のコントラストが鮮やかに出る。つぶすと赤色の汁が出る。春から夏にかけて繊長な枝の頂に管状花ばかりからなる黄赤色の頭花を散房状につける。種子はできない。このため、繁殖はもっぱら挿し芽で行う。茎を水に挿しておくと、2週間で根が出る。発根を確認したら土に植える。生育適温は20～25℃、暑さに強く夏場に繁茂するが、乾燥に弱いのでこまめな灌水が必要。葉が茂ったら摘んで食べる。葉を摘んでも次々とわき芽が出てくる。7月～9月頃が美味しい旬で、収穫は11月頃には終了になる。

ハンダマの歴史

江戸時代に中国から渡来し、熊本県水前寺町で栽培されたことから「スイゼンジナ」の和名がある。これが石川県金沢市に伝わり、加賀野菜の一種になった。愛知県では式部草とよばれる。沖縄県では「ハンダマ」と呼ばれ、昔から薬草として常用されてきた。低血圧、眩暈、貧血、頭痛、不眠症、のぼせ、歯痛、淋病、赤痢、産後の止血、眼疾患、おでき、血清め、胸やけの薬として伝承されている。ハンダマ、パンダマ、パルダマ、ファンダマ、アンダマの方言がある。

ハンダマの有効成分

ハンダマの紫色はアントシアニンで、強い抗酸化作用を持ち、老化防止、免疫力向上、眼精疲労の改善などの効果がある。ヌメリの成分ムチンは粘液の主成分であり、血糖値や血中コレステロールを低下、血液をサラサラにする効果、粘膜保護作用、抗ウイルス作用、細胞活性作用などがある。GABA（Gamma Amino Butyric Acid）も豊富で、抗ストレス作用がある。カルシウム、鉄、ビタミンA、ビタミンB2、ビタミンCなども含まれており、疲労回復、貧血、イライラ、骨粗鬆症、夏バテ防止などが期待できる。

参考　旬の食材百科、Wikipedia、金沢学院短大、亜熱帯植物資源データベース

栄養成分（100ｇ当たり）　(財)日本食品分析センター

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	食物繊維	マグネシウム	カルシウム	カリウム
27ｋｃｌ	1.3ｇ	4.6ｇ	0.4ｇ	4.0ｇ	55.0mg	211mg	362mg
ナトリウム	ビタミンC	ビタミンE	βカロテン	ビタミンK1	ビタミンB2	ビタミンB6	水分
7.6mg	16mg	2.5mg	2450μｇ	184μｇ	0.09mg	0.086mg	92.3ｇ

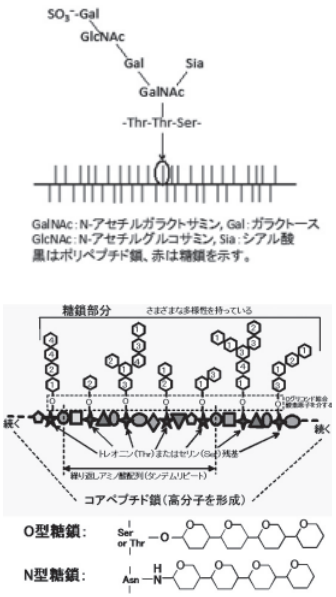
粘膜保護物質 ムチン（mucin）

ヒトでは約20種類のムチンコアタンパク（MUC1, 2, 3A, 3B, 4, 5AC, 5B, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17, 18, 19）があり、臓器によって分布は異なる。これらのムチン糖タンパク質は分泌型ムチン（粘液成分として消化管腔へ分泌され、種々の物質と結合し、タンパク分解酵素阻害活性を有して粘膜を保護する役割を持つ）と膜型ムチン（粘膜上皮の管腔面を覆うゲル層を形成し、物質の選択的吸収を助け、タンパク分解酵素や細菌から粘膜の直接的侵襲を防いでいる）の2種類存在する。

大腸粘膜上には主にMUC2が分泌されており、上皮細胞を食物や細菌の代謝物から保護するとともに、共生細菌定着の場にもなっている。MUC2遺伝子を持たないマウスでは、大腸癌の発生率が著しく増加することから、MUC2が腫瘍を抑制する働きを持つのではないかと考えられている。一方、上皮表面に分布するMUC1は種々の癌で過剰に産生される。また癌病巣やその周辺粘膜においてムチン糖タンパク質の変化している事例も報告されている。さらに癌に特異な糖鎖も確認され、これに対する単クローン抗体も作成され、癌特異抗原としての診断的価値が高まっている。潰瘍性大腸炎やクローン病においても、ムチン糖タンパク質の糖鎖の異常が確認されている。疾病状態と糖鎖の構造の変化が対応するということは、その糖鎖のもつ機能の上からも興味深い。

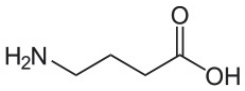
- レバミピドは胃粘液（ムチン）を増加させる。
- 目の表面のゴブレット細胞から分泌される粘液の分泌型ムチンは、涙が目の表面に均一に分布するのを助け、涙の安定性に重要な役割を果たしている。レバミピド点眼液はムチンの再生促進作用がある。ジクアホソルナトリウム点眼液は、杯細胞のP2Y2受容体に働いて眼の結膜からムチン粘液と水分を分泌する作用がある。

MUC2ムチンの構造模式図と糖鎖修飾の例 [2]



参考：デジタル大辞泉、 Wikipedia、理化学研究所、大塚製薬・参天製薬・弘前大学医学部第一生化学教室

γ－アミノ酪酸 GABA



- α波の出現：GABA摂取グループは、コントロール群に比べα波が多く現れる。ギャバ摂取時はリラックスした状態にある。
- β波の出現：GABA摂取グループはβ波の出現量が抑えられた。α波/β波の値“癒し効果”の指標
- ギャバ100mgを摂取して瞳孔の直径と心拍数を測定すると、コントロール群に比べ瞳孔の直径は小さくなり、心拍数は下がった。ギャバを摂取した後にはリラックスした状態になる。
- ギャバ摂取時には、ストレス状況下においても、免疫力があまり下がらない。
- ギャバの摂取は深い眠りに入りやすく、質の良い睡眠を保つ効果がある。

参考：脳科学辞典・ガバストレス研究センター
静岡県立大学食品栄養科学部他

アントシアニン（anthocyanin）

フラボノイドの一種。植物界に広く存在する色素アントシアンは、果実や花の赤、青、紫を示す水溶性色素の総称のうち、アントシアニジンがアグリコンとして糖や糖鎖と結びついた配糖体成分で、高等植物では普遍的な物質であり、花や果実の色の表現に役立っている。

- 抗酸化作用が強い。健康や美容面でアンチエイジングにも強い効果を発揮する。骨粗しょう症にも効果があるとの研究結果もある。
- 目の網膜にあるロドプシンの活性化を促し、視覚機能を改善する。また、マウスを使った実験では白内障に対する効果も認められている。
- マウスを使った実験において、内臓脂肪の蓄積を抑制する効果が認められた。その結果から、降圧作用、活性酸素の抑制、肝機能改善、毛細血管保護、血小板凝固の抑制、動脈硬化抑制などのなどの効果が期待できる。

参考：漢方薬・生薬・栄養成分がわかる事典の解説
塚原浩章・若さの秘密

投稿

第39回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加して

琉球大学医学部附属病院
砂川 智子

去る8月3日～6日までの4日間、沖縄県立玉城青少年の家で第39回目の小児糖尿病サマーキャンプが開催されました。

昨年のキャンプで私たち薬剤師チームは、「外出先での注射と使用済み針の自宅や外出先での管理方法と廃棄方法に関するアンケート調査」を参加患児（以下、キャンパー）とその家族に対して行いました。調査結果の1つに外出時の針等の廃棄に苦慮していることが伺えました。

そこで、今年のキャンプでは、前回のアンケート結果を踏まえて「それなら持ち運びたくなるような廃棄容器を作成しちゃおう(^^♪」と、薬剤師チームの企画による針廃棄容器の工作タイムを持ちました。初めての試みでしたが、キャンパーのみならずキャンパーの家族や学生ボランティアもみんなで工作タイムを楽しんでいました。材料は、身近にあるもの（薬剤の空容器・ガムボトル・サプリメント容器など）や100円均一ショップで揃えるなどし、できるだけお金をかけずに準備しました。来年も同様の工作タイムの開催を企画したいと考えています。

来年も多くの薬剤師ボランティアの参加をお待ちしています!!!

①準備の様子（体育館の一部を利用して工作場所としました）

②工作の風景（右：さっそく自作の廃棄容器を使用している）

③どれも可愛く仕上がりました

漢方認定薬剤師

琉球大学医学部附属病院
古謝 さなえ

去る6月12日、漢方認定薬剤師の筆記試験が行われた。会場は、私の母校。試験会場の一つに母校の名前を見つけた時は、正直嬉しかった。こういう形で母校を訪れることができるとは、思っていなかったからだ。試験自体は1時間。開始の合図までの間に、期末試験で苦しんだ思い出がよみがえってきて、一人苦笑いをしていた。今回執筆の機会をいただいたので、漢方認定薬剤師について書かせて頂こうと思う。

漢方と聞いて、皆さんはどんな事を思い浮かべるだろうか。食前服用。飲みにくい。作用が緩和。今でこそ機序や効果について論文も発表されている漢方薬ではあるが、まだまだ証による使用は進んでいないように思われる。漢方って難しい。今でも、私自身そう感じている。

漢方に興味を持ったのはいつからだろう。大学生時代の生薬の授業は、正直眠気との戦いでもあった。しかし、小学生の頃、服用していた漢方薬の記憶が強烈すぎた。

少し、この時の思い出を話そうと思う。使っていたのは煎じの漢方薬。アトピー性皮膚炎がひどくなったため、始めてみた漢方薬であったがとにかく苦い。食事前に母が鍋で煮詰めてくれるのだが、香りでもその苦さが伝わるほど。毎食前の1杯が、本当に辛かった。飲んでいる途中でコップから口を放そうものなら、続きを飲み始めるのに勇気が必要となる。一気に飲み干さないと、全てを飲み干すのに時間がかかるほどだった。

どんな生薬が含まれていたのか、今となってはわからない。煎じ方法も不適切だったのかもしれない（鍋の中でブクブクと激しく沸騰させていた気がする）。もっと美味しければいいのに。涙目になりながら飲んだものだ。自分が使っていたからこそ、学ぶにつれ、興味が湧いたのだと思う。

漢方認定薬剤師は、公益財団法人日本薬剤師研修センターが認定するものである。認定を受けるためには9回の講義研修会と1回の薬用植物園実習、そして試験に合格する必要がある。講義は東京の会場で行われたものを、インターネットにより受講することができるため、ここ沖縄でも認定を受けることができる。また視聴期限はあるものの、自分のペースで受講できるのもインターネット研修の利点の一つ。時間を見つけて、何とか期限内にすべての講義を受講することができた。漢方だけでなく、生薬の生産や歴史、世界の植物についての講義もあり、幅広い知識を得ることができる良い機会であったと思う。

植物園の見学も、ラッキーなことに母校で受けることができた。講師の先生も、学生時代にお世話になった先生。卒業は3年前ではあるが、それでも懐かしく感じられた。勤務先ではエキス剤しか取り扱いがないため、久しぶりに起原植物や生薬を直に見ることができると、漢方の面白さもまた感じることができた。

「だから漢方っておもしろいんだよ。」うまくいかない時も、うまくいった時も、大学時代の恩師がよく口にしていた言葉。証に合ったものであれば、漢方薬もおいしく感じられるという。少しでも患者さん自身に合った漢方を見つける手助けができたらいいな。そんな気持ちで取ってみた資格。これからがスタートだと思う。楽しみながら今後も漢方と向き合っていきたい。

次号には、川満裕次郎 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

藤井選挙を振り返って
沖縄県薬剤師連盟 かく戦えり

沖縄県薬剤師連盟
会長　亀谷 浩昌

藤井基之は参議院において唯一の薬剤師議員である。我々薬剤師の理想とする業務を現実の社会で創り上げるにはこの人の力は欠かせない。我々の主張を実現するには当然薬剤師としての能力が基礎にないといけないが、国民の支持、医療界の賛同、そして、政治の力もまた必要である。正しい主張であれば実現されると言えるほど現実の社会は甘くない。幾多の業種、団体が己の主張する懸案を実現すべく活動している。政治力の備えもしっかりしておかないといけない。その意味からも、今回の参議院選挙は絶対に勝利しなければならないと考えていた。薬剤師連盟（以下、薬連）の試算では、各都道府県に割り当てた獲得目標数を合計すると20万票になる。目標である20万票を獲得するために必要な票数を各都道府県の薬連に割り振ったというのが正しいのであろう。

本県薬連に課された得票数は2,040票であり、これは前回の参議院選の際の得票数1,245票を795票も上回る。折しも本県では米軍基地を普天間から辺野古に移そうとする政府・自民党の案に県民の多数が反対している。また、本県出身の人気女性タレント候補の出馬、さらに、劣勢の地方区の自民党候補者を応援するために、参院地方区は自民党、全国区は公明党へ投票しましょうと運動していた。言わば藤井候補にとっては3つの逆風の中、選挙を戦わなければならない状況であった。東京で開かれた日薬連の会議において、各都道府県薬連会長が一人ひとり選挙に望む気持を表明する場面があった。私は「やれることは全てやる」と自分の決意を述べた。

平成26年12月31日現在、全国の届出「薬剤師数」は288,151人であり、日薬会員数はおおよそ10万人である。皆が力を合わせれば20万はおろか30万票も可能と思われる。本県の薬剤師数は約2,100人である。割り当てられた2,040票は軽く達成出来ると思われる。これだけの数の薬剤師がいるにも関わらず、実際に得票できていないのはそれ相応の理由があるはずである。組織の力、政治の力についての認識が弱いように思われた。

今回、選挙運動をするに際して、まず足元から固めることにした。薬連会員が動かなければ力を十分に発揮できないので、先ず彼らに運動の重要性を説いた。薬連の我々が必死になって行動しないかぎり、関係団体の協力を得るのは難しい。次に、会員にはなぜ藤井候補を当選させないといけないのか、政治力の重要性を理解してもらう必要がある。納得すれば自然と票は集まるだろう。

具体的な活動としては、本県のノルマを地区薬毎のノルマに分割して示し、運動期間中は後援会入会者数獲得の進捗率を経時的にグラフ化して会館の玄関に張り出し、会館を訪れる人に地区ごとの頑張りが見えるようにした。また、機会を捕らえて各地区薬剤師会を訪問し、役員の皆さんに協力を呼びかけた。さらに、会館で開催される講演会・研修会の時間を少し頂いて、参加者に政治力の重要性を説いた。我々の望む薬を取り巻く環境を作るには、当然ながら職能の向上は必須であるが、同時に組織力、資金力、政治力が欠かせない。職能を活かして国民の健康を増進させ信頼・共感を得、組織力・資金力をバックに発言力を強化し、政治力をつけて政治家に協力してもらい、事を成し遂げる。この中で投票というお金のかからない方法を採ることがコストパフォーマンスに優れていること等を訴えた。離島を含めた全県下の薬局を訪問して協力要請をした。薬連会長が先頭に立って

動いていることが多くの会員の共感を得たと思う。若手の連盟役員も積極的に動いてくれた。薬業団体を積極的に訪問した。会員の伝手がある企業を探して訪問した。薬剤師会と関係のある企業・団体を訪問した。私個人に関しては中学、高校、大学の友人にアタックし、家内は家内の友人および関係者にお願いをした。子ども達にも頼んだ。とにかく、「友達の友達は友達だ」と勝手に解釈し、使えるコネは大いに利用した。

開票当日、全国区はなかなか当落が決まらず、当選の安堵を得たのは午前4時過ぎであった。程なく副会長からメールが入り、同じ思いでいることが分かり感激した。東京の幹事長に電話したが繋がらなかったのは当然のことであった。

全国で前の選挙の得票数より伸びたのは14都道府県であり、九州・山口で得票数を伸ばしたのは本県のみであった。内心、狙っていた得票数2,000票には至らなかったが、この逆風の中、健闘したと言って良いであろう。これまで政治には興味を示さなかった会員が熱心に動いてくれて、大幅に票を伸ばした地区が幾つもあった。この選挙を通じて思いを一つにすることができた。薬剤師は団結することで大きな成果を得る力を秘めていることが分かったと思う。今回の運動を省みて、思いつかなかった方法も幾つかあり、次回は更に力を発揮したいと誓った。

藤井もとゆき参議院選挙に向けての活動報告

沖縄県薬剤師連盟
副幹事長　石川 恵市

夏の参議院選挙から月日も経ち、振り返ってみると本当に厳しい選挙であった。我々薬剤師の代表でもある「藤井もとゆき氏」の再選に当たっては、会員及び職場スタッフやその家族の皆様の協力があっての事と実感している。今回の選挙にあたり、薬剤師会及び連盟執行部での活動として、名簿収集・作成や薬業団体等への表敬訪問は勿論のこと、一人でも多くの方々に投票してもらうべく、会員の薬局訪問による投票依頼に力を入れる次第となった。

亀谷浩昌会長や事務局の山城英人次長を中心に連携し、宮古・石垣の離島を含め各地区への訪問担当を決めて行った。又、南部地区では新垣秀幸会長を中心に、うさぎ薬局の川上善久先生や西崎病院の名嘉紀勝先生が連携し、薬局を訪問しての投票依頼に協力して頂いた。私は山城次長と3日間にわたり、中部～北部地区の薬局を訪問させて頂いたのだが、今回は調剤報酬改定の年と重なっていた事もあってか、想像していたよりも反応が良かったという印象が強かった。

ご承知の通り、2年に1回の調剤報酬改定には深く政治が関わっている。薬剤師職能を強く訴える政治家がいることで、公平な改定が堅持されるであろう。消費税率引き上げが先送りとなり、2年後の調剤報酬改定にも少なからず影響が出てくると懸念される中、国政の場で発言できる政治家の存在が必須となってくる。そのためにも、薬剤師職能を十分に理解している「藤井もとゆき氏」に我々の意見を強く通してもらいたく、薬剤師会としては今後も連携を密に図っていく所存である。同時に、政治の重要性を若手薬剤師に直接伝えて理解してもらう事が、今後の重要課題となってくる。政治の場で決定される調剤報酬によって、我々薬剤師は守られている旨を強く伝えていかなければならない･･･。

最後に、薬局訪問の際、患者様が混み合う忙しい時間帯だったにも関わらず、快く応対して頂いた薬剤師の先生方や医療事務スタッフの方々を始め、投票依頼活動を積極的に行って頂いた各地区の会長に改めて感謝とお礼を申し上げたい。

薬連だより

藤井もとゆき激励会報告

日時：平成28年6月15日（水）19:30 ～ 21:00
会場：沖縄都ホテル 瑞雲の間

沖縄県薬剤師連盟
総務　上原 卓朗

去る、6月15日に藤井もとゆき激励会が沖縄都ホテルで開催されました。今回、司会という役目を受け参加させて頂きましたので、当日の様子をご報告致します。

その日は平日ということもあり、当初より参加者が少ないと危惧されていましたが、仕事帰りにも関わらず､大勢の方に集まり頂き、また医薬品卸企業のご協力も頂き、予想を上回る人数で、立ち見もでるほどの大盛況となりました。今回、残念ながら藤井もとゆき先生は全国行脚で大阪入りをしていたため、欠席となりましたが、県薬でお馴染みの等身大パネルが代わりに登壇し、会場を沸かしてくれました。

主催者あいさつでは、日本薬剤師連盟より安東哲也副会長が来沖され、激励のあいさつを頂きました。

来賓あいさつでは、松本純先生、とかしきなおみ先生をはじめとする沖縄県選出国会議員の先生方が多忙なスケジュールの中集まって頂き、今回の選挙に対する熱い思いや藤井もとゆきを絶対当選させるぞという強い意気込みを伝えて頂きました。

次に、藤井もとゆき先生のビデオメッセージを見て頂き、前回の診療報酬改定について政治の場に薬剤師が必要だということを改めて示して頂きました。

最後に、石川恵市副幹事長より、高らかに“がんばるぞ！”コールにて会場の気持ちを一つにして、会を終えました。

今回、選挙活動に参加させて頂き、改めて薬剤師と政治との関係性について深く考える機会となりました。例え薬剤師の代弁者がいない場合であっても、診療報酬改定や医薬品医療機器等法の改正が行われます。当たり前でないことが当たり前に行われる政治の場だからこそ、薬剤師職能が政治に密接に関わっていること、そして今回の選挙の重みが少しでも多くの人に伝わったのではないかと思います。そして、その結果として、藤井もとゆき先生を当選させることができたのではないのでしょうか。しかし､これで終わりとは思っていません。次の世代の薬剤師のためにも選挙活動は続いていきます。これからも連盟活動へのご協力をよろしくお願い致します。

＜藤井もとゆき激励会次第＞

	司会　沖縄県薬剤師連盟　総　務	上原　卓朗
1. 開会のあいさつ	沖縄県薬剤師連盟　幹事長	吉田　久子
2. 主催者あいさつ	沖縄県薬剤師連盟　会　長	亀谷　浩昌
	沖縄県病院薬剤師会　会　長	中村　克徳
	日本薬業政治連盟　沖縄県支部長	稲嶺　　侃
3. 日本薬剤師連盟あいさつ	日本薬剤師連盟　副幹事長	安東　哲也
4. 来賓あいさつ	衆議院議員・自由民主党筆頭副幹事長	松本　　純
	参議院議員・沖縄北方担当大臣	島尻安伊子
	衆議院議員	宮﨑　政久
	衆議院議員・厚生労働副大臣	渡嘉敷奈緒美
	衆議院議員	國場幸之助
	衆議院議員　西銘恒三郎（代理：奥様　西銘雅子）	
5. 藤井もとゆき氏あいさつ（ＤＶＤ放映）		
6. がんばるぞ！コール	沖縄県薬剤師連盟副幹事長・若手薬剤師代表	石川　恵市
7. 閉会のあいさつ	沖縄県薬剤師連盟　副幹事長	江夏　京子

吉田 久子 氏

亀谷 浩昌 会長

中村 克徳 氏

稲嶺　侃 氏

安東 哲也 氏

松本　純 議員

島尻 安伊子 議員

宮﨑 政久 議員

渡嘉敷 奈緒美 議員

國場 幸之助 議員

西銘 雅子 氏

江夏 京子 副幹事長

藤井もとゆきからのメッセージ

“がんばるぞ！”コールで会場の気持ちを一つにして終会

転載記事

平成28年9月1日(木)　琉球新報 こども新聞

安全提供へ何度も確認

薬剤師　仲真さん、上里さん

【宜野湾市立はごろも小6年・名嘉千晴】薬剤師の仕事について話を聞くため、7月29日、西原町の琉球大学医学部付属病院近くの、県薬剤師会の会営薬局うえはらの仲真良重薬局長(64)と薬剤師の上里美矢子さん(42)を訪ねた。

調剤室で薬や器具の説明をする仲真良重薬局長（左）と上里美矢子さん＝7月29日、西原町上原

2人によると、薬剤師の一番重要な仕事は、患者に安心・安全な薬を提示することだ。約2千種類という膨大な数の薬の中から、患者に合った薬を選び調合する。少しもミスが出ないようにするため、4回もチェックするそうだ。

薬局だけが薬剤師の仕事場ではない。例えば製薬会社で新しい薬の研究をしたり、麻薬取締官として働いたり、学校薬剤師になって学校の衛生面を検査することもあり、幅広い分野で活躍できる。

一つの薬を作るために、少なくとも20年かかるそうだ。また、ヤナギやミミズ、セミなどからさまざまな方法で取り出した成分を原料にして一つの薬にするケースもあるという。

仲真薬局長は「薬剤師の仕事は、生涯自分のものになり定年はない。一番いい職業に就いたと思う」と幸せそうに語る。

薬剤師たちは、今日も患者を明るく健康にするために頑張っている。

琉球新報社こども新聞の取材について

「薬剤師の仕事」を取材させてほしいとの依頼が、琉球新報社編集局長よりありました。

同社は、教育界と新聞社が手を携えて展開している「ＮＩＥ」（Newspaper Ｉｎ Ｅducation＝教育に新聞を）運動の一環として、小学生記者による「琉球新報社こども新聞」を毎年9月上旬に発行されています。1998年にスタートして今回で19回目の発行とのことです。こども達に記者体験を通して文章表現への興味を抱かせると共に、世の中の仕組みや出来事を知る喜び、取材を通した人との出会いの素晴らしさなどを経験してもらうことが目的とのことです。紙面には、政治、経済、社会、スポーツ、地域、教育、娯楽面など多くの分野が掲載されています。

こども記者は、宜野湾市立の小学校6年生の名嘉千晴さんで、昨年、インフルエンザにかかり、薬局での薬剤師の対応と「薬の正しい使い方」を優しく教えてもらい、「薬剤師になりたい。薬剤師の仕事を知りたい。」と思ったことがきっかけで、琉球新報社のこども新聞の記者に応募したとのことです。

去る7月29日（金）の午前中に、会営薬局うえはらにて取材が行われ、仲真良重薬局長と上里美矢子氏が名嘉さんからのインタビューに対応されました。名嘉さんからの多くの質問にも丁寧に答えられ、終始ほのぼのとした雰囲気の中でインタビューは行われました。インタビュー後は、調剤室での薬剤師の仕事を見学されました。

（報告：事務局 大城喜仁）

転載記事

平成28年5月23日(月)　琉球新報

2016年５月23日

論壇

子どもの貧困解決への一里塚
養育費支払い制度確立を

亀谷　浩昌

国は２０１４年８月に「子どもの貧困対策に関する大綱について」をまとめている。これに続くように沖縄県、那覇市など市町村が共に子どもの貧困に対し、本格的に対応を始めているように感じる。重点施策の中には教育支援、生活支援、就労支援、経済的支援等々いろいろの政策がある。ただ、私としては一つ根本的なのが抜けているのではないかと感じている。

子どもの貧困は直接的には親の貧困からもたらされる。県民所得は全国最下位の上に、離婚率と母子世帯の出現率は全国一である。離婚家庭の多くが輪をかけて収入低下に陥る。貧困が世代を超えて連鎖することがないようにと先の大綱に書かれているが、離婚に起因する貧困が子どもの非行、学力低下につながって、さらなる連鎖の要因とならないか心配だ。

離婚して親同士の関係が切れても子どもに対する責任は残る。親の離婚は子どもに責任は無い。当然の義務として、親は子どもが成人するまでの養育に責任を持たなければならない。その形あるものとして養育費の支払いがある。ところが、養育費をきちんと履行する割合は２割に満たないといわれている。これを解決すれば、子どもの貧困対策はもっとやりやすくなるだろう。

養育費の未払いに対して国は十分な措置をしていないので、取り立ては個人に任されている。経済的にも時間的にも余裕のない個人に任せるのは酷ではないかと思う。

外国ではどうか。ドイツ、フランスなど、主としてヨーロッパ大陸の諸国では国による養育費立て替え払いがあり、国は個人に代わって強制的な徴収手段を使って養育費を徴収する。アメリカ、イギリス、オーストラリアなど欧米などの国では養育費を専門に扱う機関を設けて、親が養育費を取り立てることを援助する仕組みがある。支払い義務者が行方をくらましている場合には、国民の社会保障番号を利用して居所を探す。

会社は従業員を雇えば登録することが義務付けられている。養育費の給料天引き、所得税の還付金や失業給付の差し押さえ、支払わない場合は各種の免許の停止などあらゆる手段を使って援助する。アメリカでは養育費不払いは犯罪とされ、支払いを逃れている親の顔写真付きの「Wanted（お尋ね者）」ポスターの貼り出しもあるそうだ。

マイナンバー制度も普及していく。わが国は早急に養育費支払いの制度を確立すべきである。これによって子どもの貧困対策はもとより、母子家庭に関わる問題、児童生徒の学力、大きく見れば男女平等社会の推進等など、多くの問題の解決に近づくことができると考える。

（那覇市、薬剤師、67歳）

転載記事

論壇

先人の知恵　薬草保護を

薬用植物園の増設は有用

与儀　和子

去る6月初旬、京都にある武田薬品の薬草園（京都薬用植物園）を見学した。この薬草園は、植物の栽培技術の継承、品種改良の研究、絶滅危惧にさらされている薬用・有用植物資源の保護に努めている施設である。

手入れの行き届いた園内でさまざまな植物を見ることができた。言うまでもないことであるが人類は太古の昔から身近にある植物を薬として用いてきた。植物の中には、口にすると中毒を起こすものも多くあるが、先人たちは長い間の経験に基づいて薬として使うことのできる植物を見分けることができただろう。セイヨウシロヤナギからはアスピリンを、ウマゴヤシからはワルファリンを、甘草からはグリチルリチンをというふうにである。

薬草園を巡っている間、驚きの連続であった。私が学生の頃、米寿を過ぎた祖母は屋敷の周りの草むしりを日課としていた。抜いても抜いても生えてくる草を前にして、「クリャー、マーンティ、フサダニドーイ（この草は本当に草の種だよ）」と言っていたのは、カヤツリグサ科のハマスゲという薬草であった。根茎を香附子（コウブシ）といい、香蘇散などに配合されているものである。他にも「えっ!!　この草にこんな効能が」と目からうろこが落ちる思いを幾度もした。

例えばヒナタイノコヅチの根はゴシツで利尿作用を期待して牛車腎気丸などに配合されているものである。

ところで昨今、漢方薬は、日本のみならず世界中でその需要が高まっているといわれている。日本は生薬原料の薬80％を中国からの輸入に頼っているが、乱獲が環境破壊や環境汚染を生み、生薬資源の枯渇に拍車を掛けているということである。そのために輸出の制限がなされ原料価格の高騰が起きているのが現状のようである。このままでは生薬の原料を安定的に供給することが困難な状況になりかねないということだ。生薬原料の安定的供給のための体制づくりは急務であるということだ。

ところで現在沖縄県は「宇金（ウコン）」の産地とされている。地理的に近い鹿児島県はガジュツ、十薬の産地で高知県は柴胡、ゴシツの産地である。薬草の宝庫といわれる沖縄県に薬用植物園が増設されたならば、ウコンの他にもきっと沖縄の自然環境に適した生薬原料を選定できるのではないだろうか。先人たちが宝物として守ってきたものを保護して次世代につなぐためにも、薬用植物園は有用だと考える。

（那覇市、薬剤師、63歳）

2016・8・23　沖縄タイムス

（女性薬剤師部会の与儀和子先生の投稿文が掲載されていました）

転載記事

平成28年9月8日(木)　琉球新報

ぎのわん健康C 熊本支援に30万

美永玉菜の会も10万円

一般社団法人「ぎのわん健康支援センター」は7日、琉球新報社を訪れ、熊本地震義援金30万円を託した。新川重一理事長＝写真右から2人目＝は「こんな時こそ互いに助け合うことが大切だ。自分たちにできることから協力したい」と話し、早期の復興を祈願した。

同日、普天間高校の同窓生でつくる「美永玉菜（びえいたまな）の会」も新報社に義援金10万円を託した。仲地清志共同代表＝同3人目＝は「みんなで支え合うことが重要だ。今後も支援したい」と話した。

熊本地震義援金

【琉球新報社】（7日）ぎのわん健康支援センター30万円▽美永玉菜の会10万円

多くの会員が復興のための支援をされています

平成28年8月26日(金)　琉球新報

熊本地震義援金 151万円託す

メディカルハーモニー

熊本地震の被災地復興に役立ててほしいと、メディカルハーモニーの戸田澄之代表取締役＝写真左＝と来住悠主任が24日、那覇市天久の琉球新報社を訪れ、義援金151万565円を託した。

義援金はメディカルハーモニーから100万円、戸田代表取締役から50万円、ハーモニー薬局の利用者からの募金1万565円。熊本県出身の戸田代表取締役は「友人たちから『夜は不安で眠れなかった』と震災時の話を聞いた。復興のために義援金を役立ててほしい」と話した。

平成28年8月12日(金)　琉球新報

保健医療団体が21日健康フェア

宜野湾、相談や指導実施

保健医療関係17団体で構成する県医療保健連合会（なごみ会）は21日、宜野湾市のコンベンションセンター展示棟で「第6回なごみ会県民健康フェア」を開催する。各団体がブースを設置し、専門性を生かした相談や指導、体験会を行う。正午から午後4時まで。入場無料。

県医師会の白井和美理事ら4人＝写真＝は4日、那覇市天久の琉球新報社を訪れ、「全ての世代に楽しんでもらえるイベント。楽しみながら健康について考えてほしい」と来場を呼び掛けた。問い合わせは県医師会☎098（888）0087。

転載記事

平成28年9月11日(日)　沖縄タイムス

しましま＋（プラス）トピックス

わがまちの老舗 105

「村の救急箱」役担う

ぎのざ薬局

宜野座村宜野座

ぎのざ薬局は1971年、比嘉保夫さん(72)と淳子さん(69)夫妻が、当時宜野座村内に薬局がなかったことから開局した。現在は2代目の直紀さん(45)と妻の智子さん(42)が引き継いだ。先代の地域密着型の経営はそのままに、ドラッグストアのように品数を増やす一方、健康サロンも運営するなど「昔と今の融合」（直紀さん）で、時代に合わせた経営を心掛けている。

直紀さんが生まれた年に開局し、「薬局の中で育ったようなものです」と笑う。幼少期は病院もそんなに多くはなく、薬局が「村の救急箱」のような役割を果たしていたと振り返る。開店前や閉店後も住民がシャッターをたたいていたことをよく覚えている。

ぎのざ薬局を開局した比嘉保夫さん（左端）淳子さん（左から２人目）夫妻と、後を継いだ息子の直紀さん（同４人目）と妻の智子さん＝宜野座村宜野座

1971年から営業しているぎのざ薬局

保夫さんは別で会社を経営していたため、主に淳子さんが切り盛りしていた。現在も淳子さんは店に立つ。直紀さんは「母は子どもが来店しても、どこの孫かが分かるくらい多くの人を知っている。店に来た住民との会話や顔色で相手の体調を把握している。とてもまねできない」と舌を巻く。

2012年には金武町内にドラッグストアを開店。両店などを運営する法人を立ち上げ、直紀さんが社長を務める。

直紀さんが本土から沖縄に戻ったのが13年前。「この間、県内の個人薬局の半分以上がなくなっている。だから今でも経営できているのは奇跡だと思う」

現在は健康サロンも運営しており、直紀さんは「生活習慣病の予防など、体質改善に向けた取り組みにさらに力を入れていきたい」と話した。

（北部報道部・伊集竜太郎）

【店舗メモ】宜野座村宜野座367の3。営業時間は午前8時～午後9時。年中無休。電話098（968）2256。

（会員の薬局が紹介されていました）

転載記事

平成28年7月30日(土)　沖縄タイムス

粟国初の薬局 調剤１年

県内小規模離島で２店だけ

【粟国】島で初めての調剤薬局「あぐに薬局」＝村東＝がスタートしている。昨年5月にオープン、調剤を始めて8月で丸一年。医科診療所がある県内の小規模離島では現在2店だけで、極めて珍しい。沖縄市などで薬局を営む生駒雅宣さん(61)＝宜野湾市＝が、離島の医療水準アップを志して開いた。

（南部報道部・堀川幸太郎）

あぐに薬局は薬剤師1人で平日午前9時～午後6時に営業する。近くの粟国診療所や本島の病院に通う患者の処方箋を受け付ける。特別養護老人ホームで使う薬も調剤。市販薬もあり、かつては本島で風邪薬や紙おむつを買いだめしていた住民は助かっている。

生駒さんは、離島に薬剤師を置く意義を「医師・看護師と役割分担したチーム医療ができる」と語る。医師も自らの処方箋通りに薬を出せるが、その分診療時間を割く形になる。薬剤師は調剤などを担って手助けできる。また、一緒に往診して患者の服薬状況や効果を確かめ、助言もできる。

粟国診療所を管轄する県立南部医療センター・こども医療センターの薬局長、長田茂さん(59)は6月末に現地を視察。「医師は仕事に専念できると話していた。薬剤師さんは折を見て1人暮らしのお年寄りがきちんと薬を飲めているか見に行ってくれていて、ありがたい」と感謝した。

◇　◇

離島でチーム医療を実現しようと生駒雅宣さんが2015年に開設した「あぐに薬局」。元診療所だった建物を島民らと一緒に改装して借り受けた＝粟国村東

▼ことば　県内離島の公立診療所と薬局　県保健政策課や県内５保健所によると、公立診療所は20の離島にあり、このうち薬剤師のいる調剤薬局は粟国島と伊江島（1995年開設）にある。医療法に定める診療所（19床以下）より大きい病院がある宮古島・石垣島・久米島は除く。医科診療所に限り、休止中を外して７月現在で集計。

那覇出身 生駒さん「チーム医療」目指し開業

物心ついた時から東京暮らしが長い生駒さんは、那覇市壺屋生まれ。外資系の製薬会社に勤め、48歳の転勤で沖縄に戻った。経験を故郷に役立てようと薬局運営会社を2014年に設立。翌15年、「あぐに薬局」を開いた。先輩の助言や、離島という点で同じ宮古島出身の母の存在が後押しした。

あぐに薬局の経営は軌道に乗り始めた。しかし、粟国―那覇間で1年近く続く航空便欠航が影を差した。昨年8月末の第一航空＝大阪＝による粟国空港事故以来、再開のめども立たない。ヘリ便は予約が取れるとは限らず、定期船も欠航しがち。薬剤師が休暇後に予定通り戻れるかなど不透明な要素が大きくなった。

現状のままでは運営に穴を開けかねないと判断し、8月からは薬局約100店を運営するプチファーマシスト社＝大阪、柳生美江社長＝に経営を譲る。生駒さんは「力不足。申し訳ない」と自らを責めるが、柳生社長は「経営の難しい離島に、あえて飛び込んだ理念やフロンティア精神を引き継ぎたい」と語った。

（会員の薬局が紹介されていました）

平成28年8月27日(土)　沖縄タイムス

「リーダーの育成に力」
福嶺新会長が抱負

女性の地位向上などを目指すボランティア団体「国際ソロプチミスト沖縄」の福嶺博子会長＝写真左から２人目＝ら新役員４人が25日、沖縄タイムス社を訪れ、「会員同士の親睦を深め、いいチームワークで、しっかりと活動していきたい」と抱負を語った。

福嶺会長ら新役員５人は７月１日に就任。任期は１年間。タイムス社には石川美智子副会長＝同３人目、砂川正子さん＝同４人目、前濱朋子さん＝同１人目＝の４人で訪れた。

ことしで発足41年となり、現在の会員数は41人。ことしは奨学金事業などを長年続けている事業に加え、10月に開かれる世界のウチナーンチュ大会でのボランティア活動なども予定している。

福嶺会長は「女性と女児の生活向上が一番の活動のテーマ。リーダーの育成にも力を入れたい」と語った。

（多くの分野で活躍中の前濱朋子副会長）

那覇警察署　広　報

那覇警察署からのお知らせです。

「那覇地区薬剤師会」と合同で
訓練を実施しました。

７月 25 日月曜日、
那覇地区薬剤師会の会員薬局
〇ミドリ薬局
〇泉薬局
の協力をいただき、
「爆発物の原材料となる薬品を大量に購入したい」
と要求する不審な客が来店した時の対応を確認する訓練を行いました。

この訓練は、国際テロ対策の一環として全国の警察が爆発物原材料を取り扱う事業者（薬局、ホームセンター等）の皆さま方からの協力を得て実施しています。
事業者の皆さまから幅広い情報を警察に提供してもらうことは、テロの未然防止に効果的であり、官民一体の「日本型テロ対策」として、世界各国で評価されています。

今後も、国際テロを未然に防止するため、
○警察への情報提供
○訓練へのご協力
をよろしくお願いします。

１１０番

那覇警察署

８３６－０１１０

会務報告

平成28年6月

1水○ 沖縄県薬業連合会代表者会議　沖縄都ホテル　亀谷会長、稲福係長
2木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、吉田理事
○ 宮古地区研修会「宮古島糖尿病カンファレンス」 ホテルアトールエメラルド宮古島
○ 平成28年度第3回臨時幹事会　県薬会議室
3金○ 沖縄県病院薬剤師会精神科分科会講演会　沖縄県医師会館　MSD(株)
○ Intestinal Flora Seminar in 沖縄　自治会館　第一三共(株)
4土　第10回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー　ネストホテル那覇　MSD(株)
5日○ **実務実習指導薬剤師養成・更新講習会**　県薬研修室
6月○ 薬学生実務実習受入委員会　県薬会議室
○ 平成28年度第2回広報委員会　県薬研修室
7火○ エビリファイ持続性筋注用発売1周年記念講演会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　大塚製薬(株)
○ 平成28年度第4回定例幹事会　県薬会議室
8水○ 薬物乱用防止教室　国頭村立北国小学校　講師：村田成夫学薬部会長
○ 健康サポートのための多職種連携研修に係る都道府県薬剤師会説明会　TKP田町カンファレンスセンター　松本圭五氏・盛本直也氏（地域保健開局委員会）
○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
9木○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
○ **平成28年度第1回症例検討入門研修会**　県薬ホール　講師：阪本崇彰氏（学術研修委員会）
10金○ 全国国民健康保険組合協会第67回通常総会・懇親会　ロワジールホテル那覇　亀谷会長
11土○ 平成28年度第3回定例理事会　県薬研修室
12日○ **第133回健康とおくすり相談会**　サンエー那覇メインプレイス　担当：那覇地区薬剤師会
○ 中部地区薬剤師会総会　沖縄市福祉文化プラザ　亀谷会長、大城課長
14火○ 学術講演会　大濱信泉記念館　大塚製薬(株)
15水○ 健康サポート薬局に関する打合せ　県庁　笠原理事、稲福係長
○ スポーツファーマシスト活動に関する意見交換会　県薬会議室　吉田典子(薬事情報センター)
16木○ 平成28年度沖縄県薬物乱用防止協会総会・表彰式　県薬ホール　前濱副会長
○ 平成28年度沖縄県警察官友の会役員会（総会）・懇親会　サザンプラザ海邦　大城監事
○ 第76回那覇地区薬剤師会臨床講座　県薬研修室
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株)琉薬
17金○ 沖縄県子どもの未来県民会議第1回県民会議　県庁　亀谷会長
○ 国際シンポジウム「沖縄における医療分野の研究開発の推進」 沖縄コンベンションセンター　稲福係長
18土○ 第4回琉球整形外科フォーラム　沖縄県医師会館　中外製薬(株)
19日○ **沖縄県薬剤師会第74回通常総会・懇親会**　県薬ホール・研修室
20月○ 平成28年度文部科学省補助事業 『喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料』研修会　てだこホール　亀谷会長
22水○ 新豊見城中央病院複合ビルに関する打ち合わせ会議　総合計画設計事務所　亀谷会長
○ (株)薬正堂来訪　県薬会長室　亀谷会長

22水○ 平成28年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会　沖縄県総合福祉センター　吉田久子氏
23木○ **沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊**　ひめゆりの塔構内　亀谷会長、長田紀昭、神村前会長、神村康江氏、宮城常務理事、吉田理事、大城課長
○ 沖縄県慢性期医療協会薬剤部会研修会　沖縄県医師会館　第一三共(株)
○ 糖尿病療養支援実践セミナー第12回コメディカル勉強会　ちばなクリニック　日本イーライリリー（株）
○ 第3回健康食品・サプリメントに関する研修会事前打ち合わせ会議　県薬研修室　亀谷会長、玉城武範、盛本直也、阪本崇彰、名嘉紀勝、大城課長
○ 医療保険委員会　県薬会議室
24金○ 日本薬剤師会第87回定時総会決算委員会　日本薬剤師会　亀谷会長
25土○ 日本薬剤師会第87回定時総会(26日迄)　ホテルイースト21東京　亀谷会長、江夏副会長
○ 平成28年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.26ヤング街頭キャンペーン　県内各所
○ 北部地区薬剤師会総会　ホテルゆがふいんおきなわ
26日○ **第44回沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会総会・講演会**　県薬研修室
○ 無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座　会営薬局うえはら
○ 南部地区薬剤師会総会　(株)アトル沖縄営業部
27月○ 日本薬剤師会有功賞伝達表彰　県薬会長室　被表彰者：平尾秀子氏、平尾慎一郎氏
28火○ 沖縄県保健医療部薬務疾病対策課来訪　県薬会長室　亀谷会長、大城課長
○ 会報取材（大浜浩志氏へインタビュー）　沖縄県環境政策部部長室　宮城常務理事、大城課長
○ 実務実習薬学生研修会（災害医療と薬剤師）　県薬研修室　我喜屋常務理事
29水○ 会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 沖縄県薬業連合会理事会総会・懇親会　沖縄都ホテル　亀谷会長、稲福係長
30木○ 個別指導　県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏、吉田理事
○ **第3回健康食品・サプリメントに関する研修会**　県薬ホール　講師：阪本崇彰氏（あにも調剤薬局・新生堂薬局琉球つかざん店）

平成28年7月

1金○ (株)すこやかホールディングス新社屋ビル落成パーティー及び内覧会　亀谷会長
○ 第8回沖縄精神科再発予防研究会　ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城　共催：ヤンセンファーマ(株)
2土○ 症例検討入門研修会チューター打ち合わせ会議　県薬会議室　大澤友二氏、潮平英郎氏、中尾滋久氏、玉城武範氏、伊差川サヤカ氏、古謝さなえ氏、砂川智子氏、小島進氏、外間登氏、大城課長
○ **平成28年度第2回症例検討入門研修会**　県薬ホール　講師：大澤友二氏
3日○ **調剤報酬請求業務講習会**　浦添市てだこホール
4月○ 実務実習薬学生「夜間救急実習」　会営薬局医療センター前
5火○ 職場体験学習（那覇市立鏡原中学校）：6日迄　会営薬局とよみ　説明者：糸嶺達薬局長、島袋陽子、上野邦子、大城課長

5火○ 平成28年度第5回定例幹事会　県薬会議室
6水○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○ 生涯学習フェスタ「しごとミュージアム」 沖縄コンベンションセンター展示棟　伊差川サヤカ広報委員、実務実習薬学生、大城課長、長嶺（事務局）
7木○ 個別指導　県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
○ 未来の産業人材育成事業「職業人講話」に関する事前打合せ　県薬会議室　亀谷会長、大城課長
○ 平成28年度第1回医薬分業対策委員会　県薬研修室
○ 糖尿病治療学術講演会　沖縄県医師会館　共催：ノボノルディスクファーマ(株)
8金○ 卸勤務薬剤師会沖縄県支部理事会　(株)琉薬
○ 卸勤務薬剤師会沖縄県支部総会　(株)琉薬　亀谷会長、山城次長
○ 第15回OCEAN研究会　ザ・ナハテラス　共催：吉富薬品(株)
○ 宮古地区研修会「宮古地区抗凝固療法研究会」 ホテルアトールエメラルド宮古島
9土○ 平成28年度第4回定例理事会　県薬研修室
10日○ **平成28年度新任・新人薬剤師研修会**　県薬ホール、沖縄県立南部医療センターこども医療センター
○ 無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座　会営薬局うえはら
11月○ 地域保健開局委員会　県薬研修室
13水○ 平成28年度第2回都道府県会長協議会　日本薬剤師会　亀谷会長
○ 平成28年度第2回学術研修委員会　県薬研修室
○ 調剤報酬請求業務講習会in八重山　大濱信泉記念館　講師：仲真良重医療保険委員長
14木○ 薬物乱用防止教室「アルコールの害について」 北丘小学校　講師：大城恭子氏
○ 未来の産業人材育成事業「職業人講話」 久米島町立久米島西中学校　講師：山城晶氏
○ 中部地区研修会「平成28年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会第1回講義」 中部地区医師会
○ STOP HYPERTENSION in OKINAWA　ホテル日航グランドキャッスル　共催：大日本住友製薬(株)
○ **第4回健康食品･サプリメントに関する研修会**　県薬ホール　講師:名嘉紀勝氏（西崎病院）
15金○ 八重山地区研修会「八重山地区糖尿病フォーラム」 ホテル日航八重山
16土○ 薬学実務実習に関するガイドライン説明会　県薬ホール
17日○ 平成28年度医療通訳ボランティア養成講座　(公財)沖縄県国際交流･人材育成財団　講師:阪本崇彰氏
○ 第54回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州・福岡（18日迄） 福岡大学薬学部棟　伊敷美佳氏、幸地良信氏、小湾喜彦氏、西川裕氏、與世平千夏氏、四谷祐子氏
19火○ 未来の産業人材育成事業「職業人講話」 竹富町立黒島中学校　講師：亀谷会長
20水○ 薬物乱用防止教室「タバコの害について」 北丘小学校　講師：大城恭子氏
○ 会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 中部地区研修会「平成28年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会第2回講義」 中部地区医師会
○ **調剤報酬請求業務講習会 in 宮古**　ホテル協和　講師：仲真良重医療保険委員長

21木○ 平成28年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会　沖縄県後期高齢者医療広域連合　江夏副会長
○ 平成28年度第1回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議　沖縄県南部保健所　小湾勝敏氏
○ 個別指導　県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏、吉田理事
○ 薬と健康の週間についての打合せ会（薬務疾病対策課・那覇市保健所）　県薬会議室　大城課長・稲福係長
○ 第2回薬まーるの会　県薬ホール　ファイザー（株）
○ 健康サポート薬局に関する打合せ　県薬研修室　笠原理事、西川裕氏、盛本直也氏、松本圭五氏、稲福係長
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株）ダイコー沖縄
22金○ 八重山地区研修会「八重山地区認知症カンファレンス」　ホテル日航八重山
24日○ **第1回薬剤師のための在宅医療教育セミナー**　県薬ホール
25月○ 第5回健康食品・サプリメントに関する研修会事前打ち合わせ会議　県薬会議室　玉城武範氏、盛本直也氏、阪本崇彰氏、名嘉紀勝氏、金城絵理子氏、大城課長
26火○ 健康サポート薬局に関する打合せ　県薬会議室　笠原理事、西川裕氏、盛本直也氏、松本圭五氏、山城次長、稲福係長
27水○ 沖縄県老人クラブ連合会健康づくり支援事業リーダー養成講習会「薬の正しい使い方」　南部総合福祉センター　講師：阪本崇彰（南部地区薬剤師会・あにも調剤薬局）、大城課長
○ 未来の産業人材育成事業「職業人講話」　宮古島市教育事務所　講師：松尾はつよ氏
○ なごみ会主催県民健康フェア打合せ　県薬会議室　笠原理事、中尾滋久氏、松本圭五氏、稲福係長
28木○ 藤田次郎琉球大学医学部附属病院長訪問　琉球大学医学部附属病院院長室　亀谷会長、江夏副会長、仲真薬局長、大城課長
○ 会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 平成28年度（第30回）歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール表彰式・特別記念講演・記念祝賀会　沖縄県口腔保健医療センター　前濱副会長
○ 宮古地区研修会「宮古地区循環器と糖尿病セミナー」　沖縄県立宮古病院
○ 脳卒中学術講演会　ラグナガーデンホテル　日本ベーリンガーインゲルハイム（株）
○ なごみ会主催県民健康フェア第4回実行委員会　沖縄県医師会館　笠原理事、稲福係長
29金○ 琉球新報社より取材（こども新聞）　会営薬局うえはら　仲真薬局長、上里美矢子氏、大城課長
○ 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会　福岡県薬剤師会館　我喜屋常務理事
○ エビリファイ持続性筋注用発売1周年記念講演会　新垣病院　大塚製薬（株）
○ 宮城信雄氏前沖縄県医師会退任激励会　ロワジールホテル＆スパタワー　亀谷会長
31日○ **平成28年度女性薬剤師部会第18回漢方講座**　県薬ホール

平成28年8月

1月○ めんそーれ沖縄県民運動推進協議会総会・表彰式　沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ6階ニライカナイ　亀谷会長

2火○ 医療機関の重複受診による向精神薬の大量入手事案について沖縄県医師会との情報交換会　沖縄県医師会館　亀谷会長、仲真良重医療保険委員長、大城課長
○ 平成28年度第6回定例幹事会　県薬会議室
4木○ なごみ会主催県民健康フェアについての新聞社表敬訪問　沖縄タイムス・琉球新報社　笠原理事、稲福係長
○ 個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ 平成28年度第3回地域医療支援病院運営委員会　豊見城中央病院　亀谷会長
○ 沖縄県医師会より来訪　県薬会長室　亀谷会長、吉田理事
5金○ 第7回沖縄疼痛研究会　沖縄県医師会館　久光製薬(株)
6土○ 第2回トファシチニブ適正使用講演会　沖縄都ホテル　ファイザー(株)
7日○ **実務実習指導薬剤師養成・更新講習会**　県薬研修室
○ **第9回熟年の集い**　沖縄都ホテル
8月○ 爆発物原材料の不審購入者の通報等に関して那覇署より来訪　県薬会長室　亀谷会長、大城課長
○ 協会けんぽより来訪（今後のジェネリック促進について）　県薬会長室　亀谷会長
○ 青年部会総会の打ち合わせ会議　県薬会議室　石川理事、大城課長・長嶺（事務局）
9火○ 沖縄県公害審査会委員辞令交付式　県庁　我喜屋常務理事
○ 平成28年度第1回公害審査会　県庁　我喜屋常務理事
○ なごみ会主催県民健康フェア事前打合せ　県薬ホール
10水○ 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
12金○ ネオフィスト研究所（吉岡ゆうこ氏）来訪　県薬会長室　亀谷会長、大城課長
○ 第6回世界のウチナーンチュ大会第4回実行委員会　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長
○ 平成28年度第2回沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部管理棟　亀谷会長
13土○ 平成28年度第5回定例理事会　県薬研修室
14日○ **健康サポート薬局関連研修会**　県薬ホール
18木○ 第77回那覇地区薬剤師会臨床講座　県薬研修室
○ 中部地区研修会「平成28年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会推奨講演会」　中部地区医師会
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株)ダイコー沖縄
19金○ 第6回うちなぁがん薬ー薬連携講演会　県薬ホール
○ 平成28年度沖縄県公務員薬剤師会退職激励会　ダイワロイネットホテル沖縄県庁前　亀谷会長、大城課長
21日○ **認定実務実習指導薬剤師養成講習会**　大濱信泉記念館　我喜屋常務理事
○ **なごみ会主催県民健康フェア**　沖縄コンベンションセンター展示棟
22月○ 会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学　琉球大学医学部附属病院、那覇市立病院、沖縄県立南部医療センターこども医療センター　崇城大学薬学部6年生、大城課長
○ 平成28年度沖縄県薬剤師認知症対応力向上研修会の事前打合せ会議　県薬会議室　中尾滋久氏（地域保健開局委員会)、玉城千春氏（沖縄県健康長寿課)、大城課長

23火○ 2期実務実習受入説明会及び伝達講習会　県薬研修室　講師：我喜屋美香委員長、佐藤雅美副委員長、浅沼健一委員（薬学生実務実習受入委員会）
○ 第2回周産期医療薬物療法講習会　琉球大学医学部臨床研究棟
24水○ 平成28年度第3回広報委員会　県薬会議室
25木○ 個別指導　県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏、吉田理事
○ 沖縄県後発医薬品安心使用促進協議会　県庁　江夏副会長
○ 第5回健康食品・サプリメントに関する研修会の事前打ち合わせ会議　県薬会議室　亀谷会長、玉城武範、阪本崇彰、名嘉紀勝、金城絵理子、大城課長
○ 第2回医薬分業対策委員会　県薬研修室
28日○ **医薬分業対策委員会主催研修会・会議**　県薬研修室・ホール
29月○ 平成28年度沖縄県科学技術大学院大学発展促進県民会議総会　沖縄県科学技術大学院大学キャンパス講堂　亀谷会長
○ 管理者会議　県薬研修室
30火○ 平成28年度未来の産業人材育成事業第1回合同会議　沖縄県立博物館　大城課長
31水○ 会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円
○処方せん	100枚	1冊	160円

○お薬手帳カバー	1枚	22円
○薬歴カード	各1枚	5円
（国保（本人・家族）青色		
社保（本人）白色		
社保（家族）桃色）		

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ　価格 税抜き12円
【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ　価格 税抜き22円

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成28年6月

1水○ 島尻あい子参議院議員へ推薦状交付　アイ・ラブ沖縄!かがやく県民の会　亀谷会長、山城次長
3金○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　南部地区　亀谷会長、山城次長
6月○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　中部地区　石川副幹事長、山城次長
9木○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　中部地区　石川副幹事長、山城次長
11土○ アイ・ラブ沖縄!かがやく県民の会　拡大役員会議　アイ・ラブ沖縄!かがやく県民の会　山城次長
14火○ (株)OCC訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　(株)OCC　亀谷会長、山城次長
○ 参議院議員選挙 第1回実務者会議　アイ・ラブ沖縄!かがやく県民の会　山城次長
15水○ **藤井もとゆき激励会**　沖縄都ホテル
17金○ 島尻あい子「沖縄の子どものために」出版祝賀会　パシフィックホテル沖縄万座の間　亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長、新城光枝総務、山城次長
18土○ 渡嘉敷なおみ厚生労働副大臣との意見交換会　県薬研修室
○ 自由民主党「一日政調会」　沖縄県歯科医師会館　亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長、江夏・姫野・石川副幹事長、山城次長
19日○ **沖縄県薬剤師連盟評議員会**　県薬ホール
21火○ 都道府県薬剤師連盟担当者会議(22日迄)　品川プリンスホテル　石川副幹事長、山城次長
22水○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　北部地区　亀谷会長
○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　南部地区　新垣秀幸南部地区薬剤師会会長、名嘉紀勝青年部担当
○ 参議院議員選挙 第2回実務者会議　島尻あい子選対本部　大城課長
26日○ (株)薬正堂管理薬剤師会議訪問　すこやか薬局ライカム店　石川副幹事長、大城課長
27月○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　石垣・宮古　川満正啓宮古地区薬剤師会会長、亀谷会長、山城次長
29水○ 島尻あい子・秋野公造　合同総決起大会　沖縄県立武道館　神村顧問、吉田幹事長、城間盛光総務、山城次長・大城課長・松堂（事務局）
30木○ 参議院議員選挙 第3回緊急実務者会議　島尻あい子選対本部　山城次長

平成28年7月

2土○「島尻あい子」ビラ配布　島尻あい子選対本部　山城次長
4月○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　南部地区　川上善久南部地区薬剤師会副会長
6水○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　那覇地区　亀谷会長、山城次長
8金○ 薬局訪問（藤井もとゆき後援会名簿協力願い）　那覇地区　亀谷会長、山城次長
9土○ 参議院選挙 島尻あい子応援練り歩き　松山公園～むつみ橋　山城次長・小泉宝之・上原美也子・長嶺勇作（事務局）
○ 参議院選挙 島尻あい子打ち上げ式　むつみ橋　神村顧問、吉田幹事長、城間盛光総務、山城次長・小泉宝之・前原里江・上原美也子・長嶺勇作（事務局）
25月○ 國場幸之助衆議院議員との意見交換会　ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城　亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長、江夏・姫野・石川各副幹事長、山城次長
29金○ 沖縄県薬剤師連盟全体会議・慰労会　ラ・フォンテ

8月・お盆の後先き

今年の8月は行事が多く目も耳も多忙を極めたひと月であったように思う。まず、8月6日と8月9日は広島と長崎に原爆が投下された日である。一瞬にして数十万人の生命を奪い去り、今も被爆による後遺症で苦しむ人が多い。人類史上最大で最悪の兵器だ。このような原爆が地球上に無数に増えていて、いつかどこかの指導者がボタンを押すことになるかもしれないのが恐ろしい。人類は核で亡びるのだろうか？ウラン型の広島の原爆にはリトルボーイ、プルトニウム型の長崎原爆にはファットマンというニックネームで呼んでいたというから大変複雑な気持ちになる。サミットで来日したオバマ大統領が広島の地に立ち、原爆資料館を見学して、彼自身が主張するノーベル平和賞にもつながった核廃絶を一歩でも半歩でも歩み進めることになっただろうか？次に、8月15日には終戦記念日である。日本の敗戦から72年になる。200万人以上の国内の尊い生命を奪い、アジアにも数多くの犠牲者を出した。み魂への祈りをささげる。想い出したくもないが忘れてはならない。戦争の愚かさを後世に伝えなければならないのである。

この一連の負の記念日が続いた後に今度は一転し平和の祭典、リオデジャネイロオリンピックがスタートした。施設造りの遅れ、ジカ熱の流行、テロと治安の悪さが心配されて出場辞退者も出た。ところが、開幕すると何事もなく順調に進んで行くではないか。注目されたアスリート達は期待通りのパフォーマンスを見せつけ、世界を興奮させた。世界一速い男のウサインボルトは他を全く寄せつけず素晴らしい記録で強さを見せつける100・200m走の3連覇である。いつかボルトを押える選手の“ナット”は出てくるだろうか。2020年、東京に関心が移っていく。燃える夏である。高校野球は甲子園である。プレーする球児達は今年もドラマを作る。沖縄の嘉手納高校が一勝をあげてくれた。リオオリンピックと甲子園でラジオとテレビのチャンネルもカチャカチャと目も耳も休まる暇がないのだ。

さらに加えて、月遅れ盆と旧盆が重なって忙しさに輪をかける。ウチナー[※1]では年配の人はシチグヮチソーグヮチと言う言葉を使う。シチグヮチは７月であり、ソーグヮチは新年である。シチグワチは旧暦7月つまりお盆を指す。3日間のお盆に一ヶ月を当てるのはそれ程大きい行事だというのであろう。このお盆、いつ頃から始まったのだろうか。地域により諸説があるだろうが、こんな話がある。お釈迦様の弟子に目連という方がいた。目連は或る日、亡くなった両親があの世でどうしているだろうかと気になり、お釈迦様に相談したところ、神通力で目の前に様子を写して見せたのである。父親は極楽で静かに暮らしていたが、母親は地獄の餓鬼道に堕ちて哀れな姿である。飢えていて何かを食べようとすると口の前で燃えてしまう。目連は大いに悲しみ、何とか母親を助けることは出来ないだろうかと尋ねると、修行僧・高僧達に頼み、果物・ごちそうを供え、経文を唱え、供養することで、道は開かれるだろうとのことである。目連はそれを実行して3日3晩の供養を続けた。有難いことに、母親は餓鬼道から脱けることが叶ったのである。これが7月13日、14日、15日であった。この事が村から村へ、国から国へ伝わり、広がっていった。これがお盆の起源の一つであるという。人々は自分達の亡くなった親やご先祖様を供養し、感謝を奉げるのである。地域によっては念仏踊りも伝えられている。これが沖縄のエイサーのルーツであるとも言われているが、今では郷土芸能として広く知られて大人気である。地域によっては新暦の盆・月遅れ盆・旧盆と月日が異なり、やり方も色々と違っていて面白いが、やはり「心は一つ」であると思う。

我が家でも13日のウンケー[※2]から朝・昼・夜の三度の食事でトートーメー[※3]のウトゥイ

ムチ※4をする。果物やお菓子で一杯に飾りつけた仏壇に線香が煙っている。ヤマト※5育ちの妻の、地元の人にも勝るウトゥイムチにトートーメーは殊の外お喜びだろうと思うのである。兄弟や親戚の人達が入れ替わりやって来て線香をあげる。みんな車で来るので滞在時間が短く、ハーエーナーエー※6なのが少し物足りない。また、小生も親戚回りに出かける。本家と母方の実家、上の代の交流のあった親戚を回る。時にはもっと親交を深めようとゆっくりする事もある。2年前に母の実家へ行った時、先客さんが座っていた。線香をあげてから同席した。従弟の母親方の親戚だ。お互い紹介してもらって話し易くなった。従弟が言う。「こちらの息子さんはフランスにいるんですよ。」

「エッ、フランスですか？イイですね。たまには帰ってきますか？」

「イイエ、全く帰りません。」

「お盆にも帰りませんか？」

「帰りませんね」

「そうだ、フランスにもボンはありますからね。」

「エッ！フランスにですか？」

「はい、セッシボンと言いますが･･･」

傍らの奥さんが小さくクスッと笑った。2人はキョトンとしている。駄洒落の空振り3振は気の抜けたコーラのような味がする。

ウークイ※7の夜である。仏壇のお供え物を玄関のテーブルに移し、お見送りである。これはお土産という訳である。5歳と3歳の孫達も小さな手を合わせてウートゥトゥ※8とやるから可愛らしい。3日間、歓待を受けチトゥを抱えて帰途につく。ご先祖様達を羨んで嫉妬して行く所のない迷い霊達が道中を邪魔しないように、この者達には食べ物の切れはしやダンゴなどをンバシ※9の葉に包んで「これでガマンしてネ」と持たせる。これをミンヌクという。生命のリレーで自分達を生んだ親、ご先祖様達を敬い大事にすることは自分自身を大事にすることに通ずる。デジタルの時代、ITの時代、人口知能が主役になってもこの行事は続いてゆくのだろうと思う。熱中症が多発し、国内外のイベントが盛り沢山だった8月が終わり、ここ沖縄でも秋の気配を感じるのである。

橋の下

※1：沖縄県
※2：旧盆の初日。「お迎え」の日。
※3：お仏壇
※4：お世話
※5：年配の方が時に本土のことをヤマトと言う。
※6：急ぎ足。そそくさ。
※7：旧盆の最終日。「お送り」の日。
※8：仏壇に手を合わすさま
※9：クワズイモ

誌上ギャラリー（裏表紙）について

上：「旅のスケッチ（ベトナム）」水彩画 by 小那覇 幸子（おなは薬局）
中央：「斎場御嶽（せーふぁうたき）」photo by 伊集 智英（くはら薬局）　撮影地：南城市知念
左下：薬草園だより「ウコンの花」撮影地：沖縄県薬剤師会“薬草園”
右下：「サンゴの群生」photo by 吉田 洋史（吉田薬局はんたがわ店）　撮影地：宮古島市の伊良部島

女性薬剤師部会 薬草園だより

ウコンの花が咲きました。薬草園を手掛けた時、真っ先に植えたウコン。約3年になりました。多年草なので植えっぱなしですが、毎年季節を感じては、芽を出してくれます。そうそう、此処に植えたんだよね。。。と思ったのは春。葉っぱが大きくなった夏、そしてこの季節に花が咲くので、秋ウコンです。さわやかなピンクとグリーンのパステルカラーの花が、根元から15センチくらいの所に咲いています。置かれた所に咲く。。。そう言っているようです。I wonder was philosophical too...?

（女性薬剤師部会　与儀 和子）

新入職員紹介

よろしくお願いします！

石川（いしかわ） 有美子（ゆみこ）
会営薬局うえはら
薬剤師
城西大学卒

神山（かみやま） 侑子（ゆうこ）
会営薬局うえはら
薬剤師
城西大学卒

会報原稿募集のご案内

どしどしお寄せ下さい！

広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。
広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】
写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】
皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。
・誌上匿名は可能です。
・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】
勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。
同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】
会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）
沖縄県薬剤師会事務局 大城まで　〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930　FAX 098-963-8932　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

編集後記

暦の上では秋なのに、まだまだ残暑厳しい毎日。いかがお過ごしだろうか。会社を設立して18年経つが、このたび弊社の4店舗が10周年を迎えた。10年は節目の年である。翻ってみると山あり谷あり、紆余曲折の日々。10年前のビジョンが今に至っているかどうかは別にして「よく頑張ったな」と感慨深い。さて、沖縄県薬剤師会も節目の年であり「創立90周年」を迎える。先人の思いが今に繋がり、今の思いが未来に繋がっていくのだ。10年後、100周年を迎える立派な沖縄県薬剤師会の姿。我々にはそれが見えている。（宮）

今回の診療報酬改定後に講習会や勉強会が例年に比べて増えたと思われる。嬉しいことだ。かかりつけ・健康サポート・地域包括ケアなどのキーワードをもとに、今後薬剤師に求められることが多くなっているからであろう。学ぶ場が増えるに伴い、県薬事務局スタッフの講師選定や日程調整、会場運営などの業務も増えているが…。事務局スタッフの皆様方、いつもありがとうございます。（みつなり）

ソウルへ２泊３日の弾丸ツアーを決行した。市内では鉄道もホテルもデパートもWi-Fiが無料で使えて相当便利なことに驚いた。満喫し帰宅してから、夢の中では日本語と韓国語と英語が飛び交っている。勝手に字幕も出るが、果たして当っているのか･･･。（いさ吉）

電子薬歴を導入してはや2年になる。居宅用電子薬歴として利用しているノートパソコンのモニター部分が壊れてしまい買い換えることにした。しかし･･･「パソコンなんてみな同じ」と言うやや若手の薬剤師の主張を受け入れて中古のパソコンを購入した。ところがデータを入れ替えて使い始めてみるととてもとても今までと同じパソコンとは思えない。カーソルはすぐ行方不明になるし、漢字変換がまるでだめなのにはまいってしまった。漢字変換が全くうまくいかず後はひらがなで入力する羽目になっていた。「グーグル辞書を入れると良い」というありがたいアドバイスを受けてやってみたら、醜いアヒルの子が白鳥になるがごとく、漢字変換もスイスイとなり、入力ストレスは解消！カーソルが想定外の動きをするのは、別の原因だったようで、よくは分からないがちょっとした操作で良くなっているような気がする。これで当分は我慢することにしよう。（ピアナ）

先日、子供と近くの川に遊びに行った。なかなかどうして、沖縄にもきれいな湧水の池？川？があり、他にも複数の親子連れや子供が遊びに来ている。そんな中、一部の大人が、わき出る水をペットボトルで汲んで、飲料水にしている。確かに見た目はとてもきれいな水だが飲料水として良いかは、はなはだ疑問だ。よく見るとその大人は当薬局に来ていた患者さんで、ピロリ菌の除菌失敗の経歴を持つ。コンプライアンスが悪かったためと思っていたがここにも原因の一端があるのでは･･･、と思えた。（松）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　http://www.okiyaku.or.jp　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事　務　局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932　■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946　■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1　TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1　TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報　第283号　平成28年9月29日発行

◇次号は、平成28年11月初旬発行予定です。

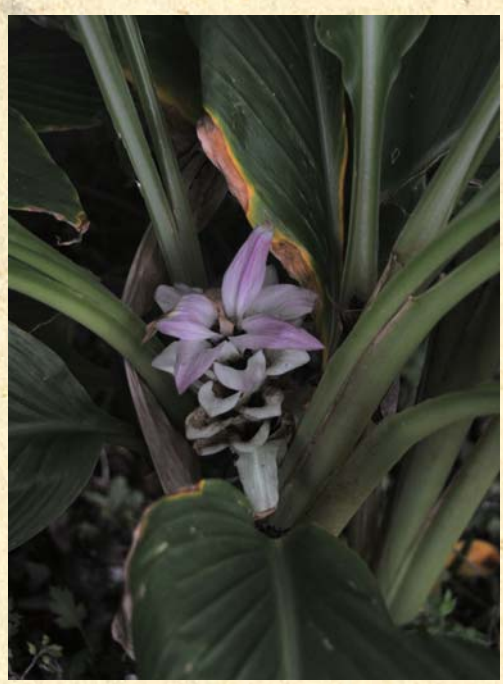
発行人：沖縄県薬剤師会　会長　亀谷浩昌

編　集：広報委員会　委員長／宮城敦子　委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ　久米島通信員／山城晶　宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／宮良善朗　事務局／大城喜仁

印　刷：有限会社 Skill

誌上ギャラリー
（会員作品）
お気軽にご投稿下さい。

女性薬剤師部会
薬草園だより



定価四〇〇円（会員の購読料は含会費）